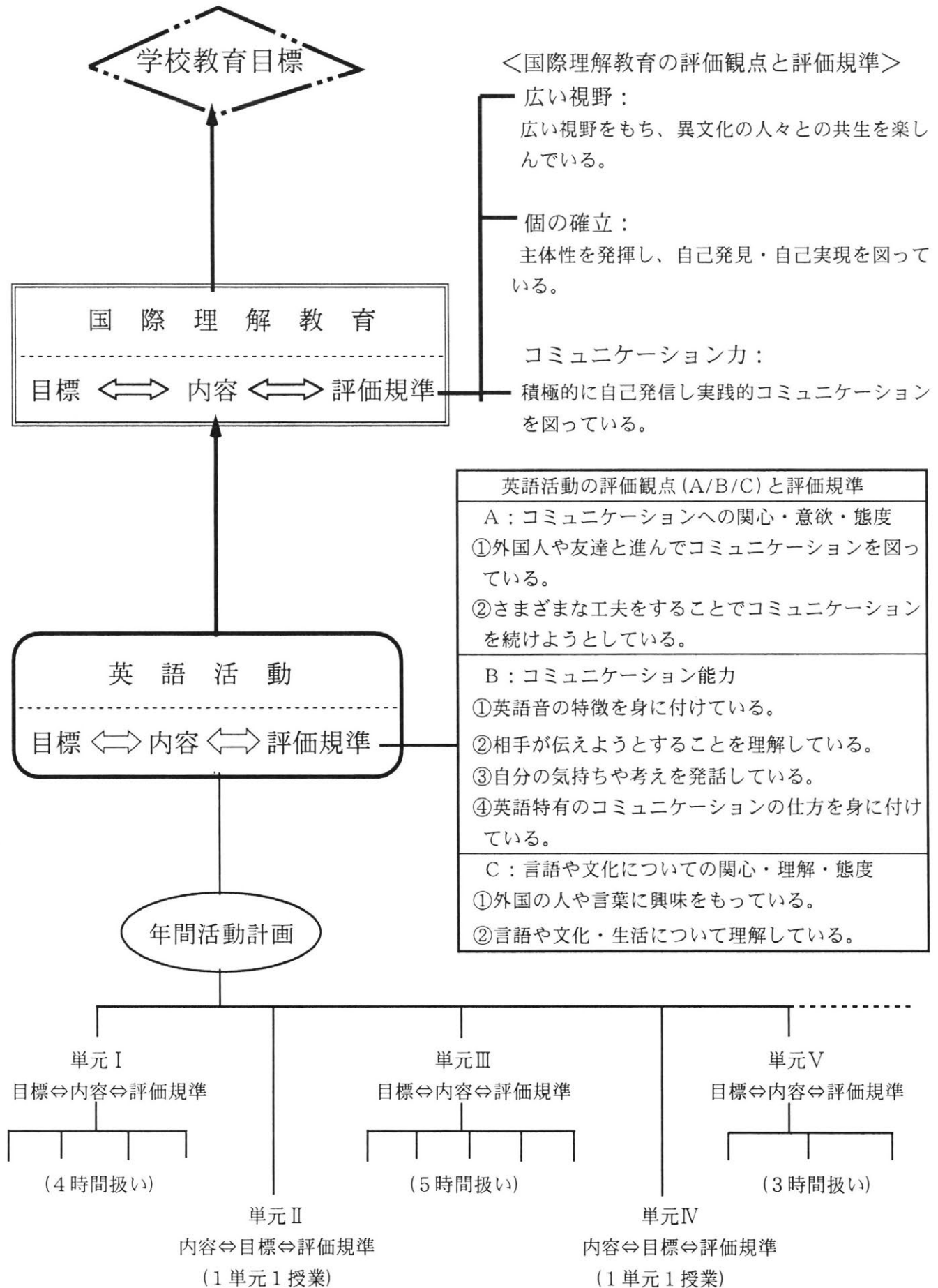
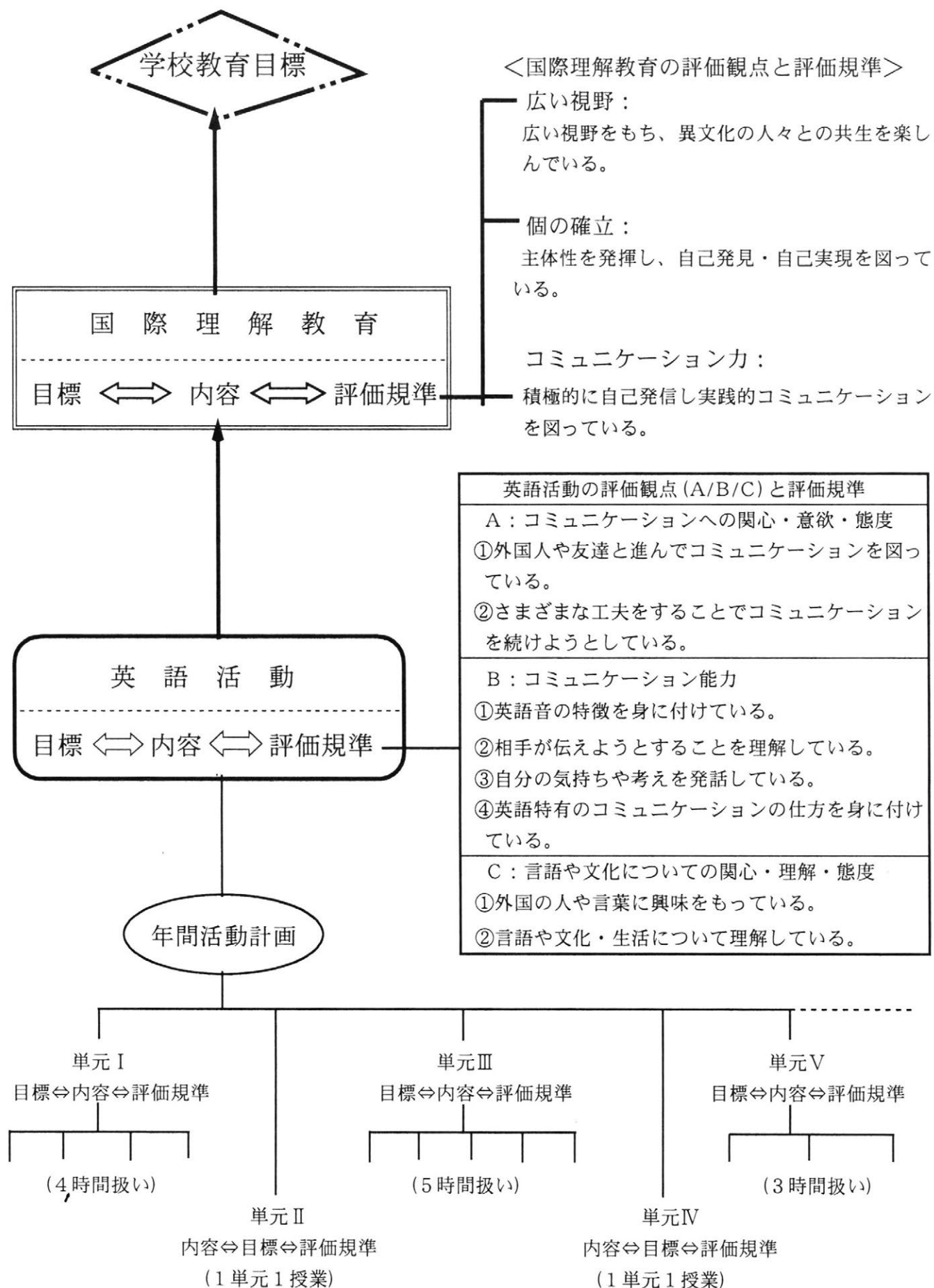


「指導と評価の一体化」に拠る小学校英語活動計画の進め方



*各単元における評価規準は各時間ごとに策定・運用する。

「指導と評価の一体化」に拠る小学校英語活動計画の進め方



* 各単元における評価規準は各時間ごとに策定・運用する。

小学校における英語教育の理論的・実際的研究： 指導と評価の一体化を軸とする学校教育研究の進め方

はじめに

2005年度、文科省の調査によれば、全国の90%以上の公立小学校で英語活動が実施されている。しかしながら、その実態はさまざまである。例えば、指導体制についていえば、担任が一人で「英語を教えている(?)」ところもあれば、ALTに任せっきりの学校もある。また、教育内容についても、英語を使ったコミュニケーション活動(英語活動)ではなく、言語そのものの習得をねらいとして実施しているところもあれば、ただ単に、英語を使って遊びのような授業をしているところもある。いわゆる教育目標と教育内容並びに教育成果等とのつながりが見えない授業を行っている。すなわち、「子どものどのような資質・能力(学力)を育てようとしているのか」が見えない授業である。そのような学校では、英語を導入したカリキュラムの成果について保護者や地域の人々にどのように説明責任を果たしているのであろうか。

研究代表者は、平成4年度に公立小学校で英語を取り入れた教育が始まって以来、現在まで300校以上の公立小学校の学校教育研究を支援してきており、上記のような学校の実態をたくさん見てきた。最近では、品川区、さいたま市、成田市(以上、教育構造改革特区)、北区、豊島区、三鷹市、黒部市等における地域で推進する小中連携(一貫)英語教育改革を支援しているが、そのような地域では、実施している教育成果について説明責任を果たさねばならない。したがって、ただ単に英語を取り入れた授業をしていけばよいというわけにはいかない。

それでは、どのような教育理念で、何をどのような枠組みでどの程度行えば、誰もが納得できる学校教育研究を推進することができるのであろうか。英語活動を取り入れた小学校教育は、どうあるべきなのか。英語活動の目標、教育内容と教材作成、指導法と評価の在り方、指導体制、学校の環境作りなどについて、何をどのように進めればよいのであろうか。さらには、保護者や地域の人々に説明責任を果たすには、何をどうすればよいのであろうか。この種の悩みは、あちこちで聞かれる。本研究プロジェクトは、このような疑問に答えるためにスタートした。2年という短い研究期間ではあったが、ほぼ月1回、休日を利用して研究活動の会を開き、上述の課題解決に向けて精力的に研究してきた。

なお、本研究で、日本の小学校英語教育の目標を設定するにあたり、下記に示す義務教育の最終段階である中学校外国語科の教科目標を重視した。したがって、実際研究の一環として開発したカリキュラムにおいても、中学校外国語科が目指すアウトプットを出発点且つ到達点とした。

中学校外国語科の目標：

「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」

(『中学校学習指導要領外国語編』)

最後に、本研究報告書が、地域や自校で小学校英語教育を推進する上で多少ともお役に立てば幸いである。また、本研究を進めるにあたり、財団の関係者をはじめ、学校関係機関より多大なご協力を仰いだ。心より謝意を表したい。

目次

1章 研究の概要

- 1. 研究の目的 7
- 2. 研究の背景 9
- 3. 研究経過と内容 10

2章 小学校英語教育の理論的研究

- 1. 小学校英語教育の進め方 14
- 2. 国際理解教育の目標を踏まえた小学校英語教育の目標と評価規準の設定 18

3章 小学校英語教育の実践

- 1. 小学校英語教育の目標と評価規準に拠る英語活動指導案
 - 低学年用活動案①「これ なーんだ？」 24
 - 低学年用活動案②「ゆかいな動物園へ行こう」 34
 - 中学年用活動案①「世界のファーストフード」 48
 - 中学年用活動案②「日本のお正月を外国の人に伝えよう」 62
 - 高学年用活動案①「新・お店ごっこ」 72
 - 高学年用活動案②「バレンタインデーって、なに？」 88
 - 高学年用活動案③「こんな人になりたいな」 98
- 2. 小学校英語教育の目標と評価規準を踏まえた年間活動計画 110
- 3. 小学校英語教育の目標と評価規準に拠る評価の研修 118

4章 資料編

- 1. アンケート調査結果 121
- 2. 参考にした文献等 134

1 章

研究の概要

1. 研究の目的

平成4年度、小学校における英語教育(英語活動)の実験は始まった。そして、これまでその研究実践の先駆的役割を果たしてきた文部(科学)省研究指定開発学校では、各校が教科として独自のカリキュラムを開発し、さまざまな実践に取り組んできた。その各校の研究報告書によれば、予算面やそれに伴う外国人講師の配置数、授業時数、そして教育内容など、いわゆるカリキュラム編成において、一般の公立小学校の校内研究の条件とは多くの点で異なる。しかしながら、指定校と非指定校における教育成果のエッセンスとしては、英語活動を通して児童の「コミュニケーションへの積極性(意欲)」が育まれたことであろう。ただ、そのような資質を含め、児童のコミュニケーション能力の教育成果の評価方法は、児童や保護者への簡単なアンケート等を含め、教師の主観に頼らざるを得ない状況であったと思われる。

この英語活動の評価の在り方や方法については、これまでの小学校英語教育の研究は到達目標である評価規準を持たないか、評価規準を作成していてもそれを用いた検証授業研究を行ってこなかった。そのため、英語活動を通して児童の資質・能力の面で「何がどの程度育まれたのか」が正確且つ具体的に明示されてこなかった。しかし、そのように英語活動の教育成果が不明確だと教育成果の説明責任を果たすことが出来ないばかりか、カリキュラムを編成したり、改善する際に、全体目標と活動内容さらには到達目標との関連性を密にした設定が難しくなる。学習者の適正な学習評価が評価規準に拠ってなされないと、単なる活動の実施に終わるか、仮に、活動中に児童が英語によるコミュニケーション力を示していても、その評価に対して、教師は、根拠のない主観による評価をしてしまう恐れがある。

また、一般に、地域や自校で開発する英語活動のカリキュラムは自作であるため、そのカリキュラムの内容についても、地域や自校で開発した評価規準を用いて評価する必要がある。したがって、学習評価とカリキュラム評価の双方の結果に基づいた授業改善をしない場合は、地域や自校が育もうとする子ども像の実態と合わない活動目標を設定したり、活動内容を実施することになり得る。

そこで本研究会では、これらの課題を洗い出すために、これまで積極的に英語活動に取り組んできた先進校を中心に『小学校英語教育に関する実施状況調査：2004』*1)を実施した。その調査の結果、各学校における英語活動の目的と活動の成果間において、その整合性は、ほとんど見られなかった。例えば、下記の表に示す調査質問⑨「英語活動の実践によってどのような効果が認められますか」(成果・変容)への回答と、調査質問⑩「英語活動を通じて、児童のどのような資質や能力を育みたいとお考えですか」(目的)に対する回答とを比較検討してみると、その内容や回答数において大きく異なっていることがわかる。*2)

さらには、この調査結果の内容については、自校の評価規準に拠る回答ではない場合が多いので、回答内容の客観性と信頼性においても問題があると言わざるを得ない。なぜなら、もし授業者によって、評価規準が明示され、指導計画通りに授業が行われ、その結果、単元目標が達成されれば、双方の質問間には整合性が見られるはずである。しかし、現状では英語活動の目的と成果に関連性が認められない。このような教育課題を解決していくには、学習評価とカリキュラム評価の双方の観点から授業改善を図り、英語活動の目的と活動成果の関連性が明示される小学校英語教育を推進していくことが必要である。

一方、児童の「心的発達に応じた関心事や積極性(→主体性)」を重視した小学校における英語教育では、これまでの研究・実践結果から、児童の異文化への関心やコミュニケーション力が高まるだけ

でなく、「生きる力」の根幹となる自己確立や共生の資質・能力などの育みも期待してよいことが分かっている。そこで、本研究では「指導と評価の一体化」の観点からそのような資質・能力の育成に関する理論的・実際的研究を行うことにより、「生きる力」の育みにも繋がる小学校英語教育の在り方をより一層鮮明にすべきであると考えた。なぜなら、英語活動を通して、国際教育の真髄である「共生の心」や現代の教育課題である「個の確立」をも育むことが出来ることはたいへん望ましいことだからである。

また、中学校の外国語(英語)科における主目標である「実践的コミュニケーション力の育成」には、中長期間を要することから、義務教育の7～9年間を見通した到達目標の設定が重要となる。その意味でも、本研究では、小学校英語教育の到達目標(評価規準)等を明示することにより、その全体目標・教育内容・教育評価の在り方等を重視した「指導と評価の一体化」を軸に、今後の中学校教育との連携を図るための理論的・実際的研究を行うこととした。

表1 現行英語活動の成果と目的の一覧 (調査質問⑨と⑩への回答一部抜粋)

< 成果・変容 > (回答数)	< 目的 > (回答数)
1. 英語に対する態度 (192校)	1. 国際理解 (179校)
2. 外国人に対する態度(151校)	2. コミュニケーションの態度(175校)
3. その他の態度面 (141校)	3. コミュニケーション能力 (26校)
<ul style="list-style-type: none"> ・多方面で積極的になった ・恥ずかしがらずに自己表現できる ・明るく挨拶するようになった ・友達関係が良くなった ・積極的なコミュニケーション ・多様な見方・考え方 ・他教科と異なりぴのび学習できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを伝え、相手の事を理解する能力 ・自分の考えを持ち、発信できる力 他
4. 国際理解 (119校)	4. その他の能力面 (90校)
5. 話す力 (50校)	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング力 ・豊かな自己表現力 ・簡単な英会話力 ・正しい発音 ・語彙力 ・問題解決能力
6. その他の能力面 (48校)	5. その他の態度面 (72校)
<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング力 ・正しい発音 ・豊かな自己表現力 ・語彙力 ・簡単な英会話力 ・問題解決能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・物怖じせず外国人と接する意欲 ・英語を楽しもうとする姿勢 ・社会的視野を広げようとする姿勢 ・日常で英語を使おうとする態度 ・何事にも挑戦していこうとする態度 ・学習を楽しむ態度、学習意欲 ・進んで人と関わろうとする態度、共生心
7. 聞く力 (26校)	
8. 言語に対する態度 (23校)	

* 1) 財団法人 日本教材文化研究財団 小学校英語教材開発研究会 2004

* 2) 詳細は「4章 資料編」(P.120～134) 参照

2. 研究の背景

「はじめに」でも述べたように、2005年度現在、全国の90%以上の公立小学校で英語活動（英語によるコミュニケーション活動）が行われている。しかし、その実態はさまざまである。先ず、量的には、教育構造特区のように地域ぐるみで英語活動に取り組んでいるところがあるかと思えば、ある学校では、特定の学年だけが実施しているところもある。次に、質的には、教育目標と教育内容並びに教育評価とのつながりが不明なところが多い。つまり、「この活動で、子どものどのような資質・能力（学力）が育まれるのか」が見えない授業が多い。そのような学校では、その教育成果について保護者や地域の人々に対して、どのように説明責任を果たしているのだろうか。

では、英語活動を取り入れた小学校の英語教育は、どのような教育理念と方法で行えば誰もが納得できる学校教育研究になるのだろうか。例えば、英語活動の目標や内容の構築は、何を軸とすればよいのか、指導体制はどうすればよいのか、英語活動の指導方法や教材はどうするのか、説明責任を果たすための評価の在り方と方法はどのように行えばよいのかなど、課題は山積みである。本研究は、そのような課題解決のためにスタートした。一連の問題を学校経営戦略の観点から、学校教育研究の在り方と方法についてサポートできればという願いを込めて研究に取り組んだ次第である。

3. 研究の経過と内容

趣旨および目的

小学校においては、平成 14 年度から「総合的な学習の時間」が導入され、その学習活動のひとつとして「国際理解」が課題となっている。現在、国際化の進展に伴い、国際社会の中で日本人としての自覚を持ち主体的に生きていく上で、必要な資質や能力を養う教育が求められているのである。

その方法として、さらに学習の一環として小学校における英語活動がクローズアップされている。小学校英語はこの国際化・情報化の時代の中で、その必要性が高まり、近い将来、教科あるいは必修となる可能性もいわれている。

しかしながら、教育現場では新しい分野であること、小学校の先生方は英語の教員免許をもたないこと、教科でないことなどから戸惑いも多く、取り組む姿勢に悩む先生方も多く見受けられる。

そこで本研究では、国際化に対応する教育を進める上での留意点に則り、子どもたちが頭だけで学ぶのではなく、体験的な学習を取り入れ、実践的な能力や資質、態度を育成することのできるカリキュラム作成のモデルを示すものとする。

研究の組織

委員長 渡邊 寛治 国立教育政策研究所 総括研究官 (文京学院大学 教授)

委員 浅田田鶴子 港区立筭小学校 教諭

委員 杉村和加子 多摩市立竜が峰小学校 教諭 (稲城市立若葉台小学校 教諭)

委員 渡邊 浩章 成田市立平成小学校 教諭 (成田市立公津小学校 教諭)

* () 内は 2005 年現在

●研究の経過

(1) 平成 15 年度においては、主として次のことに取り組んだ。

- ① 英語活動指導案の作成および検討
- ② 小学校での取り組みについて、小学校へのアンケート調査 (4 章 資料編 P.121~133)
 - ・ 平成 15 年 11 月~12 月に実施
 - ・ 1031 校に依頼し、500 校より回収 (回収率 48.5%)
- ③ 小学校英語活動の枠組み (目標・趣旨・評価の観点) の検討

(2) 平成 16 年度においては、主として次のことに取り組んだ。

- ① 英語活動指導案の作成および検討
- ② 指導案の検証 (授業実践)
- ③ 年間指導計画の作成および検討
- ④ 報告書の構成の検討・作成

報告書に添付する授業実践ビデオの編集・検討

●研究の内容

・1年次（平成15年）の研究内容

月	回数	内容
4/26	第1回	小学校英語の現状とあるべき姿の共通認識
		本研究の方向性についての共通認識
5/18	第2回	指導案作成にあたっての考え方の確認
		英語活動の評価観の共通認識
6/21	第3回	指導案の発表・検討
		英語活動の目標と評価規準の検討
8/4	第4回	指導案の発表・検討
		英語活動の目標と評価規準の検討
9/14	第5回	指導案の発表・検討
		アンケート項目の検討
10/25	第6回	アンケート項目・実施要領の確認
		英語活動の目標と評価規準の検討
11/22	第7回	英語活動の目標と評価規準の検討
11月～1月		郵送アンケートの実施・回収・集計
1/17	第8回	アンケート中間結果の分析
		英語活動の目標と評価規準の検討
2/21	第9回	英語活動の目標と評価規準の検討
2月～3月		アンケート結果報告書の作成・協力校への送付
3/28	第10回	国際理解教育の目標と評価規準の検討
		指導案の検討

・ 2 年次（平成 16 年）の研究内容

月	会議	会議内容及び研究内容
4/24	第 11 回	国際理解教育の評価規準の検討
		指導案の検討
5/22	第 12 回	国際理解教育、英語活動の評価規準の検討
		指導案の検討
7/24	第 13 回	国際理解教育の評価規準の検討
		指導案の検討
		研究報告書の構成の検討
9/12	第 14 回	指導案の検討
		研究報告書の構成の検討
		検証授業の方法の検討
10/16	第 15 回	国際理解教育の評価規準の検討
		指導案の検討
		研究報告書の構成の検討
		検証授業の方法の検討
11/13	第 16 回	指導案の検討
		研究報告書の構成の検討
		検証授業の方法の検討
11 月～12 月		検証授業の実施
12/11	第 17 回	年間指導計画の検討
		指導案の検討
		検証授業のビデオ作成方法の検討
1/29	第 18 回	検証授業のビデオ内容の検討
		指導案の検討
		研究報告書の執筆内容の検討
2/19	第 19 回	指導案の追加・修正
		年間指導計画の検討
		研究報告書の執筆内容の検討
3/27	第 20 回	指導案の追加・修正
		検証授業のビデオ内容の検討
		年間指導計画の検討
		研究報告書の執筆内容の検討
4/30	第 21 回	研究報告書の執筆内容の最終確認

2章
小学校英語教育の
理論的研究

1. 小学校英語教育の進め方

① 何から始めるべきか

学校長、研究主任は、まず、自校の教育目標と国際理解教育の位置づけを明確にすべきである。次に、国際理解教育における英語活動の位置づけも明確にする必要がある。英語活動は、国際理解教育の一環として行われるからである。また、英語活動を自校の教育目標とも関連付けておくべきである。なぜなら、英語活動は他の教科等と同様に、その学校の教育目標を達成するために行われるものだからである。

② 国際理解教育とは何か

では、国際理解教育とは何であろうか。文部科学省（初等中等教育局国際教育課）は、国際理解教育について次のように述べている。

「国際社会の中で、主体的に生きていく資質や能力の育成」

そして、そのキーワードとして、「異文化と共生できる資質や能力」、「自己の確立」、「コミュニケーション能力」の三つを掲げている。これは、平成8年7月の中央教育審議会の答申「第2章：国際化と教育」の中に記述されている次の内容に基づくものである。

- イ) 広い視野をもち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること。
- ロ) 国際理解のためにも、日本人として、また、個人としての自己の確立を図ること。
- ハ) 国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育成する観点から、外国語能力の基礎やコミュニケーション能力の育成を図ること。

この三つの内容と自校の教育目標との関連性について、校内の全教員で検討し共通認識を持つことが大切である。

③ 英語活動の成果とは何か

英語活動の目標等を設定する際、英語活動の成果について知る必要がある。これまで、全国の小学校で行ってきた英語活動で育まれる子どもの資質や能力は、概ね次のとおりであろう。

- イ) 子どもたちの外国の言語や文化への興味・関心が高まる。
- ロ) 英語音に対する耳慣れと発音の基礎基本が概ね身に付く。
- ハ) 英語で相手の意向を概ね理解する力が身に付く。
- ニ) 外国人と臆することなくコミュニケーションを図る態度が身に付く。
- ホ) 英語圏における文化の特徴である「言語・非言語を通して伝えあう」ことの大切さを知る（§ 国語教育で求められている「伝え合う力」に通じる）。
- ヘ) 英語圏における文化の特徴である「自分の気持ちや思いをしっかりと持ち、自分で決定し、自分で表現行動する」ことの大切さを知る。
- ト) 英語活動を通して、子どもたちは自己発見・自己実現する。その結果、「積極性や主体性」、「自信」等を得る。

これらは、自校の英語活動の目標や具体的な到達目標である評価規準を作る際の参考になる。

④ 指導体制はどのようにすべきか

担任が中心となり、ALT（外国語指導助手）またはJTE（日本人指導助手）とのTT体制をとることが望ましい。これには、二つの重要な意味がある。まず、なぜ担任が中心となるべきかについては、担任はその学校の教育成果について責任をとるべき立場にあることと、児童のことは担任が最もよく知っているからである。次に、担任が単独で指導するより、TT体制をとり、英語のモデル音についてはALTが、そして、その後のコミュニケーション活動では全員で活動を楽しむことが大切である。なぜなら、担任が活動に参加することで児童の喜びは増すだけでなく、その担任も変容する可能性が大きいからである。その結果、児童を見る目が複眼的になる場合が多い。また、児童と一体化になることで、その後の学級経営も上手いく（§もし、担任が単独で行う場合の英語のモデル音については、CDなどのソフト教材を使うことが望ましい）。

⑤ 英語活動の指導案は、誰が作るのか

次の二つの理由で、担任が作成する。一つは、その学校の教育の責任をとるのは担任だからである。もう一つは、英語活動を通して「子どものどのような資質・能力を育もうとするのか」を考えるのは、担任の役目だからである。尤も、一般に、担任は英語のプロではないので、指導案の英語の部分についてはALT等の力を借りればよい。

⑥ 英語活動指導案を作成する際の留意点は何か

最も留意すべきことは、「一回一回の活動は何のために行うのか」を明確にすることである。英語を使って楽しむコミュニケーション活動が「自校の教育目標とどのような関連性をもつのか。その活動を通して子どもの何が培われるのか」を明確にする必要がある。

次に、留意すべきことは、活動の主役は子どもたちであって、指導者ではないということである。とかく教師はそのことを忘れて教師主導型の授業をしがちであるが、「生来、子どもには自ら己を育む力がある」ことをもっと尊重すべきである。したがって、「なぜ英語でコミュニケーションをするのか」という動機付けを高めることに留意し、指導案を作成しよう。

⑦ 指導方法の留意点は何か

文部科学省は、『小学校英語活動実践の手引』（開隆堂、2001）の中で、次のような指導上の配慮事項を示している。

- 小学校段階にふさわしい体験的な学習を行う。
- ネイティブ・スピーカー、海外生活体験者などを活用する。
- 言語、文化に興味・関心を持たせる。
- 文法や単語の知識を教え込まない。
- 中学校の英語教育の前倒しをしない。
- 英語はおもしろいという動機付けを行う。
- 学習段階に応じた指導を行う。
- その他、身近な英語を扱う、音声を中心とした活動を行う。

上記の『手引』には、「・・・言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要・・・」（p.3）と記述されている。したがって、子どもの「したい」「言いたい」こと、子どもの好奇心を大切に「主体的」な活動案を作成し、指導することが重要である。

⑧ 教材作成上の留意点は何か

最も留意すべき点は、「子どもの興味・関心は何か」というポイントをおさえた体験重視の活動が可能な教材を作成または選定すべきである。具体的には、次の点に留意すべきである。

● 全学年に共通するポイント

- イ) コミュニケーションを楽しむことができる活動
 - ロ) 身体表現を取り入れた言語活動と五感（とくに視聴覚）に訴える活動
 - ハ) 子どもの「気持ち」を主体的に発信するコミュニケーション活動（やらせは禁物）
- ニ) 外国や日本の言語や文化に触れたり親しんだりする活動

● 高学年のポイント

- イ) 単純な繰り返し練習などは避けること
- ロ) 子どもの「(気持ちだけでなく) 思い」も主体的に発信するコミュニケーション活動（やらせは禁物）：（§ 例えば、調べ学習の成果等を英語（と日本語）で発表する活動）

教材を作成したり選定するとき、最も優先すべきことは「子どもの興味・関心のある事柄や題材を設定することが先決」である。言語材料は最後に準備すればよい。なぜなら、言語材料を優先して作成したり選定すると、文法など言語のルール等に習熟する学習活動になりがちで、児童（特に高学年）の関心・意欲を削ぐからである。言語体系の習得は、中学校以降の教育でしっかり身に付けることが望ましい。

⑨ 英語活動の評価の留意点は何か

－到達目標（評価規準）に準拠した指導と評価の一体化－

「教育は評価に始まり、評価に終わる」といわれる。この言葉は、「教育内容を変えたければ、評価の在り方も変えねばならない」また、逆に「評価の在り方を変えたければ、教育内容も変えねばならない」ということを意味しており、指導と評価は一体化であるべきだということを示唆している。

このことを、先ず、中学校の外国語科教育において考えてみたい。中学校外国語科の教科目標は、次のとおりである。

「外国語を通じて、①言語や文化に対する理解を深め、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、③聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」（番号は筆者が付記）

このことを受けて、『中学校学習指導要領 外国語編』では、外国語科の教育内容は、「言語活動」を第一義に掲げ、その言語活動をするために「言語材料」を用いると規定している（§ 1969年の改定時の告示によれば、外国語科の教育内容は、それまでの「言語材料」を学習するための「学習活動」から「言語活動」に改められたことになる。ということは、「言語活動（言語によるコミュニケーション活動）」は、35年以上前から行われていることになる）。

したがって、外国語科の教育内容が、教科目標を達成するために「学習活動」ではなく、「言語活動」をしなければならないとなると、その評価の在り方と方法も、言語活動を通して育まれる生徒の資質・能力を見取らねばならないことになる。現在でも続いている単語や文を、「定着のためにただ単に覚えたりする学習活動」やその努力の結果をペーパーテストで測定し評価する方法は変えなければならないということである。なぜなら、外国語科の教育内容が「学習活動」から「言語活動」に変わったからである。しかしながら、もし、評価の方法をペーパーテストから変えないとなれば、外国語科の教育内容も「言語材料」を学ぶための「学習活動」に変えねばならないということになる。なぜなら、

ペーパーテストでは、実際に ALT とのコミュニケーション活動で見せる生徒の資質・能力を測定し評価することはできないからである。

小学校英語教育の評価の在り方と方法も、上述した内容とほぼ同様である。では、その評価のし方はどのように進めればよいであろうか。具体的には、ベンチマーク訓練をする必要がある。ベンチとは、ジャッジする人（裁判官）のことで、自校の教員全員がベンチとなり、英語活動における子どもの変容ぶりをマーク（採点・記録）する訓練をすべきである。なぜなら、コミュニケーション活動を楽しんでいるときの子どもの変容は、ペーパーテストでは見とることができないからである。したがって、活動時の状況を評価（プロセス評価）することになる（§このような評価法を「パフォーマンス評価」といい、目に見えにくい学力も含めて人の資質・能力を総合評価する際に用いられる）。

では、パフォーマンス評価をするためには、評価の規準が必要となる。その規準（具体的な到達目標）は、地域や自校で作成すべきである。地域や自校の子どもは、地域や自校の責任で育てることが原則だからである。また、英語活動は、自作のシラバスで実施する関係上、その評価規準を用いてカリキュラム評価もしなければならない。地域や学校の独自性を発揮する教育の成果については、各自で説明責任を果たすことが義務づけられているからである。教育構造改革特区では、すでにそのような教育を行っている。

具体的には、授業を行った後、予め掲げた評価規準を抛りどころに全教員で協議を行う。「今日の授業は、ねらいを全うしていたかどうか、すなわち、指導案の活動場面で示す評価規準に抛れば、子どもたちの目は輝いていたかどうか、規準が示す到達目標を達成していたかどうか」「国際理解教育のねらいや自校の育てたい子ども像（学校教育目標）との関連性は、どうだったか」「到達目標を達成するための教材と指導法は適切だったか」などについて真剣に協議する必要がある。その際、全員がジャッジ理由も述べ、意見交換することが大切である。そうすることで、その学校の評価観が安定し、保護者からも信頼を得ることになるからである。

このような研究活動をしていると、教員一人ひとりの教育の在り方に対する姿勢が変容する。おそらく、評価規準を抛りどころに活動の指導案を作成することで、授業内容のねらいも鮮明になるため、活動も引き締まり、育てたい子どもの姿が見えてくるからであろう。また、教員一人ひとりの子どもたちに対する見とり方が明確化されることで、その学校の評価の在り方と方法も安定してくるといえよう。これこそ、今求められている「指導と評価の一体化」に関する研修である。

2. 国際理解教育の目標を踏まえた小学校英語教育の目標と評価規準の設定

ア. 評価規準策定の前提となるもの

英語活動評価規準を策定するには、その前提となるものを作成する必要がある。第一に、平成8年7月の中央教育審議会第一次答申や学習指導要領をもとに国際理解教育の目標を想定した。

表1 国際理解教育の目標

- | |
|---|
| ①広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること (広い視野) |
| ②国際理解のためにも日本人としてまた個人としての自己の確立を図ること (個の確立) |
| ③国際社会において、相手の立場を尊重しつつ自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育成する観点から、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図ること (コミュニケーション力) |

これまで全国で取り組んできたコミュニケーション重視の英語活動の教育成果を俯瞰的な視点で見ると、平成13年度より国立教育政策研究所が学習指導要領を基に作成した中高の外国語科の評価規準(到達目標)だけでは、子どもの変容を見取ることが難しい場合がある。どちらかといえば、国際理解教育の広い観点から評価した方が適切な場合がある。特に、児童が「積極性・主体性」を発揮できるコミュニケーション体験活動を中心にある一定の長い期間、実践を積み重ねている学校では、そのような成果が見られる。そこで第二に、上記の国際理解教育の目標に照らして、評価の観点と評価規準を下記の通り策定した。

表2 小学校英語活動における国際理解教育の評価規準

評価の観点	評価規準
広い視野	広い視野をもち、異文化の人々との共生を楽しんでいる。
個の確立	主体性を発揮し、自己発見・自己実現を図っている。
コミュニケーション力	積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。

第三に、中学校外国語科の目標と評価規準を参考に、小学校英語教育の目標、評価の観点及びその趣旨を設定した。

表3 小学校英語教育の目標

英語活動を通じて、外国の言語や文化に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

表4 小学校英語教育の評価の観点及びその趣旨

評価の観点	評価の観点の趣旨
A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
B:コミュニケーション能力	簡単な英語を聞いたり、用いたりして、互いの気持ちや考えを伝え合う。
C:言葉や文化についての関心・理解・態度	言語やその背景にある文化などに興味を持ち理解する。

ところで、評価規準は、表3の目標や表4の評価の観点と趣旨を参考に作成する。その評価規準は、実際に運用することが大切である。評価規準は、学習者の学習評価だけでなく、カリキュラム評価にも使うべきである。また、規準の文言を簡単にして学習者自身の自己評価にも使える。つまり、指導者、評価者と学習者が評価規準、すなわち「共通の軸」を持って授業に参加し、自らの教えや学びを具体的に振り返り、その結果を次時以降に生かしていくことが大切である。

評価規準は具体的な到達目標を表しているので、到達目標に拠る「指導と評価の一体化」を目指すことは、指導計画（英語活動指導案）を作成する段階でも、活動の目的や期待できる成果を事前に見通すことにも役立つ。さらに目標・内容・評価の三位一体化を図っていけば、活動計画や指導の改善が容易になる。その結果、小学校英語教育の目標が達成され、ひいては国際理解教育の目標も具現化されることにつながる。

ところで、この目標・内容・評価の三位一体化は、当然のようで当然ではない。なぜなら、小学校における英語教育の目標や内容は、未だ明確でなく、その評価の在り方も定まっていな現状において、各学校や地域の教育機関が小学校英語の体系化を図らなくてはならないからである。そのためには到達目標（評価規準）に拠る「指導と評価の一体化」の実現を通して、研究実践を集大成していくことが不可欠である。

以上のような前提条件を踏まえて小学校英語教育の評価規準を策定した。

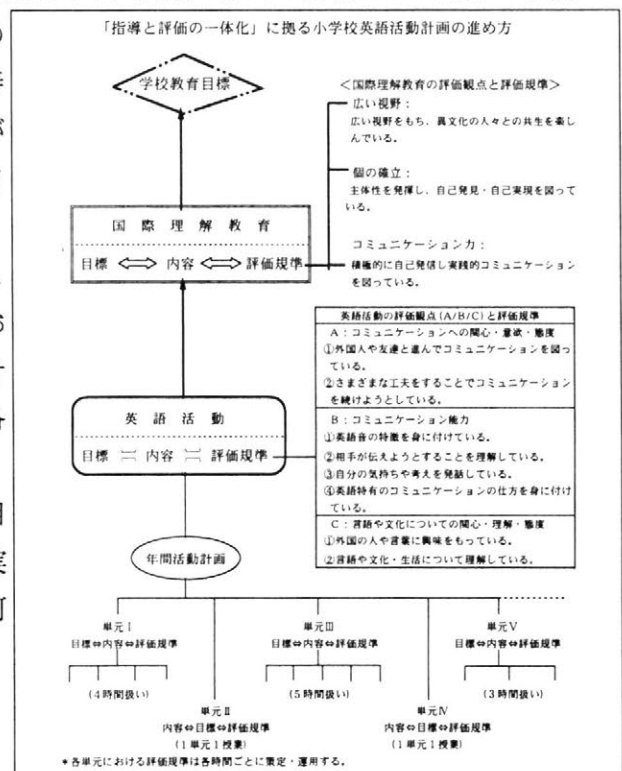


図1 目標・内容・評価の三位一体化を目指すもの

イ. 評価規準の作成方法

各単元の評価規準は、個々の活動案の作成を通して活動場面や評価の場면을イメージしながら作成する。その際、その規準は、その単元の活動内容が単元目標を全うするかどうかをチェックする役目を担う。したがって、そのような規準を集約して文言の調整を図り、最後に、活動案の規準のエッセンスのみをまとめたものが、その地域や自校の評価規準となる。しかしそれで完成したわけではない。その規準を実際に運用し、「指導と評価の一体化」の授業検証を重ねながら改定していく必要がある。なお、その評価規準を改定する場合は、全体の目標や内容を十分吟味しながら行うことが大切である。

表5 小学校英語教育の評価規準

A	① 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。
	② さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。
B	① 英語音の特徴を身に付けている。
	② 相手が伝えようとすることを理解している。
	③ 自分の気持ちや考えを発話している。
	④ 英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。
C	① 外国の人や言葉に興味をもっている。
	② 言語や文化・生活について理解している。

ウ. 「指導と評価の一体化」の具体的方策

到達目標に照らして活動内容を定め、その到達目標（評価規準）に拠る評価場面を想定する。具体的には、その目標を到達するには、どのような活動内容と指導方法を行い、自校の英語活動評価規準をもとに、どの場面で評価するのが適切か、児童の実態を踏まえて入念に検討する。そして、その評価計画を活動案に明確に位置づけることが重要である。さらに自己評価カードや観察チェックシート等にも各時間のテーマや評価規準を明記する。このような工夫により到達目標を抛りどころに、学習者と授業者（並びに評価者）が英語活動の授業改善を図ることが可能になる。このような教育活動を「指導と評価の一体化」という。

例えば、担任を授業者、補助教員を評価者とした場合、先ず、授業前に評価規準と評価場面、「おおむね満足」の具体的な解釈等について、コンセンサスを得るための確認を行う。次に、授業後、カリキュラム評価について、「全体としておおむね満足かどうか」、学習者の学習評価として個々の観察において「十分満足」と「努力を要する」状況についても、それぞれに該当する児童の評価結果を互いに確認する。仮に、ALTが派遣される場合でも、各時間の到達目標について話し合い、授業後に児童の活動の状況について意見交換をするとよい。

したがって、到達目標（評価規準）による「指導と評価の一体化」の具体的方策とは、これら教師の評価規準に照らした観察による評価結果を、児童の自己評価結果も合わせて、次の授業、さらには活動計画全体の改善にその都度生かすように努めることをいう。

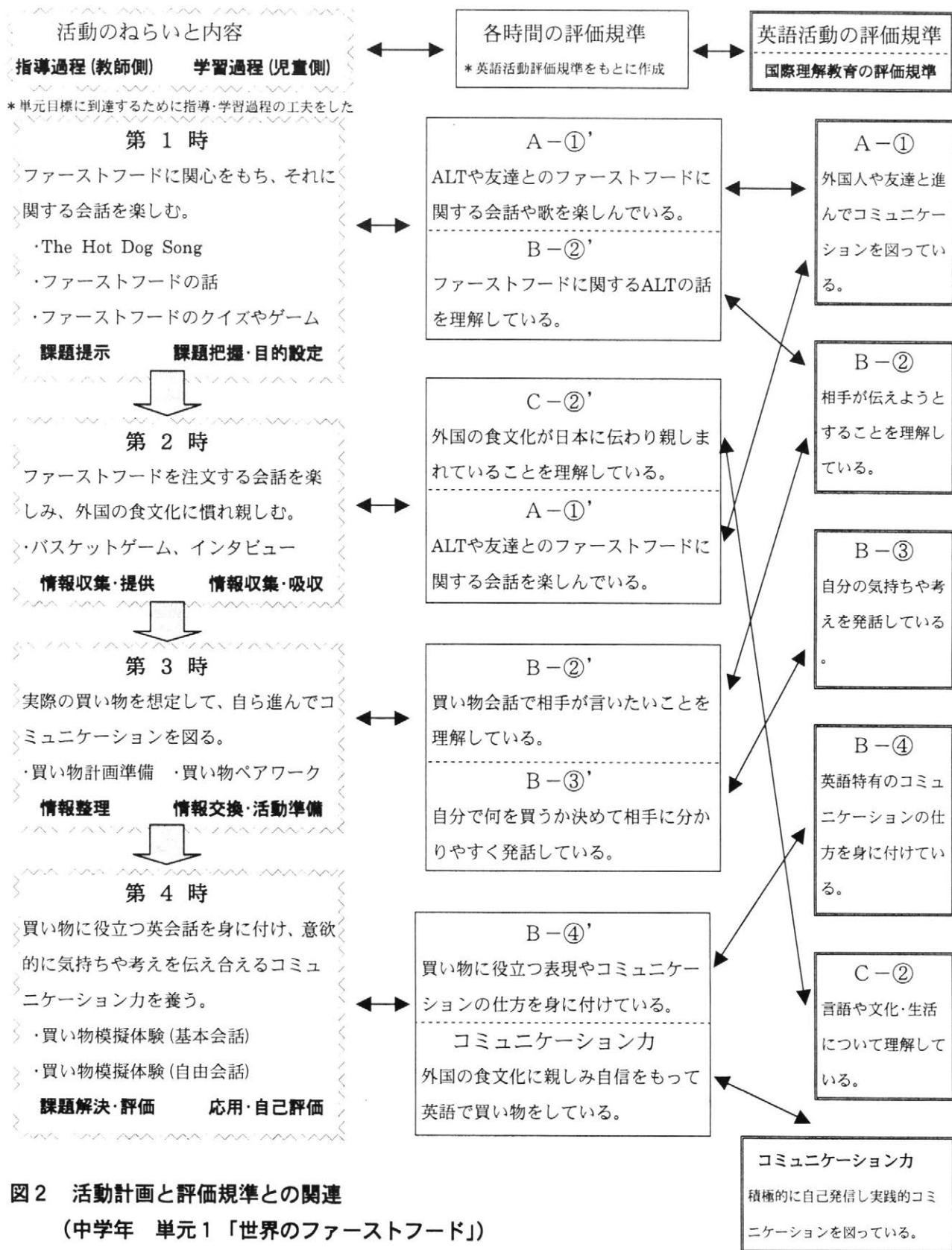


図2 活動計画と評価規準との関連
 (中学年 単元1「世界のファーストフード」)

なお、担任単独の指導体制の場合もあると思われるが、その場合は、学習者全員の学習評価は不可能である。そこで、1回の授業につき、例えば、本時では5人と決めて重点的に評価する。ただし、その場合でも、決められた5人以外の児童について「おおむね満足」状況の評価できる時は、それらも合わせて記録し、評価の総括に生かすとよいであろう。

3 章

小学校英語教育の実践

低学年活動案①

「これ なーんだ？」

1 単元名 これ なーんだ？

2 対象学年 低学年

3 単元の目標

- ・ 質問したり答えたりしながら、自分の考えを相手に伝え、楽しくコミュニケーションを図る。

4 単元設定の理由

英語活動を始めたばかりの頃、取り上げる言葉は、食べ物とか動物の名前など身近な物の名前（名詞）が多い。しかし、子ども達の日常生活を見ていると、意外に様子を表す言葉（形容詞）が多く使われていることに気付く。たとえば、友達の持ち物を見て、「この消しゴム、かわいい。」とか「そのTシャツ、かっこいい！」といった具合である。確かに、“Wow, cute!” “Yes, cute!” を使うと主語（名詞）がなくても簡単に相手と気持ちを伝え合い共感することができる。

そこで、様子を表す言葉を英語活動に取り入れたいと考え、様子を表す言葉を使って何か楽しい活動はないかと探し、箱の中身当てゲームを思いついた。これは、普段お楽しみ会等でよく行なわれているゲームだが、低学年でも高学年でもまた大人がやっても楽しくできる。普通は箱の中に手を入れた人が、その感触で物の名前を言うのであるが、ここでは、その人が触ったり見たりした感じを周りのみんなに伝え、周りの人が何かを当てるルールにした。そうすることで子ども達は形容詞に注目し、この言葉を手がかりに、気持ちや感情、さらには思いを伝える力が身に付くと考えたからである。また、ゲームを盛り上げるためには、「泳げる」「飛べる」などをヒントを言うときに使えと、さらに相手にわかりやすく伝わるので、～can swim. 等の言い方も取り入れることにした。

以上のことから本単元を設定した。

5 評価規準

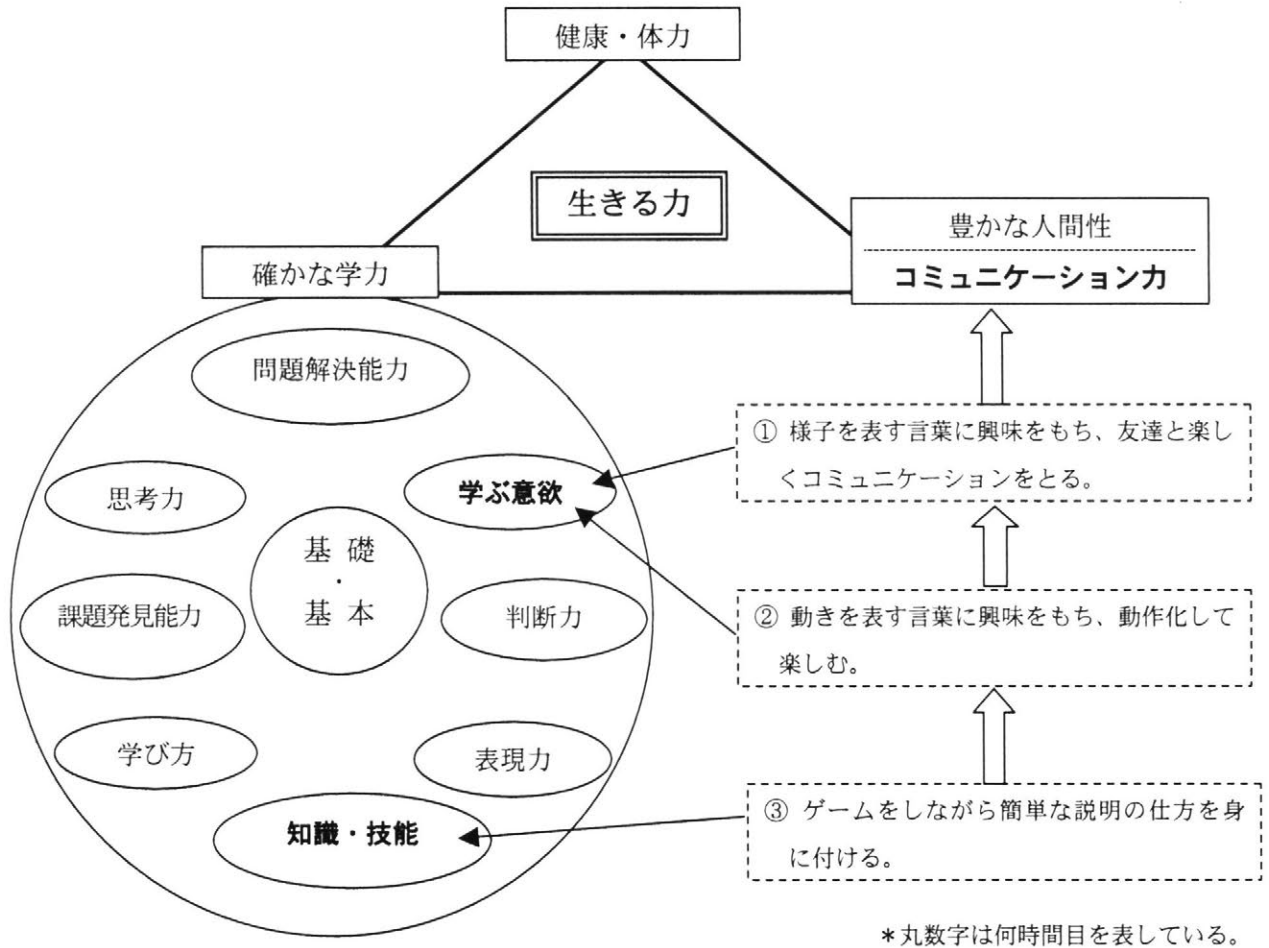
(1) 本単元における国際理解教育の評価規準

(コミュニケーション力) 積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。

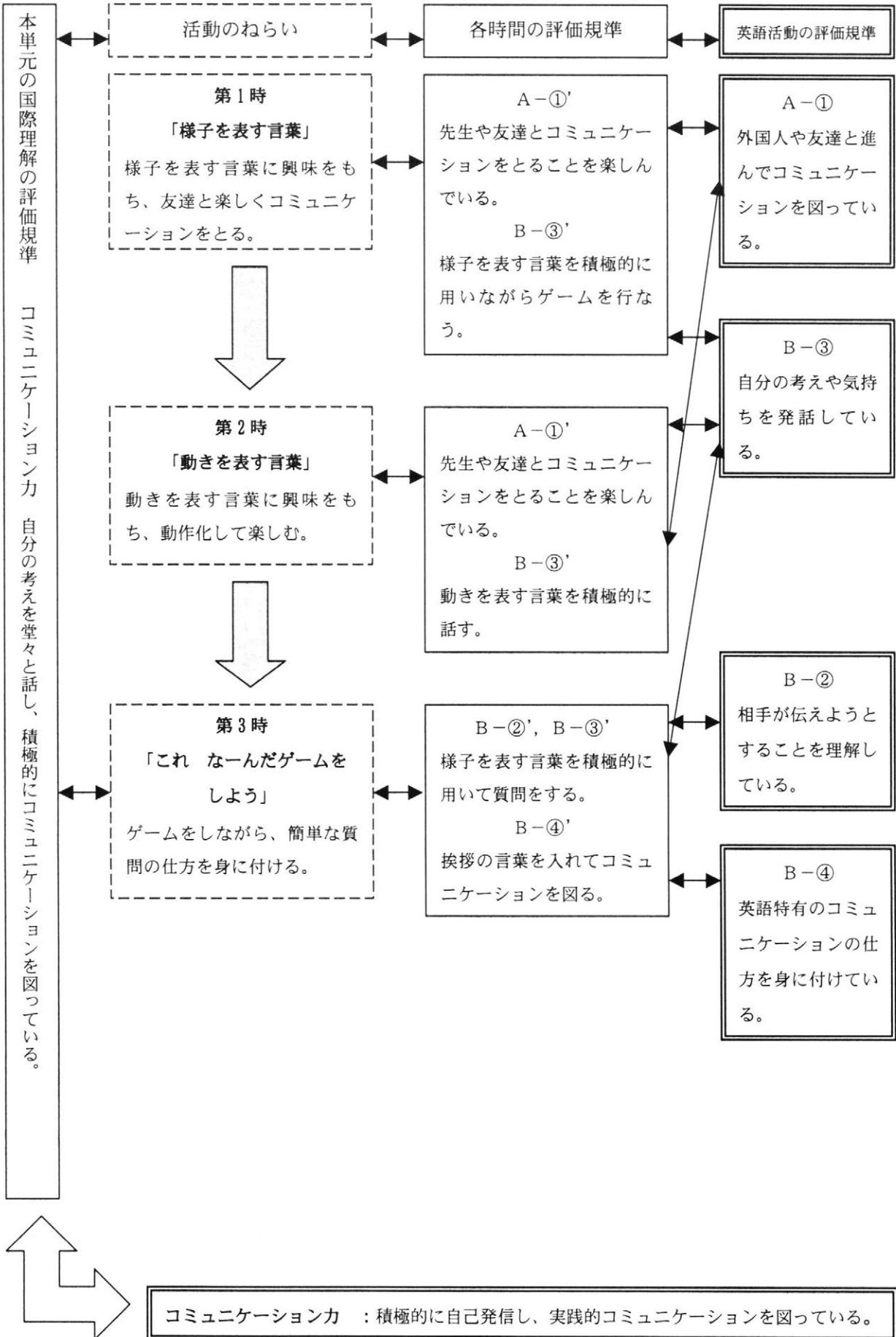
(2) 本単元における英語活動の評価規準

- (A-①) 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。
- (B-②) 相手が伝えようとすることを理解している。
- (B-③) 自分の気持ちや考えを発話している。
- (B-④) 英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。

6 各時間のねらいと「生きる力」の育成との関連図



7 活動計画と評価規準の関連



8 活動展開例

□ 第1時

本時のねらい 様子を表す言葉に興味をもち、友達と楽しくコミュニケーションをとる。

本時の評価規準 (B-③') 様子を表す言葉を積極的に用いながらゲームを行う。

(A-①') 先生や友達とコミュニケーションをとることを楽しんでいる。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等																						
挨拶 2分	1. あいさつ																								
導入 5分	2. ♪Freeze Game の曲にあわせて自由に体を動かす ・“Freeze”という言葉が聞こえたら、動きを止める。	・自由に踊らせると楽しいが、もし恥ずかしがるようであれば、“Walk”, “Jump” などと動きを指定する。	・音楽テープ																						
提示 15分	3. 絵カードを見ながら様子を表す言葉 (以下形容詞) を知る <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>long</td> <td>short</td> <td>big</td> <td>small</td> </tr> <tr> <td>heavy</td> <td>light</td> <td>soft</td> <td>hard</td> </tr> <tr> <td>tall</td> <td>short</td> <td>thin</td> <td>fat</td> </tr> <tr> <td>cute</td> <td>delicious</td> <td>round</td> <td>sharp</td> </tr> </table> </div> ・教師の真似をして動作をしながら声に出して言う練習をする。 ・動物や食べ物・身の回りの物などの絵カード (以下名詞カード) を見ながら、その絵に合う形容詞を用いて気持ちや思いを伝える。 【B-③'】 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>elephant</td> <td>big (heavy)</td> </tr> <tr> <td>hamster</td> <td>small (cute, light)</td> </tr> <tr> <td>orange</td> <td>delicious (round, small)</td> </tr> </table> </div>	long	short	big	small	heavy	light	soft	hard	tall	short	thin	fat	cute	delicious	round	sharp	elephant	big (heavy)	hamster	small (cute, light)	orange	delicious (round, small)	・形容詞カードを黒板に掲示する。 ・ジェスチャーをしながら示す。 ・名詞カードを示し、それに合う形容詞を言わせる。	・絵カード ・絵カード
long	short	big	small																						
heavy	light	soft	hard																						
tall	short	thin	fat																						
cute	delicious	round	sharp																						
elephant	big (heavy)																								
hamster	small (cute, light)																								
orange	delicious (round, small)																								

提示 10分	4. 質問のしかたを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の仕方を示す。 ・カードを見せ、“Is it big?” と質問し、答えさせる。 <div data-bbox="274 318 1133 444" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Q: Is it big ? A: Yes. (Yes, it is.) / No. (No, it isn't.)</p> </div>	・絵カード
活動 10分	5. マッチングゲームを行う 【A-①'】	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのやり方を説明する。 ・カードを配る。 <div data-bbox="274 606 1133 1004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・3～6人の班に分かれる。 ・名詞カードと形容詞カードを同数（10～20枚）用意し、それぞれ裏返しにしてバラバラに並べる。カードは混じらないように場所を分けておく。 ・一人ずつ、名詞カード・形容詞カードを一枚ずつめくりながら声に出して言う。 ・もし内容が合っていて適切な形容詞を言えればそのカードをもらえる。合っていない時はそのまま裏返す。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞カード ・形容詞カード <ul style="list-style-type: none"> ・様子を表す言葉を使って積極的にカードを取ることができたかを尋ねる。
挨拶 3分	6. あいさつ		

Notes :

形容詞カードは、1枚につき一つの意味とせず、1枚に対する意味（例 Long / Short Big / Small）をもたせてもよい。しかし、初期の場合は前者の方が分かりやすいであろう。

また、名詞カードと形容詞カードを色分けしておくこと、活動5のゲームで分かりやすい。

□ 第2時

本時のねらい 動きを表す言葉に興味をもち、動作化して楽しむ。

本時の評価規準 (B-③') 動作をしながら、動きを表す言葉を積極的に話す。

(A-①') 先生や友達とコミュニケーションをとることを楽しんでいる。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
挨拶 2分	1. あいさつ		
導入 5分	2. ♪Head, Shoulders, Knees and Toesの曲にあわせて体を動かす ・曲に合わせて体を楽しく動かし、気分をリラックスさせる。	・教師も音楽に合わせて楽しく踊る。	♪Head, Shoulders, Knees and Toes ・音楽テープ
提示 13分	3. 動きを表す言葉(以下動詞)を知る ・絵カードを見ながら、動詞を知る。 ・教師の真似をして動作をしながら声に出して言う練習をする。 ・教師の言う動詞に合った動きをする。 ・代表の児童が前に出て動作をする。 ・見ている児童はその動作に合う動詞を使って自分の考えを言う。 walk, run, jump, swim, fly, creep, move, talk, read, sing, listen, write, etc.	・絵カードを見せながら、動詞を知らせる。 ・ジェスチャーをしながら示す。 ・動詞を言って児童にその動作をさせる。 ・次々に代表児童を選び、ジェスチャーをさせる。 ・見ている児童にはその動作を英語で言わせる。	・動詞カード
提示 7分	4. 質問のしかたを知る ・教師の示す名詞カードを見ながら、質問に答える。 ・二人組になって、名詞カードを相手に見せながら、“Can it run?”と質問する練習をする。 Q: Can it run? A: Yes. (Yes, it can.) / No. (No, it can't.)	・第3時のゲームに備えた質問のしかたを教える。 ・言い方に慣れてきたら、動物や果物等の名詞カードを見せながら質問し答えさせる。 ・二人組で、質問をしあう練習をさせる。	・名詞カード ・名詞カード

活動 5分	5. サイモンセツゲーム 【B-③'】	・ゲームのやり方を説明する。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・代表が前に出て動作の命令をする。 ・命令の前に“Simon says”という言葉がある時だけ動作をする。 ・ないときに動作した児童はゲームから抜ける。 		
活動 10分	6. 伝言ゲームを行う。 【A-①'】	・ゲームのやり方を説明する。 ・グループごとに言葉を変えたり、 二つの動作をやらせてもよい。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループをいくつか作る。 ・先頭児童から順に、教師から伝えられた動作の言葉を伝言していく。 ・最後の児童は、伝言の動作を行う。 		
	7. ふり返りをする	・動作を表す言葉をたくさん使って楽しくゲームができたか感想を聞く。	
挨拶 3分	8. あいさつ		

Notes:

活動6の伝言ゲームでは、児童の状況によって“Command”, “No.1, Walk. No.2, Jump...”と
いうように、内容を複雑にしても面白い。

活動 15分	5. Guess What ゲーム PART 2 【B-④'】 【コミュニケーションカ】	・ゲームのやり方を説明する。	
<p> ・ゲームに使う絵カードを数枚、あらかじめ書かせておく。 ・二人組を作り、一人が問題を出す。相手はそれについて質問をしながら何かを当てる。 ・質問は3回までとし、当たったら、その絵カードをもらえる。 ・役割を交代する。 ・1回ずつゲームを行ったら、違うパートナーとゲームを続ける。 S1: Hi. How are you? S2: Pretty good. How are you? S1: Fine, thank you. S1: Let's play the game. Guess what it is. S2: Can it walk? S1: Yes. S2: Small? S1: No. S2: What color? S1: Black and white. S2: I guess it's a zebra. S1: Right. / Try again. </p>		・袋 ・絵カード (動物や食べ物等の絵を児童に書かせておく)	
	6. ふり返りをする	・様子を表す言葉をたくさん用いて質問できたかを尋ねる。	
挨拶 3分	7. あいさつ		

Notes:

活動5で使用の絵カードを書かせる時は、それまでに習った言葉に限定させるとよい。低学年では、果物や野菜等の身近な食べ物から始めるとよいであろう。その際は、Does it move? の質問は必要ない。

低学年活動案②

「ゆかいな動物園へ行こう」

1 単元名 ゆかいな動物園へ行こう

2 対象学年 低学年

3 単元の目標

- ・自分の考えを堂々と相手に伝え、積極的に楽しくコミュニケーションを図る。
- ・考えを伝え合うことで、互いに理解を深め、仲良くなろうという気持ちを育む。

4 単元設定の理由

低学年の児童の特徴として次のことが考えられる。

- (1) 恥ずかしがらずに歌を歌ったり踊ったりする。
- (2) 耳がよく、音を正確に聞き取る。
- (3) 言語を理屈で理解するのではなく、真似をしているうちに自然と自分のものにする。

そこで英語活動を行う際には、親しみやすいトピックと楽しい活動を取り入れながら、(1)～(3)の児童の特徴を生かした単元作りをしたいと考える。

まず、トピックとしては、子どもの本や動物園、キャラクター等で小さい子が親しみを感じていて大好きな“動物”を取り上げることにする。

例えば、♪They All Live in the Zoo には、A～Z までの26の動物が順に登場する。クマやシカ、ライオンなどおなじみの動物に加え、umbrella bird (かさどり) や quails (うずら) など、なじみのない動物も出てくるが、何回も歌って踊っているうちに、26の動物名を簡単に覚えることができる。歌いながらその動物にちなんだ動作をするわけだが、動作は、児童といっしょに考えると、児童もはりきるし覚えやすくなる。教師も先頭に立っていっしょに楽しく歌いながら踊るとよい。また、この歌には全アルファベットが出てくるので、アルファベットの音に触れる好機である。英語文字の基礎であるアルファベットに親しむことは、将来英語を読むときに役立つであろう。

しかしここで注意すべきことは、動物の名前を覚えることが主な目的ではないということである。英語については、むしろ活動中でよく使われる、I guess～. / I see～. / Right. / Try again. / Raise your hand. / Make pairs. などの Classroom English も含む日常生活の表現に慣れ親しむことである。そして、何よりも大切なことは、子どもが慣れ親しんだ言葉を用いて自分の気持ちや思いを相手に伝えるコミュニケーション力を身に付けることである。

以上のことから本単元を設定した。

5 評価規準

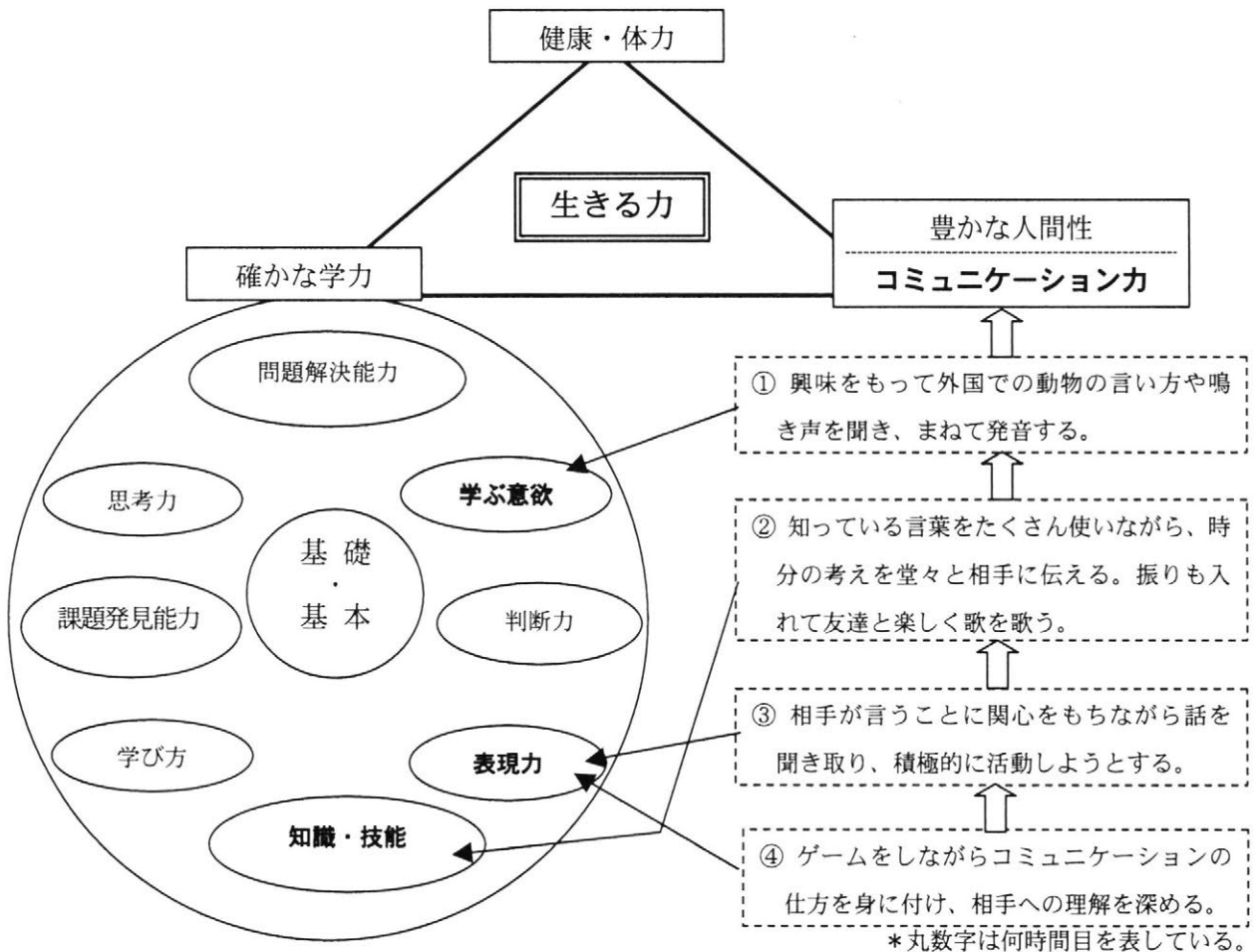
(1) 本單元における国際理解教育の評価規準

- (コミュニケーション力) 積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。
 (広い視野) 広い視野をもち、異文化の人々との共生を楽しんでいる。

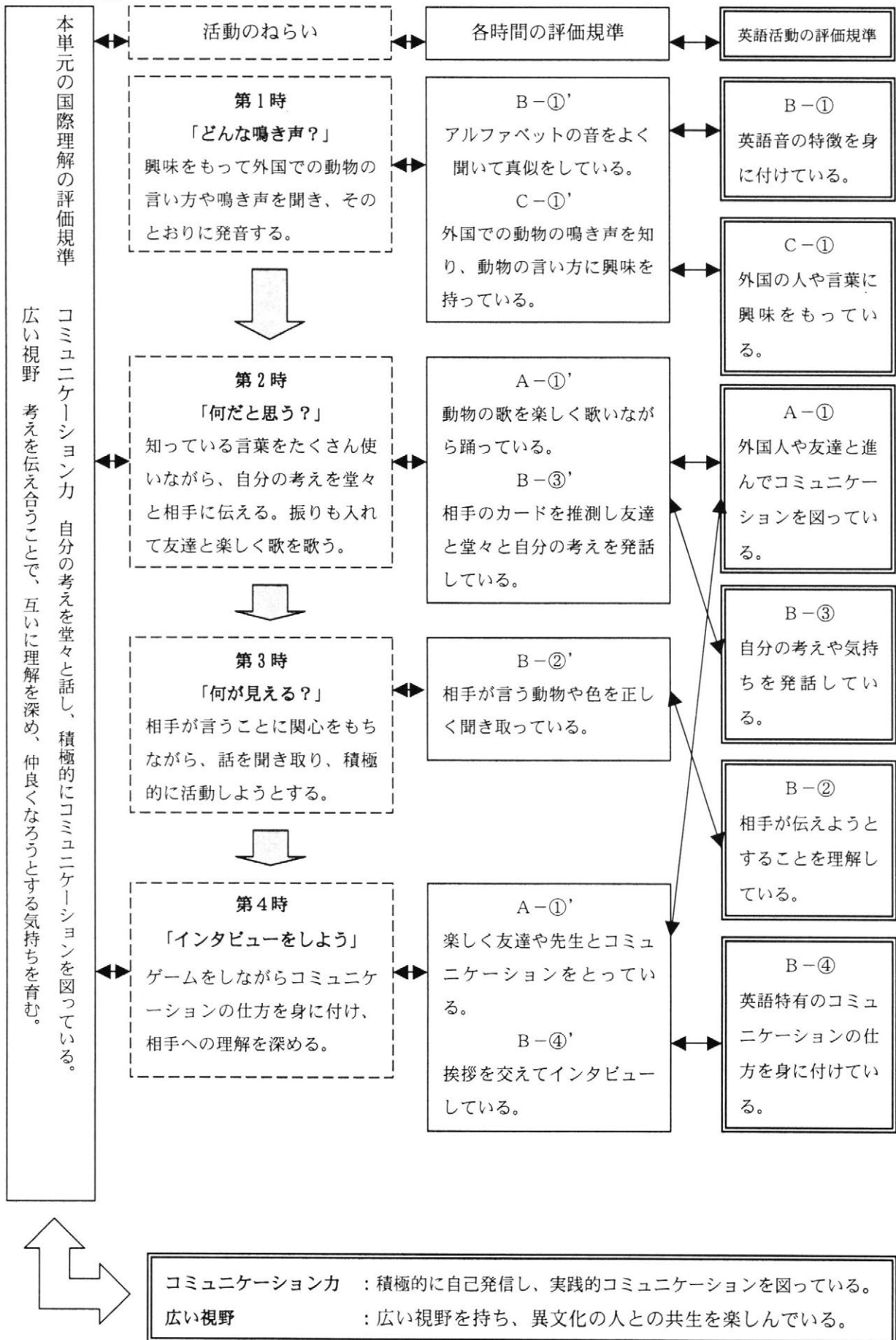
(2) 本單元における英語活動の評価規準

- (A-①) 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。
 (B-①) 英語音の特徴を身に付けている。
 (B-②) 相手が伝えようとすることを理解している。
 (B-③) 自分の気持ちや考えを発話している。
 (B-④) 英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。
 (C-①) 外国の人や言葉に興味をもっている。

6 各時間のねらいと「生きる力」の育成との関連図



7 活動計画と評価規準の関連



8 活動展開例

□ 第1時

本時のねらい 興味をもって外国での動物の言い方や鳴き声を聞き、そのとおりに発音する。

本時の評価規準 (B-①') アルファベットの音をよく聞いて真似をしている。

(C-①') 外国での動物の鳴き声を知り、動物の言い方に興味をもっている。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等																					
挨拶 2分	1. あいさつ																							
導入 10分	<p>2. A～Gの発音と動物の言い方を練習する。</p> <p style="text-align: center;">【B-①'】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><u>A</u>lligator, <u>B</u>ear, <u>C</u>row, <u>D</u>eer, <u>E</u>lephant, <u>F</u>ish, <u>G</u>orilla</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードに注目し、どのカードが無くなったか答える。 ・♪They All Live in the Zooの1番を音楽に合わせて振りをつけて楽しく歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A～Gの動物絵カードを順に黒板に貼りながら、発音と動物の言い方を、テープを聞かせて練習させる。 ・カードを1枚取り去り、消えたカードは何かを当てさせる。 ・教師も自ら先頭に立ち、振りをつけながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード (ワニ・クマ・カラス・シカ・ゾウ・さかな・ゴリラ) ・音声テープ ♪They All Live in the Zoo ・音楽テープ 																					
提示 15分	<p>3. 動物の鳴き声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカでの動物の鳴き声の表現を知り、国によって動物の鳴き声の表現が異なることに関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が動物の鳴き声を言い、児童に当てさせる。 ・当たったらその絵カードを黒板に貼っていく。 ・テープで鳴き声を練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード (ニワトリ・ネコ・ウシ・イヌ・ウマ・ブタ・アヒル・ヒツジ) 																					
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Rooster says, "cock-a-doodle-doo".</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: left;">COCK-A-DOODLE-DOO</td> <td style="text-align: left;">Rooster</td> <td style="text-align: left;">ニワトリ</td> </tr> <tr> <td>MEOOW</td> <td>Cat</td> <td>ネコ</td> </tr> <tr> <td>MOO</td> <td>Cow</td> <td>ウシ</td> </tr> <tr> <td>BOW-WOW</td> <td>Dog</td> <td>イヌ</td> </tr> <tr> <td>NEIGH</td> <td>Horse</td> <td>ウマ</td> </tr> <tr> <td>OINK-OINK</td> <td>Pig</td> <td>ブタ</td> </tr> <tr> <td>QUACK-QUACK</td> <td>Duck</td> <td>アヒル</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・鳴き声の伝言ゲームを行なう。 	COCK-A-DOODLE-DOO	Rooster	ニワトリ	MEOOW	Cat	ネコ	MOO	Cow	ウシ	BOW-WOW	Dog	イヌ	NEIGH	Horse	ウマ	OINK-OINK	Pig	ブタ	QUACK-QUACK	Duck	アヒル	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は“Oink-oink”など鳴き声を伝言する。 ・慣れてきたら伝言の言葉をいくつか組み合わせて複雑にしていくとよい。 	
COCK-A-DOODLE-DOO	Rooster	ニワトリ																						
MEOOW	Cat	ネコ																						
MOO	Cow	ウシ																						
BOW-WOW	Dog	イヌ																						
NEIGH	Horse	ウマ																						
OINK-OINK	Pig	ブタ																						
QUACK-QUACK	Duck	アヒル																						

活動 5分	4. クラップ言葉リレーゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのやり方を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人で班を作る。それぞれ異なる動物カードを1枚ずつもらい、ジャンケンで代表を決める。 ・全員で4拍子のリズムを取りながら2回拍手する。 ・代表は自分のカードの動物を言い、次に別の動物を言う。その動物カードを持っている人が次の代表になりゲームを繰り返す。 ・最初はゆっくりしたリズムで行い、慣れたら速くするとおもしろい。 </div>	・動物カード (小)
活動 10分	5. 鳴き声当てゲーム 【C-①'】	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのやり方を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一人8枚ずつカードを配り、二人組を作る。 ・一人が動物カードを見せ、“Cow says”と言う。 ・相手が“Moo.”と正しく答えられたら、そのカードを渡す。 ・1回ずつ問題を出し合ったら分かれ、別の人と二人組みになり、ゲームを繰り返す。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りをする。 ・外国での動物の鳴き声に親しむことができたかをたずねる。 	・動物カード (小)
挨拶 3分	6. あいさつ		

Notes:

活動2の歌、活動3の鳴き声に関わってたくさんの動物が出てくる。しかし、活動2の動物はこの1時間で覚えさせなくてもよい。このあと毎時間1番ずつ歌が進んでいくので、繰り返し歌って踊っていくうちに覚えられる。しかも、動物の振りをつけ体を動かして歌うので、小さい子は抵抗なく楽しみながら、自然に動物を覚えていけるであろう。歌のテープが手に入らないときは P.45, 46 の楽譜を見て、右手だけでよいのでテープにとっておくとよい。

活動2では、A～Gの音をフォニックスとして練習させたい。しかし、教師が自分で発音するのは難しいと思われるので、ALTやボランティア等を活用するとよい。

伝言ゲームの代わりにフライスワッター・ゲーム (Fly swatter = ハエたたき) を行うのもおもしろい。フライスワッター・ゲームは、絵カードを黒板に貼り、2～3人児童を前に出し、ハエたたきを持たせ、教師が言う鳴き声の動物をたたかせるもので、何年生がやっても楽しいゲームである。

□ 第2時

本時のねらい 知っている言葉をたくさん使いながら、自分の考えを堂々と相手に伝える。

振りを入れて友達と楽しく歌を歌う。

本時の評価規準 (A-①') 動物の歌を楽しく歌いながら踊っている。

(B-②') 相手のカードを推測し友達と堂々と自分の考えを発話している。

(コミュニケーション力) 自分の考えを堂々と述べ、コミュニケーションを図っている。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
挨拶 2分	1. あいさつ		
導入 20分	<p>2. H～Nの発音と動物の言い方を練習する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Horse, Inchworm, Jellyfish, Kangaroo, Lion, Monkey, Nightingale</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が手に持っているカードは何かを当てる。 ・クラップリレーをする。 ・♪They All Live in the Zooの1～2番を音楽に合わせて振りをつけて楽しく歌う。 【A-①'】 	<ul style="list-style-type: none"> ・H～Nの動物の絵カードを黒板に順に掲示しながら、発音と動物の言い方をテープを使って練習させる。 ・振りもつけて動物の言い方を練習させる。 ・動物の絵カードを裏返しにし、児童に提示する。 ・“Inchworm? Jellyfish?”などとたずね、そのカードを当てさせる。 ・カードは児童に覚えさせたい動物のカードを選ぶとよい。 ・3～5人のグループを作り、絵カードを1枚ずつ配る。 ・クラップリレーを行なわせる。 ・教師もいっしょに振りをつけて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード (ウマ・シャクトリムシ・クラゲ・カンガルー・ライオン・サル・トリ) ・絵カード ・絵カード (小) ♪They All live in the Zoo ・音楽テープ
提示 5分	<p>3. 様子を表す簡単な言葉を練習する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>big, small, soft, hard, long, short, cute, scared, etc.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーを交えて手本を示し、言葉の練習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード
提示 5分	<p>4. 封筒の中にある動物を当てる</p> <p>・“Guess what animal is it?” “It’s a lion.”の言い方を練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T: Guess what animal it is. S: It’s a lion. T: Yes. OK. / No. Try again.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・封筒に動物カードを入れ、“Guess what animal it is.”とたずね、何の動物か当てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・封筒 ・絵カード *封筒には窓(穴を開ける)をつけて、そこから動物の体の一部が見えるようにしておく。

<p>活動 10分</p>	<p>5. Guess What Animal ゲームをしよう 【B-②'】 【コミュニケーション力】</p>	<p>・やり方を説明し、カードを配る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・二人組を作り、動物カードを1セットずつ渡す。 ・一人が相手に動物の絵を見せないように提示し、“Guess what it is. What animal is it?”（何の動物だと思う？）と聞く。 ・聞かれた人は質問を3回までできる。答えが合っていたらそのカードをもらえる。 ・1回ずつ問題を出し合ったら、別の人と二人組になり、ゲームを続ける。 ・たくさんカードを取れた人の勝ち。 ・鳴き声を言う人は順に交代する。</p> <p>A: Hello. My name is Kenta. B: Hello. My name is Yuka. A: Let's play. Guess what it is. What animal is it? B: Big? A: Yes, big. B: It's an elephant. A: Yes. OK. / No. Sorry.</p> </div>	<p>・絵カード</p>
<p>挨拶 3分</p>	<p>6. あいさつ</p>	<p>・ふり返りをする。</p>	<p>・予想した動物がいくつ当たったか、また、堂々と自分の考えを言えたか尋ねる。</p>

Notes:

絵の一部を見せて、「これ、なーんだ？」と問題を出すと児童は目を輝かせて答える。これの英語版をやろうというのである。このゲームは推測させるよう、教材を工夫すればよい。ここでは、A4 サイズぐらいの封筒の一部を切り取り、そこから絵の一部が見えるという簡単なものにした。しかし時間がなければ、カードを教卓に隠し少しずつ出していくとか、カードを素早く一回転させて提示する方法もある。もし、児童が色や少々の形容詞を知っていれば、“It's brown.” “It's big.” など、言葉でヒントを与えるのもよいであろう。

I guess～. という表現でなく、ダイレクトに I guess を抜いて言わせてもよいが、「～じゃないかな」「～だと思う」という推測の表現も大切で、確信を持って話す時との違いを児童に伝えたい。

□ 第3時

本時のねらい 相手が言うことに関心を持ちながら、話を聞き取り、積極的に活動しようとする。

本時の評価規準 (B-②') 相手が言う動物や色を正しく聞き取っている。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
挨拶 2分	1. あいさつ		
導入 15分	2. ♪They All Live in the Zoo の1～3番を振りをつけて歌う ・O～Sの発音を練習する。 ・動物の言い方を振りを付けて練習する。 ・音楽に合わせて歌う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <u>O</u>ctopus, <u>P</u>ig, <u>P</u>iglet <u>Q</u>uail, <u>R</u>abbit, <u>S</u>nake </div>	・O～Sの動物の絵カードを黒板に順に掲示しながら、発音と動物の言い方を練習させる。 ・振りもつけて動物の言い方を練習させる。 ・教師は自ら先頭に立ち、振りをつけて楽しく歌う。	♪They All Live in the Zoo ・絵カード (タコ・ブタ・コブタ・ウズラ・ウサギ・ヘビ) ・音楽テープ
提示 10分	3. What do you see? -I see lions. の言い方を練習する ・質問する人、答える人の2グループに分かれ言い方の練習をする。 ・動物園のプリントを見ながら教師の言う動物を指で指す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> A: What do you see? B: I see lions. I like lions. </div>	・“動物園に行こう”と児童に呼びかけ、動物園のポスターを黒板に貼る。 ・言い方の手本を示す。 ・児童に動物園の縮小したプリントを配り、教師がI see ～と動物を言ったら、その動物を指で押さえさせる。	・動物園のポスター ・動物園の絵 (小)

<p>活動 15分</p>	<p>4. Funny Zoo の動物に色を塗ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に聞き取り色を塗る。 ・完成した塗り絵を見せ合う。 <p style="text-align: center;">【B-②'】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方を説明する。 ・活動3で用いたプリントに色を塗らせる。 ・ネイティブの人が授業に参加できる場合は、言ってもらおうとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色鉛筆
<ul style="list-style-type: none"> ・色鉛筆を用意させる。 ・いつもと違う Funny Zoo (変わった動物園) に出かけたという設定を説明する。 ・教師は “Look ! The monkey is green !” などと動物と色を組み合わせて言い、活動3で使った動物園のプリントに色を塗らせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・完成した絵を友達と見せ合いをさせる。 ・聞き取れなかった色があるか尋ね、もう一度その動物と色をゆっくり言う。 	
<p>挨拶 3分</p>	<p>5. あいさつ</p>		

Notes :

色と動物を同時に聞き取り、色を塗る作業は一見難しいように感じる。しかし子どもの耳は、大人が考えている以上に優れていて正しく聞き取ることができる。例えば、「オオカミ」は、大人はついカタカナ英語で「ウルフ」と覚えていることが多いが、ネイティブの発音は「ウォーフ」に近い。すると教師は「オオカミ」となかなか聞き取れないが、児童は簡単に認識できる傾向がある。だから、できればこの単元は担任一人では行わず、ALT 等が来る時をうまく活用するのが望ましい。

□ 第4時

本時のねらい ゲームをしながらコミュニケーションの仕方を身に付け、相手への理解を深める。

本時の評価規準 (A-①') 楽しく友達や先生とコミュニケーションをとっている。

(B-④') 挨拶を交えてインタビューしている。

(広い視野) 考えを伝え合うことで、互いに理解を深め、仲良くなろうとしている。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
挨拶 2分	1. あいさつ		
導入 15分	<p>2. T~Zの発音と動物の言い方を練習しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物の言い方を振りをつけて練習する。 ♪ They All Live in the Zoo を振りをつけて歌う。 音楽に合わせて歌う。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>Tiger, Umbrella bird, Vampire bat, Wolf, Fox, Yak, Zebra</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> T~Zの動物の絵カードを黒板に順に掲示しながら、発音と動物の言い方を練習させる。 振りもつけて動物の言い方を練習させる。 教師は自ら先頭に立ち、振りをつけて楽しく歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カード 音楽テープ <p>♪ They All Live in the Zoo</p>
提示 10分	<p>3. What is your favorite animal? の言い方を練習しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問する人、答える人の2グループに分かれ言い方の練習をする。 二人組になり、言い方の練習をする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>S1: What is your favorite animal? S2: Lion.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教師は言い方の手本を示す。 児童全員に一齐に質問させ、教師が答える。 教師が質問し児童に答えさせる。(この時の答えは教師が見せたカードの動物を答えさせる。) 児童を半分に分け質問・答えの練習をさせる。 	

<p>活動 15分</p>	<p>4. インタビューゲームをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを交えてインタビューゲームをする。 <p style="text-align: center;">【A-①'】 【B-④'】 【広い視野】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二人組を作り言い方の練習をさせる。 (この時の答えは児童の好きな動物を自由に言わせる。) ・ゲームの手本を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューカード ・鉛筆
<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューカードと鉛筆を持つ。 ・教室内を自由に歩き、相手を見つけインタビューする。 ・相手から聞いたことをカードに記入する。 ・違う友達を見つけインタビューをする。 ・時間内にたくさんの人にインタビューできた人の勝ちとする。 <p>A: Hello. My name is Chika B: Hello. My name is Kenta. A: How are you ? B: Fine, thanks. How are you ? A: I'm great. What is your favorite animal ? B: I like foxes. What is your favorite animal ? A: I like birds. Thank you. See you. B: Thank you. See you.</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く、好きな動物について話をする事ができたか、ふりかえりをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・友達への理解が増し、仲良く活動したか、また、あいさつも入れてインタビューしたかを尋ねる。 	
<p>挨拶 3分</p>	<p>5. あいさつ</p>		

Notes :

“What is your favorite animal ?” (好きな動物は何?) の質問に対して、“Lion” と無冠詞で応答してもよいこととしている。ただし、文単位で述べる場合は、“I like lions.” や “I like a lion.” のようになる。また、deer (シカ) fish (サカナ) で群れをなしているものは単数形という。児童には要求しなくてもよいが、教師は認識しているとよいであろう。

インタビューの時は、生活科のカバンなどを利用すると便利である。

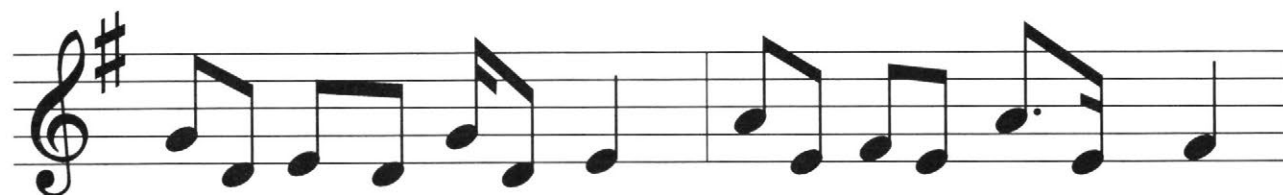
“Come Meet Us at the Zoo”



A-lie, Bubba, Ca - ti - na Cat, Dee-dee Deer and E-le-phant,



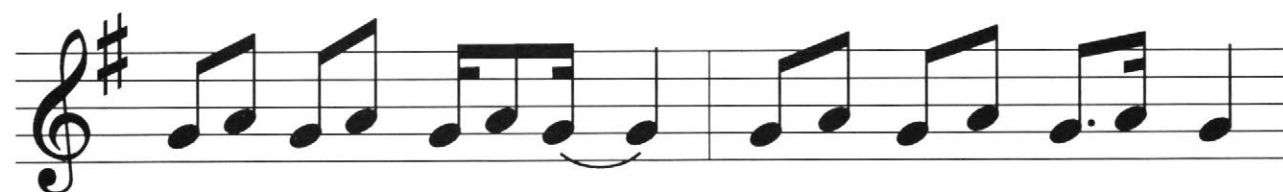
Fran-cy Fish and Gor-do too. They all live at the zoo.



Ho-ney Horse and I - nny, who? Je - lly-fish and Kan-ga - roo,



Li - zzy, Mi-ssy, Ni-gel do, They all live at the zoo.



O-live Oc-to - pus is sweet, Pee-wee Pen-guin's tux is neat,



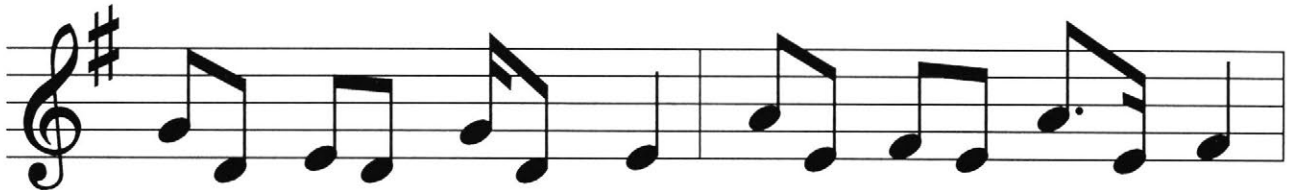
Queeny Quail, her ba-bies too, They all live at the zoo.



Ro-bby Ra-bbit in no stew, Sa-mmy Snake and Ti-mmy too,



Um-ber, Vin-cent, what a crew, They all live at the zoo.



Wi-llie Wea-sel, Xa-vier Fox, Yan-cy Yak just talks and talks,



Zeke the Ze-bra wel-comes you; Come meet us at the zoo.



Zeke the Ze-bra wel-comes you, Come meet us at the zoo.

“Come Meet Us at the Zoo”

Zoo-phonics® Music that Teaches

© 1999 Zoo-phonics®, Inc.

All rights reserved.

Reproduced under permission.

Not to be reproduced, including photocopying, without prior permission.

中学年活動案①

「世界のファーストフード」

1 単元名 世界のファーストフード

2 対象学年 中学年

3 単元の目標

- ・ 買い物の英会話に積極的に取り組み、外国の人とコミュニケーションを図ることができる自信をもつ。
- ・ 相手の問いかけを聞き取り、それに応じて自分の考えを伝えるコミュニケーション能力の基礎を養う。
- ・ 世界のファーストフードが日本で親しまれていることを理解し、外国の人や食文化に慣れ親しむ。

4 単元設定の理由

近い将来、多くの児童にとって初めての実質的な英会話体験は、外国旅行におけるファーストフード店での買い物の会話ではないだろうか。そこで本単元では、本当に外国のファーストフード店での買い物の会話をするつもりになって自発的に言語活動に取り組ませていきたいと考える。最終段階ではALTと担任等が扮した店員の問いかけを聞き取り、それに応じた受け答えをする実際の英語活動を、児童が主体的に展開していく。この活動を通じて、将来の自分にとって役に立つ英会話を身に付けた喜びを味わい、英語による異文化コミュニケーションの楽しさを体感させたい。そこではできる限り本当の買い物に近い活動の場を設定する。その意味から、児童は店員の役をせず、買い物をする。(特に前半の基本会話において。後半の自由会話では店員になることもあり得る。)

また、この題材は児童にとって身近で、外国の食文化に慣れ親しみながら積極的にコミュニケーションを図るという観点で国際理解学習に適していると思われる。そこで高学年児童の特性を生かし、自ら考え、計画し、工夫して言語活動をしていくことにより、コミュニケーション力を育てていきたい。

5 評価規準

(1) 本単元における国際理解教育の評価規準

(コミュニケーション力) 積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。

(2) 本単元における英語活動の評価規準

(A-①) 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。

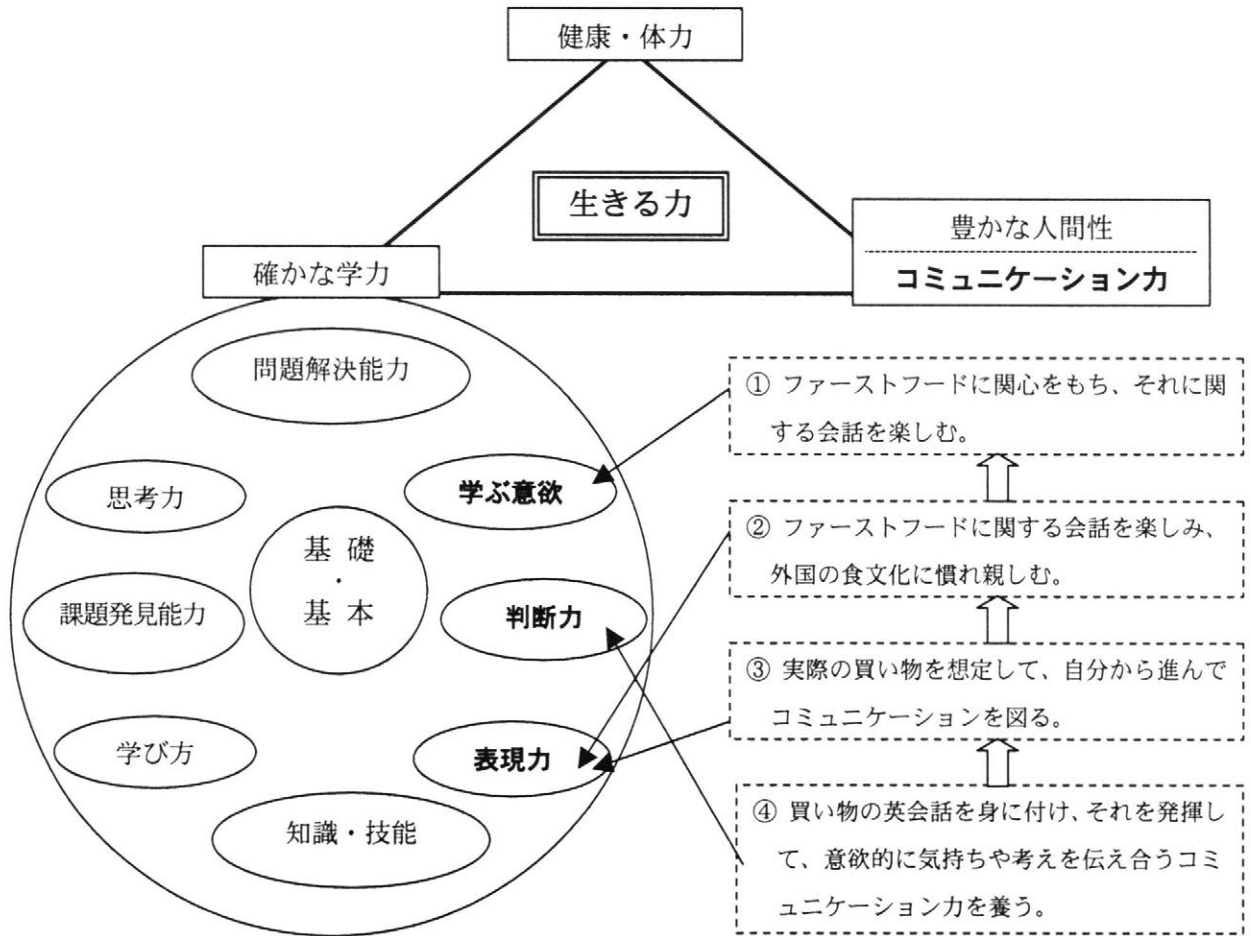
(B-②) 相手が伝えようとすることを理解している。

(B-③) 自分の気持ちや考えを発話している。

(B-④) 英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。

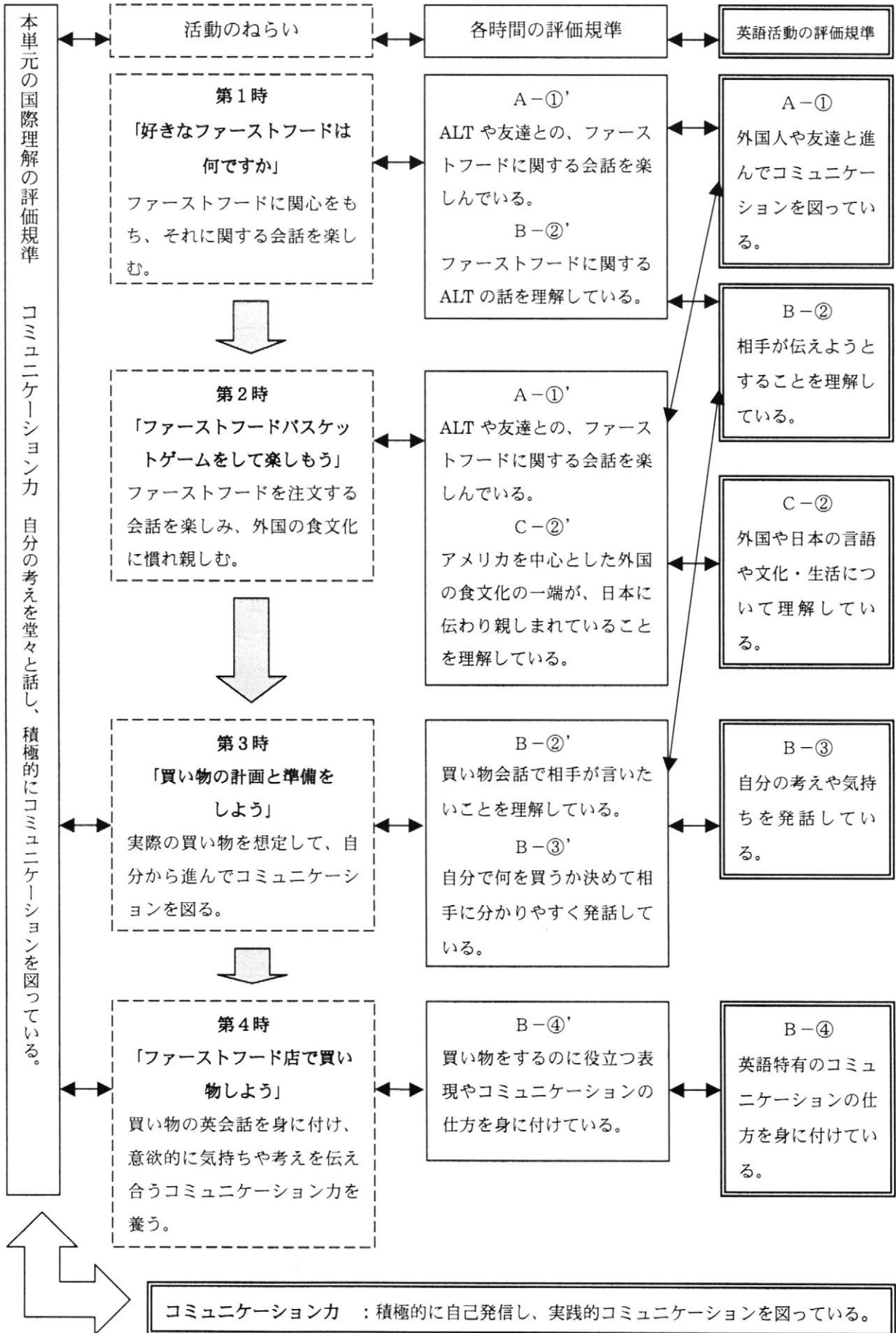
(C-②) 外国や日本の言語や文化・生活について理解している。

6 各時間のねらいと「生きる力」の育成との関連図



* 丸数字は何時間目を表している。

7 活動計画と評価規準の関連



8 活動展開例

□ 第1時

本時のねらい ファーストフードに関心を持ち、それに関する会話を楽しむ。

本時の評価規準 (A-①') ALTや友達とファーストフードに関する会話を楽しんでいる。

(B-②') ファーストフードに関するALTの話を理解している。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任(HRT)の活動	ALTの活動	
挨拶 3分	Good afternoon. I'm fine, thank you. And you ?	Good afternoon. I'm fine / great / hot ...	Good afternoon. How are you ? I'm fine.	
導入 10分	1. 絵カードを見ながらALTが言った言葉の発音やリズムをよく聞き取る。	・物の名前の絵カードを準備しておき、歌に合わせて絵カードを提示する。	・動作を交えながらThe Hot Dog Songに繰り返し出てくる言葉を一つずつ教える。	絵カード ・マスタード ・マヨネーズ ・ペッパー ・ソルト ・レタス ・オニオン ・ケチャップ ・ピクルス
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>♪ The Hot Dog Song</p> <p>Have you ever had a hot dog with mustard and mayonnaise ?</p> <p>Have you ever had a hot dog with pepper and salt ?</p> <p>With mustard and mayonnaise and lettuce and onions and mustard and mayonnaise and catsup and pickles and mustard and mayonnaise and lettuce and onions and mustard and mayonnaise and pepper and salt.</p> </div>			
	2. 声を出し、リズムを取りながらジャズチャンツをして楽しむ。	・リズムを取りながら率先してジャズチャンツを楽しむ。	・リズムに乗って大きな声で、ジャズチャンツを繰り返し行う。	音楽 CD ♪ジャズチャンツ *音楽なしでも歌える。
練習 15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 好きなファーストフードについて話し合おう。 </div> <p>3. 話を聞き、クイズに答える。 【B-②'】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったら挙手 ・指名されたら発表する。 ・全員英語で復唱する。 ・全員で担任の先生に英語で尋ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの国のどんな食べ物か児童にクイズを出す(ヒントを出すのも良い)。 ・色々な国のファーストフードを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出身国や色々な国のファーストフードについて英語で話す。 ・担任が話したファーストフードの国名や料理名を英語で言う。 	世界地図 絵カード(大) ファーストフードのヒントカード

活動 15分	What kind of food do you like ? 4. クイズに答えたりゲームをしたりして好きなファーストフードについての会話を楽しむ。ゲーム例：バスケットゲーム、仲間集め、○×ゲーム【A-①'】	I like Fish & Chips. ・児童の興味関心や、クラスの実態に合わせて活動方法を決め、一人一人の児童が積極的に発話できるように支援する。	・自分が好きなファーストフードについてクイズを出す。 ／バスケットゲームや仲間集め、○×ゲームで使う英語のモデルをする。	クイズやゲームに使うもの
挨拶 2分	See you. Good-bye. Thank you.	See you. Good-bye.	That's all for today. See you. Good-bye.	

Notes :

まずジャズチャンツで楽しんだ後、ALTがファーストフードについて話したことをクイズにして楽しむ。例えば、答えがマクドナルドのように簡単で慣れている物ならば、正しい発音をまねないと不正解にしたり、英語で言うのが難しい食べ物や初めて知る食べ物の場合は日本語で答えてよいことにしたりして大いに盛り上げてほしい。また、担任の話として英国のフィッシュ&チップス、韓国のチヂミやインドネシアのナシゴレンなどを紹介するのもよいだろう。後半は、好きなファーストフードを楽しみながら話し合うことを目的にした活動(例：ファーストフードバスケット、仲間集め、○×ゲーム等)を適宜行う。

本単元では、日本と外国のファーストフードがテーマであることを知らせ、英語活動と合わせて世界の食文化についての調べ学習を進めていくと一層深まるだろう。

♪ The Hot Dog Song

Children's Jazz Chants Old and New

Carolyn Graham

©2002 Oxford University Press. All rights reserved.

Reproduced under permission.

Not to be reproduced, including photocopying, without prior permission.

□ 第2時

本時のねらい ファーストフードを注文する会話を楽しみ外国の食文化に慣れ親しむ。

本時の評価規準 (A-①') ALT や友達との買い物に関する会話を楽しんでいる。

(C-②') 外国の食文化の一端が日本に伝わり、親しまれていることを理解する。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任 (HRT) の活動	ALT の活動	
挨拶 3分	Good morning. I'm fine, thank you. And you ?	Good morning. I'm fine / great / hot / cold....	Good morning. How are you ?	
導入 10分	1. 好きなファーストフ ードは何か発表す る。 【C-②'】 I like hamburgers.	・指名された児童の支 援をする。また、誰を 指名するか ALT に指 示する。	・数名の児童に尋ねる。 What kind of food do you like ?	ファーストフ ードの絵カー ード (大)
提示 練習 10分	2. 先生同士の会話をよ く聞いた後、ALT と全員 とで会話する。例として ①女子が先、男子が後 ②男子が先、女子が後 ③全体を2つに分けて	ALT: Are you ready to order ? HRT: I'd like a hamburger, please. ALT: Anything else ? HRT: No. That's all.	・一人一人が発話して いる時の表情をよく 見る。	例： Hamburger Fried Chicken Hot Dog Fish & Chips
活動 20分	3. ①全員輪になって座る ②各自ファーストフード カードを持ち、鬼に対 して言う。 ③2人の鬼が言ったファ ーストフード名や店名 を復唱。 ④自分のカードが呼ばれ たら立ちALTからの問 い Anything else ? に No. That's all. と答え た後、ALT の合図で別 の場所へ移動。もしフ ァーストフードと言っ たら全員が移動。	・聞く姿勢を確認する。 ・最初の鬼の役をする。 I'd like a hamburger, please. ・活動の場の安全を確 認し児童にも意識さ せる。 ・全員が大きな声で復 唱できるように支援 する。 ・途中でカードを交換 させたり、新しいカー ドを増やしたりする。	・輪になって座る指示 をする。 ・最初の鬼の役をする。 I'd like a fried chicken. ・ゲーム方法やルール を英語で話す。 ・全員で復唱した後、立 った児童に問いかけ る。 Anything else ? ・移動の合図をする。 ・鬼になった児童が自 信を持って発話でき るように支援する。	ファーストフ ードの名前カ ードを洗濯ば さみを両端に 着けたひもで 首からかける。 *カードの種類 は4~5種類 に限定する。

	⑤座れなかった児童が次の鬼になる。【A-①'】	・I'd like ~. を言わず、ファーストフード名だけを言う児童も認める。 ・左記のインタビューに対する受け答えをほめる。	・多く鬼になってしまった児童に英語でインタビューする。	
挨拶 2分	See you. Good·bye.	See you. Good·bye.	That's all for today. See you. Good·bye.	

Notes :

導入では児童が好きなファーストフードを英語で言ったり、外国でのファーストフードの買い物経験や本またはインターネットで調べた結果を日本語で発表したりする。児童が好きなファーストフードは全てアメリカから日本に入ってきたことから、アメリカ文化の一つとしてファーストフードチェーン店が日本に定着していることに触れるのも良い。バスケットゲームではファーストフード名の代わりにファーストフード店の名前を言うのも認める。その店で扱っている食べ物は全て移動することになる。

児童の興味・関心に応じて他のゲームに取り組んでもよい(例：インタビューやビンゴ等)。ゲームで使う英語の全体的な練習にあまり時間をかけず、ゲームを通じて会話を楽しみ、段々と進んで発話する児童が増えていくようにする。そのためには、ゲーム中に個に応じた効果的な支援をALTと協力して行う。

また、児童の意識がゲームの勝敗だけに集中することなく、一人一人の児童が英語をよく聞き、意欲的に発話できるように配慮する。ゲーム中は英語を使わず日本語が増えてしまうことがある。そのような時には、ゲームの最中でも一度止めて、活動のねらいを達成するためのルールの変更や付加等をする 것도大切であろう。何のためにゲームをやっているかをALTや児童に常に意識させるのは担任の役目である。

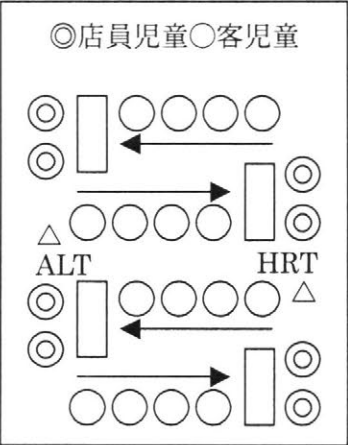
□ 第3時

本時のねらい 実際の買い物を想定して、自分から進んでコミュニケーションを図る。

本時の評価規準 (B-②') 買い物会話で相手が言いたいことを理解している。

(B-③') 自分で何をかうか決めて相手に分かりやすく発話している。

(コミュニケーション力) 外国の人や食文化に関心を持ち自信をもって英語で買い物をしている。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任 (HRT) の活動	ALT の活動	
挨拶 3分	Good morning. I'm fine, thank you. And you ?	Good morning. I'm fine / great / hot / cold....	Good morning. How are you ?	
提示 5分	1. 教師の会話と動作から内容を理解することに努める。→分からないことがあったら質問する。	ALT: Are you ready to order ? HRT: I'd like a hamburger, please. ALT: Anything else ? HRT: No. That's all. ALT: For here or to go ? HRT: For here, please. / To go, please. ALT: Thank you.		ファーストフード店の紙製の帽子 エプロン 机 看板 料金表
練習 活動 20分	2. 全員で一斉に ALT と会話する。【B-②'】 3. 店員と客に分かれて買い物の会話をする。 【B-③'】 【コミュニケーション力】 ◎店員児童○客児童 	・ジェスチャーをしながら大きな声で話し児童に模範を示す。 ・4~8名の児童を選び4つの店の店員役とする。他の児童は買い物客として状況を設定(品物・個数・持ち帰りの有無等)して会話させる。両方の役ともに2人組がよい。	・ゆっくり話し児童によく聞き取らせる。 ・始めは全体を2つに分けて繰り返す。 ・4つの店を回って児童の会話を支援する。 ・意欲的に会話した児童をほめる。 ・必要に応じ実際の買い物会話を教える。	机 紙皿に商品の絵を貼った物 紙袋 *中は空だが、商品を入れたふりをして客に渡す。 英語活動用のお札 *今回は無しでもよい。

	4. 次回の活動計画を話し合い、それに応じて準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を見て店員と客の役割を交換する。 ・教具作りに必要な材料等を準備しておく。 ・話し合いをまとめる。 ・次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意見を取り入れた補充的又は発展的な活動において英語のモデルをする。 	
挨拶 2分	See you. Good-bye.	See you. Good-bye.	That's all for today. See you. Good-bye.	

Notes :

ダイアログ(対話)は、初めから全部は難しいので3段階に分けて行うとよい。: ①No. That's all. まで行って商品を渡すところまで。②何を買うかは決めないで: For here or to go? から会話を始めて紙皿(For here.)か紙袋(to go.)を渡す。③全部の会話を行う。また、日常会話の中で相手を思いやる言葉(例: Thank you. → You're welcome.)をきちんと言う英語の良さにも気づかせたい。

児童に話し合う時間を与え、ダイアログを増やしたり、新しい店を作ったり、違うメニューにしたりする発展的な活動を取り入れる。例えば、対話にお金の受け渡しを付け加える。その場合はごく簡単な言葉のやりとりでよい。または、商品の絵をコピーして一人一人に配り、色を塗り紙皿に貼る作業を行うのもよい。自分たちで作った教材を使うことは活動への動機付けとなるだろう。もちろん、作る際の説明は順序よく英語で行う。そして完成したぬり絵の出来映えから、誰がきちんと聞き取れたか評価して、賞賛や表彰をするとよい。または次回の買い物模擬体験の簡単な計画や準備を児童主体で進めるのもよい。

□ 第4時

本時のねらい 買い物の英会話を身に付け、それを発揮して、意欲的にお互いの気持ちや考えを伝え合う。

本時の評価規準 (B-④') 買い物に役立つ表現やコミュニケーションの仕方を身に付けている。
(コミュニケーション力) 外国の人や食文化に関心を持ち、自信をもって英語で買い物をしている。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任 (HRT) の活動	ALT の活動	
挨拶 3分	Good afternoon. I'm fine, thank you. And you ?	Good afternoon. I'm fine / great / hot / cold	Good afternoon. How are you ?	
提示 5分	1. 活動の見通しを立て、自分のめあてをもつ。 始めに教師同士のモデルをよく見てよく聞いた後、担任と共に ALT と会話をする。 聞き方・話し方の工夫や自分のめあてについて話し合う。	ALT: Are you ready to order ? HRT: I'd like a hamburger, please. ALT: Anything else ? HRT: No. That's all. ALT: For here or to go ? HRT: For here, please. / To go, please. ALT: That'll be two dollars. HRT: Here you are. ALT: Thank you.		ファーストフード店の紙製の帽子 エプロン 机 看板 料金表 紙皿に商品の絵を貼った物
ファーストフード店で買い物をしよう。				
提示 練習 10分	2. 買い物活動をする。 ①基本会話：ペアを作り何をかうか相談し、2人で一緒に、ほぼ上記会話例の通り発話して買い物をする。 【B-④'】	・店員になる。→並んでいる間は他のペアの会話をよく聞くか、ワークシートを書く指示をする。 ・ここで食べる場合は紙皿、持ち帰る場合は紙袋を渡す。 ・残り時間に応じ、活動①と②のそれぞれ終了時点でいくつかのペアに模	・店員になる。 ・ゆっくり正しく発音し児童に聞かせる。 ・代金がいくらかを言い、お金を受け取る。 ・動作を交え、気持ちをこめて会話する。 ・よくできたペアをピックアップしておく。	紙袋 *中身は空だが注文された物を入れたふりをして渡す。
活動 20分	②自由会話：各自、何を何個かうか決めて自由に買い物会話をする。その際、店を回るのは個人ではなく、ペアで行動する。 【コミュニケーション力】			お金(玩具) ワークシート

	3. 自己評価、相互評価をする。	範会話をさせる。 ・よいペアワークや主体性のある活動をほめる。 ・活動の成果を話す。	・大きな声ではっきり会話できた児童をその都度ほめる。 ・模範のペアをほめる。 ・活動の感想を話す。	(めあて&振り返りカード)
挨拶 2分	See you. Good-bye.	See you. Good-bye.	That's all for today. See you. Good-bye.	

Notes :

最終段階として、単元の目標に到達させていきたい。その意味から、児童の主体性を十分に発揮させながら、お店の作りや店員の服装などを、できる限り本物志向で、リアリティの追求に努めてほしい。

指導の工夫として、会話に慣れてきたらダイアログを少し変える。(例:「他に何か欲しい物は?」と尋ねられた時に他に欲しい物を言う。) お店に並んでいる待ち時間には、他のペアの会話をよく聞いたり、ワークシートや自己評価カードに記入したりする。それは単元のまとめに使える。導入時にテーマに関連した簡単な歌(例♪Candy Shop)を歌うのもよい。もし実施時期が10月~11月である場合は Thanksgiving Day にちなんだ英語活動を取り入れるのもよいだろう。例として Thanksgiving Day のお話や、その日に家庭で食べるものの言葉を使ってビンゴをしたり、その食材の買い物をしたりして楽しむ。このように、中学年の後半や高学年においては、導入時はいつも歌というような、同じことのくり返しは避けるべきである。

英語活動ではペアワークを多く行うとよい。一人で話すより、二人で話す方が自信をもって発話できる。その際には、小学生は男女のペアを組むことが可能で、同性同士のペアワークよりも効果的なパートナーシップが期待できるので、男女のペアワークが望ましいと考える。

(資料)

検証授業「世界のファーストフード」における児童の自己評価

1 各時間の評価規準に拠る児童の自己評価

表1 各時間の自己評価の結果 (数値の単位は%、1%未満四捨五入)

時間	各時間の評価規準 ◎:その通り活動した ○:だいたいその通り活動した △:その通り活動しなかった	◎	○	△
1時	A-①': ALTや友達とのファーストフードに関する会話や歌を楽しんでいる。	59	39	2
	B-②': ファーストフードに関するALTの話を理解している。	59	38	3
2時	A-①': ALTや友達とのファーストフードに関する会話を楽しんでいる。	60	33	7
	C-②': 外国の食文化の一端が日本に伝わり親しまれていることを理解している。	51	37	12
3時	B-②': 買い物会話で相手が言いたいことを理解している。	63	33	4
	B-③': 自分で何をかうか決めて相手に分かりやすく発話している。	48	45	7
4時	B-④': 買い物に役立つ表現やコミュニケーションの仕方を身に付けている。	54	46	0
	コミュニケーション力: 外国の食文化に親しみ自信をもって意欲的に英語で買い物をしている。	46	54	0

第1時から第4時まで到達目標の満足度は一貫して高いと言える。第2～3時に向け、段階を踏んで自己の目標設定を少しずつ高くしていくため「努力を要する」状況であると感じた児童が数名見られた。しかし4時間目は2つの評価規準に対して全員の児童が「十分満足」または「おおむね満足」と判断している。つまり最終的には全ての児童が単元の目標に到達したといえることができる。

上記の結果に加えて、検証授業の単元終了後の感想からも、自己肯定感の高まりが見て取れた。そこには、学びへの満足感、ペアやグループワークによる達成感、自信をもったこと、英語によるコミュニケーションの有用性への気づき、新たな意欲の高まりなどが文章表現されている。

児童の感想: 世界の色々なファーストフードを知ることができて良かった/初めは難しかった歌をみんなですべて自主的に練習してできるようになりとても楽しかった/英語で歌い躍って全体が盛り上がった/英語の歌を楽しんで、英語が好きになった/買い物活動は楽しくためになる/ペアでの買い物が楽しく色々な人と英語が通じて良かった/ペアの人と協力でき先生も支えてくれ思う存分買い物ができて嬉しかった/聞くのが苦手だったが聞き取れるようになり、英語が好きになった/英国の先生の英語はうまいと思った、自分もまねしたい/後からだんだん慣れてきておもしろかった/英国の先生の店でアルバイトができて楽しかった、英語がもっと好きになった/先生に教わったことを英語で言って、ちゃんと相手に通じてうれしかった/色々な店で色々話して自信が持てた/英語と日本語の違いで言葉が短くなったり長くなったりする/日本人に英語は不要だと思っていたが、この学習を通して大きく見方が変わり、これからの未来や国際交流にとっても大切だと思うようになった、早く外国で英語を使ってみたい
(男子6名・女子9名、計15名の記述・単元終了時のふり返しカードより抜粋・ほぼ原文通り)

2 評価規準に拠る自己評価の結果から見る児童の変容

まず1学期末に自己評価のみを行い、次に10月は1週間ごとに自己評価させ、その結果を翌週の活動に生かすように担任やALTに助言した。翌月の検証授業では各時間ごとに自己評価させ、「指導と評価の一体化」に役立てた。最後に検証授業を行った11月全体をふり返り各時間の評価規準のもとである5つの英語活動の評価規準に拠る自己評価をさせ、1学期末の調査結果と比較して変容を調べた。

下の表2でわかる通り、全ての評価規準において児童の満足度は高まっている。特に言語や文化に対する関心・理解・態度(C-②)に全員が満足できた。コミュニケーション能力の評価規準であるB-④が27ポイント、同じくB-③が16ポイントと、それぞれ増加が大きいことから、自己のコミュニケーション能力の向上に対して自信がもてるようになった児童が多いことが分かる。

表2 英語活動の評価規準に拠る自己評価結果の比較 (数値の単位は%、1%未満四捨五入)

評価 時期	A-①			B-②			B-③			B-④			C-②																	
	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△															
1学期末(7月)	22	62	16	46	49	5	19	54	27	16	49	35	51	30	19															
検証授業終了時	49	46	5	38	59	3	40	49	11	33	59	8	62	38	0															
増加ポイント(%)	+9			-			+2			-			+16			-			+27			-			+19			-		
自己評価規準	A-① 友達や先生と英語で話すことや、気持ちや考えを伝え合うことを自分から進んで楽しみましたか。												◎:その通り活動していた			○:おおむねその通り活動していた			△:その通り活動していなかった											
	B-② 友達や先生が、英語やジェスチャーなどで伝えようとするのが分かりましたか。												◎:その通り活動していた			○:おおむねその通り活動していた			△:その通り活動していなかった											
	B-③ 自分の気持ちや考えを英語やジェスチャーなどで友達や先生に伝えられましたか。												◎:その通り活動していた			○:おおむねその通り活動していた			△:その通り活動していなかった											
	B-④ 大きな声やちょうどよい速さで、聞かれたことにきちんと答えたり、友達や先生が自分の話を分かっているかどうか確かめながら英語で話しましたか。												◎:その通り活動していた			○:おおむねその通り活動していた			△:その通り活動していなかった											
	C-② 外国の言葉や生活等についておもしろいと感じたり、日本とはちがうところやにていることに気づいたりしましたか。												◎:その通り活動していた			○:おおむねその通り活動していた			△:その通り活動していなかった											

3 教師の観察による評価結果

検証授業「世界のファーストフード」の全4時間を通じて、担任は授業者ではなく評価者として観察による評価を行い、授業後に授業者と互いの判断結果を確認した(その評価方法については2.(2)国際理解教育の目標を踏まえた小学校英語教育の目標と評価規準の設定に前述)。その評価の結果は以下の通りである。

第一にカリキュラム評価については、学習者の学習評価全体を一つの集合体としてとらえ、規準に拠る評価の結果、各時間ともに「満足できる」状況であると判断することができた。

第二に学習者の学習評価については、規準に照らし「十分満足できる」と「努力を要する」状況であると判断できる児童名を記録した結果、児童の自己評価とほぼ一致していた。

それらのカリキュラム評価と学習者の学習評価を生かし、授業者と評価者が協力して「指導と評価の一体化」を実現していった。さらには、各時間の授業後に教師間で評価の判断結果を話し合うことにより、教師間の評価観が安定し、評価の信頼性を高めることができた。

中学年活動案②

「日本のお正月を外国の人に伝えよう」

1 単元名 日本のお正月を外国の人に伝えよう

2 対象学年 中学年

3 単元の目標

- ・ 日本のお正月の過ごし方を外国の人に伝えようとする意欲をもつ。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・ お正月ならではの食べ物や遊びを、英語を使って紹介する。
(コミュニケーション能力)
- ・ 新年の迎え方などに関する外国の文化への関心を高め、自国の文化を大切にする心をもつ。
(言語や文化についての関心・理解・態度)

4 単元設定の理由

これまでの児童の英語活動は、4月の自己紹介を中心にしたものに始まり、友達や家族、学校、地域へと段々と視点を広げながら活動を進めてきた。9月からは ALT の出身国の文化に親しむことを手始めとして、日本とは異なる外国の生活や文化に慣れ親しんできている。

そこで本単元では、自国の文化にも目を向け、それを外国の人に紹介する言語活動を通して、自らの視野を広げていき、共生の資質やコミュニケーション力をさらに高めることをねらっている。そして、この英語活動をもとに、将来、特色ある学校教育の一つとして、日本のお正月の遊びを地域の外国人と一緒に楽しむ交流活動に発展していくことを期待している。

5 評価規準

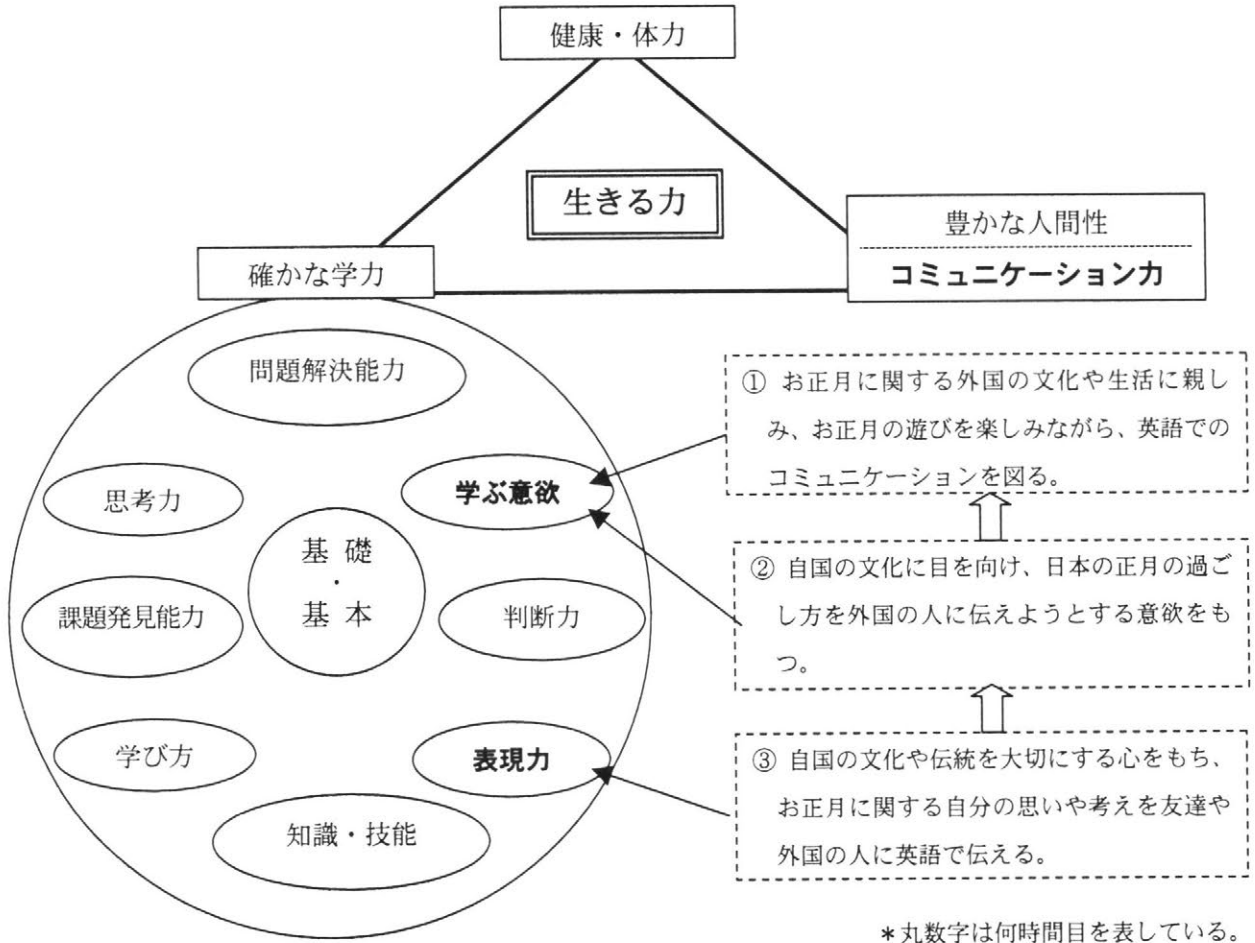
(1) 本単元における国際理解教育の評価規準

(広い視野) 広い視野をもち、異文化の人々との共生を楽しんでいる。

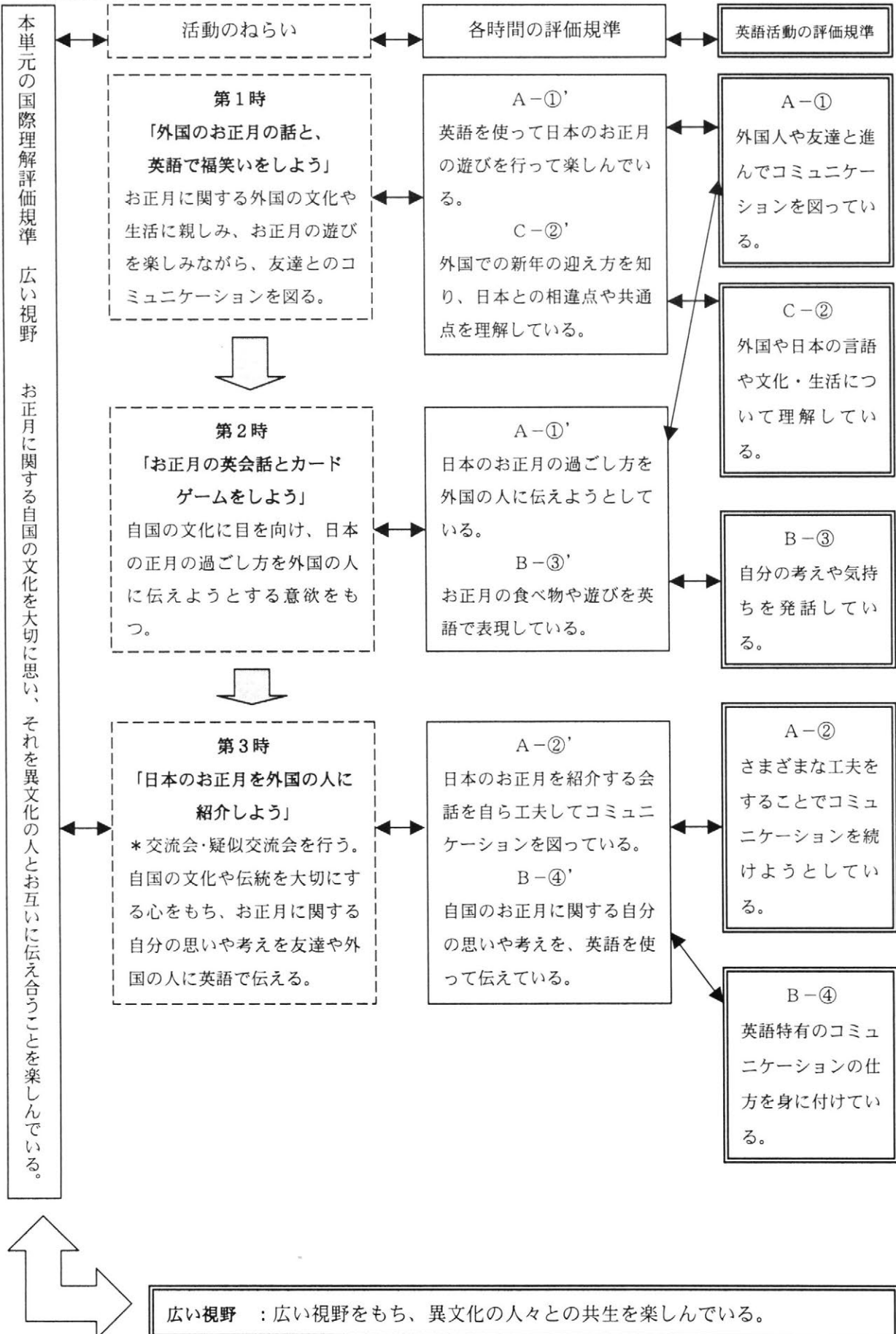
(2) 本単元における英語活動の評価規準

- (A-①) 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。
- (A-②) さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。
- (B-③) 自分の気持ちや考えを発話している。
- (B-④) 英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。
- (C-②) 言語や文化・生活について理解している。

6 各時間のねらいと「生きる力」の育成との関連図



7 活動計画と評価規準の関連



8 活動展開例

*各時間は0.5時間ずつに2分割し、モジュールタイムとして実施可能

□ 第1時

本時のねらい お正月に関する外国の文化や生活に親しみ、日本のお正月の遊びを楽しみながら、友達とのコミュニケーションを図る。

本時の評価規準 (C-②') 外国での新年の迎え方を知り、日本との相違点や共通点を理解している。

(A-①') 英語を使って日本のお正月の遊びを行って楽しんでいる。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任(HRT)の活動	ALTの活動	
挨拶 2分	Good morning. Happy New Year!	Good morning. Happy New Year!	Good morning. Happy New Year!	
導入 13分	外国での新年の迎え方の話を聞く。			必要に応じて 写真や絵
	話をよく聞き、疑問があったら質問する。 【C-②'】	・質問されたことに関してのみ通訳する。	・出身国や滞在国での新年の迎え方の話をする。	
練習 ① 7分	♪Head & Shoulders を歌う。			CD ♪Head & Shoulders
	・歌う前にALTの言い方をまねて言う。 ・始めはゆっくり歌い、動作に気を取られないで歌詞をしっかりと発音する。 ・2回繰り返して歌う。	・顔や体の部分を指さしながら言う。 ・児童と一緒に歌う。 ・大きな声で楽しく歌っている児童をほめる。 ・曲が速くなっても歌えるように励ます。	・顔や体の部分の言い方を教える。 ・始めは音楽なしで歌い英語の発音や曲のリズムをつかませる。 ・動作を大きくして全体をリードする。	
練習 ② 20分	英語を使って福笑いをしよう。			
	・全体を4チームに分け男女ペアで福笑いをしていく。 【A-①'】	・ALTの通訳をする。	・ルールや方法を話す。	

	<p>・まず男子が目隠しをして女子が英語でアドバイスを する。 up / down / right / left</p> <p>・1組目が終わったら、2組目に目を隠す物を渡し、1組目は最後尾へ移動する。</p> <p>・速く正確に完成したチームの勝ち</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">HRT</th> <th colspan="2">ALT</th> </tr> <tr> <td>○ 審判</td> <td>●</td> <td>○ 審判</td> <td>●</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BODY 福笑い</td> <td>BODY 福笑い</td> <td>FACE 福笑い</td> <td>FACE 福笑い</td> </tr> <tr> <td>1 ○● ○●</td> <td></td> <td>○● ○●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 ○● ○●</td> <td></td> <td>○● ○●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 ○● ○●</td> <td></td> <td>○● ○●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 ○● ○●</td> <td></td> <td>○● ○●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 ○● ○●</td> <td></td> <td>○● ○●</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="4">*○は男子、●は女子</td> </tr> </tbody> </table>		HRT		ALT		○ 審判	●	○ 審判	●	BODY 福笑い	BODY 福笑い	FACE 福笑い	FACE 福笑い	1 ○● ○●		○● ○●		2 ○● ○●		○● ○●		3 ○● ○●		○● ○●		4 ○● ○●		○● ○●		5 ○● ○●		○● ○●		*○は男子、●は女子				<p>身体の福笑い hand2、arm2、 foot2、leg2、 waist&hip1、 body1 計 10 パーツ</p> <p>顔の福笑い eye2、ear2、 eyebrow2、 mouth1、nose1 計 8 パーツ</p> <p>BODY・FACE でパーツの数をそろえるのもよい。</p>
HRT		ALT																																						
○ 審判	●	○ 審判	●																																					
BODY 福笑い	BODY 福笑い	FACE 福笑い	FACE 福笑い																																					
1 ○● ○●		○● ○●																																						
2 ○● ○●		○● ○●																																						
3 ○● ○●		○● ○●																																						
4 ○● ○●		○● ○●																																						
5 ○● ○●		○● ○●																																						
*○は男子、●は女子																																								
挨拶 2分	See you. Good·bye. Thank you.	See you. Good·bye.	That's all for today. See you. Good·bye.																																					

Notes :

ALT の話をじっくり聞かせて欲しい。出身国だけでなく、よく知っている国のお正月の話も聞くことができたならもっとよいだろう。特に中国の旧正月の風習について話してほしい。なぜなら、歴史的・文化的に関係が深く、現代でも人と物の交流が盛んな関係であるのに、お正月の時期・内容が大きく異なるからである。そのような国際理解教育のためには、ALT に準備する時間を与え、事前によく話し合うべきである。または、ALT 任せにせず、地域在住の外国人等をゲストとして招くか、担任が資料を用意して説明するのもよい。

♪Head & Shoulders 1 曲だけでなく♪The Hokey·Pokey や♪Left and right も歌い踊るとよいだろう。児童の実態に応じて、体や顔の部分の言い方を練習する時間をとる。そして Body と Face の両方の福笑いを全員の児童が体験できるようにする。児童のアイデアを生かしてルールを工夫するとなおよい。例えば児童 4 人に 4 チームそれぞれの審判役を務めさせる。そうすれば、ゲームを公平に進められるだけでなく、ALT、HRT が英語に関する支援に集中できる。

□ 第2時

本時のねらい 自国の文化に目を向け、日本のお正月の過ごし方を外国の人に伝えようとする意欲をもつ。

本時の評価規準 (A-①') 日本のお正月の過ごし方を外国の人に伝えようとしている。
(B-③') お正月の食べ物や遊びを英語で表現している。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任 (HRT) の活動	ALT の活動	
挨拶 2分	Good morning. I'm fine, thank you.	Good morning. I'm fine / great / hot / cold	Good morning. How are you ?	
提示 15分	お正月に関する会話を聞く。			絵カード大 ・Top コマ ・Kite 凧 ・Rice Cake Soup お雑煮 ・Pick-up Cards カルタ ・ Battledore& Shuttlecock 羽根突き (Japanese badminton) ・New Year's gift お年玉
	ALT: Happy New Year. HRT: Happy New Year. ALT: What do you do during the New Year holidays ? HRT: Please speak more slowly.	ALT: What do you do during the New Year holidays ? HRT: I spin tops and fly kites. Let's spin my tops. ALT: OK. Let's spin tops.		
	・外国人が日本人にお正月に 何をするか尋ねている場面 であることを知る。 【A-①'】 ・全員でALTと会話。よく聞 き、はっきりと答えるよう に努める。	・質問が聞き取れな かったふりをして ALTにもっとゆっ くり話してもらおう。 ・ALTに視線を合わ せはっきりと発話 できるように支援 する。	・遊びの名前を英語 で教える。担任の 要望に応じて同じ 質問をもう一度言 う。 ・児童と会話する。 まずはALTが先で 児童が後、次にそ の逆にする。	
練習 25分	お正月絵カードを使って、神経衰弱ゲームをしよう。			
	・ALTの発音をまねて言う。 【B-③'】	・ALTの発音に合わ せて絵カードを提 示	・絵カードの英語を 繰り返し教える。	

	<p><ゲームの進め方></p> <p>*お正月絵カード小6枚1組を人数分用意する。4人組グループをつくり、すべてのカードを裏返して床の上に散らして置く。 (もし奇数人数のグループがあってもカードの組数は偶数にする。)</p> <p>①順番を決めカードを2枚めくる。 ②もし同じカードが出たら他の児童が“What's this?”と尋ねる。 ③尋ねられた人はそのカードの名前を英語で答える。“It's a kite.” 答えられたら再びカードをめくり、揃わなければ次の人に交代。 *ALTまたはHRTは各グループを回って支援する。</p>			<p>絵カード小</p> <p>*内容は上記と同じ。1枚の大きさはA4の6分の1程度</p>
	<p>・数名の児童はALTと上記の会話をする。</p>	<p>・数名の児童を指名しALTと会話させる。</p>	<p>・相手が自信をもって話せるように配慮する。</p>	
挨拶 3分	<p>See you. Good-bye.</p>	<p>See you. Good-bye.</p>	<p>That's all for today. See you. Good-bye.</p>	

Notes :

児童の実態に合わせて、絵カードの内容と種類数は適宜増やしても減らしてもよいと思う。本当は、英語で羽根突きやお年玉、カルタ、お雑煮という言葉はないが、日本のお正月を外国人に知らせることを意図して英語で表現してみた。ALTと相談して他にも作って見たらどうだろうか。

絵カード小はトランプ・カルタ両方に使えて便利である。ここでも神経衰弱の代わりに、ジジ抜きやカルタをしても楽しめる。さらに発展として、ALTが正月に何をして楽しんだか英語で質問し、児童が英単語やジェスチャーを駆使して答えるという活動もおもしろいだろう。神経衰弱だけでなく、児童の興味・関心に合わせて、ジジ抜き、カルタと、適宜アプローチを変えてカードゲームを行っていくとよい。

指導の実態として例えば、ゲームそのものを活動の中心と考え、それを楽しませることにのみ重点を置いている指導や、会話や単語の練習を何度も繰り返し行い、それらを機械的に覚えさせようとする指導は好ましくないと考える。なぜなら、全ての指導（活動も同様）は到達目標との関わりにおいて、その在り方が決まるからであり、そのような指導は具体的な到達目標と無関係であると判断できるからである。

□ 第3時

本時のねらい 自国の文化や伝統を大切にすることをもち、お正月に関する自分の思いや考えを友達や外国の人に英語で伝える。

本時の評価規準 (B-④') 自国のお正月に関する自分の思いや考えを英語を使って伝えている。

(A-②') 日本のお正月を紹介する会話を自ら工夫してコミュニケーションを図っている。

(広い視野) お正月に関する自国の文化を大切に思い、それを異文化の人と互いに伝え合うことを楽しんでいる。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任 (HRT) の活動	ALT の活動	
挨拶 3分	Good morning. I'm fine, thank you.	Good morning. I'm fine / great / hot / cold	Good morning. How are you ?	
導入 5分	お正月に関する会話をする。			絵カード大 ・Top コマ ・Kite 凧 ・Rice Cake Soup お雑煮 ・Pick-up Cards カルタ ・Battledore & Shuttlecock 羽根突き (Japanese badminton) ・New Year's gift お年玉
	ALT: Happy New Year. HRT: Happy New Year. ALT: What do you do during the New Year holidays ? HRT: Please speak more slowly.	ALT: What do you do during the New Year holidays ? HRT: I spin tops and fly kites. Let's spin my tops. ALT: OK. Let's spin tops.		
	・ALT を外国からのお客様と想定して、会話の練習をする。	・児童の実態に合わせて形態や方法を決める。 ・児童と一緒に発話。	・普通に話す時と、ゆっくり話す時の違いが明確なモデルをする。	
練習 30分	日本のお正月を外国の方に紹介しよう。			
	(模擬) 交流会を行う。 【B-④'】【A-②'】 *個によっては【広い視野】	・評価者として全てのグループの活動を観察して記録する。	・外国からのお客様役になる。できる限り多くのグループを回る。	

	<p><お正月遊び紹介ごっここの進め方例></p> <p>*お正月の遊びに使うおもちゃや道具を用意する。4人組グループをつくり、その内の一人は外国人のお客様役になる。</p> <p>①お客様役の子は他のグループに遊びに行き、あいさつをする。</p> <p>②残っている3人の子は協力して他のグループから来たお客様役の子に日本の遊びを英語やジェスチャーで紹介し、一緒に遊ぶ。</p> <p>③少し遊んだらお客様役の子は英語や日本語で感想を述べる。</p> <p>④互いにあいさつを交わし、お客様役の子は他のグループに移動。</p> <p>*ALT または HRT は各グループを回って支援する。始めにお客様役をする子は日頃の英語活動に最も意欲的な子から選ぶと良い。</p>			お年玉
評価 5分	・活動をふり振り返り自己評価をする。 【広い視野】	・授業者としての感想を述べる。	・交流会のゲストとしての感想を述べる。	伝統的な玩具 ・コマ ・カルタ ・百人一首 ・けん玉 ・その他 *玩具の種類はグループ数分用意する必要はない。
挨拶 3分	See you. Good·bye.	See you. Good·bye.	That's all for today. See you. Good·bye.	ふり振り返りカード

Notes :

日本のお正月の遊びを地域の外国人と一緒に楽しむ交流活動のシミュレーションである。活動の際に使う英語は、上記のダイアログを中心にあらかじめ決めておく。ここでは伝統的なお正月の遊びだけを挙げているが、現代的な遊びや習慣を英語で紹介する試みもおもしろい。その場合は新たにダイアログ(対話例)を作成してほしい。また、児童のアイデアを生かし、紹介する時に日本語を使ったらペナルティーになる等のルールを工夫するとよいだろう。用意できるおもちゃの種類や数によって活動形態を変えてよい。

もちろん実際に外国人のゲストティーチャーや外国生活経験者等を招いて本当の交流活動に発展させていくのは素晴らしいことである。ただしこちら側の都合や必要性を優先すると単発的な交流に終わるかもしれないので、あくまでも相手側の目的を最優先し、継続的で心の温まる交流会に充実・深化させていってほしい。また、身近である自校のALTをお客様として交流会を開くのもよいと思う。さらに言うと、広い意味での異文化交流として、異学年交流や、校長先生等との交流会をするのもよいと考える。

高学年活動案①

「新・お店ごっこ」

1 単元名 新・お店ごっこ

2 対象学年 高学年

3 単元の目標

- ・ 自分で判断し決定する場のある活動を、簡単な英語を使って楽しみ、達成感をあじわう。
- ・ 相手の言葉をききとろうとし、また自分の意思を伝えようとするなどして、相手とコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- ・ 目標を達成するなどのタスクを楽しみ、友達と共に協力する喜びをあじわう。

4 単元設定の理由

年間 30 時間前後の英語活動を、3～4 年間積み重ねてきた児童にとって、低・中学年でお買い物ごっこ型の活動の楽しさはすでに経験していると考えられる。高学年としてさらに積み重ねるとすれば、相手とのコミュニケーションのなかで、「自分の意思をもって主体的にかかわろうとする態度」「コミュニケーションを続けていこうとする姿勢」と、「友達と協力してタスクを成し遂げる喜びをあじわうこと」であると考えられる。自分で判断し決定するというお買い物型活動のよいところを生かしつつ、高学年が興味を持つように売る側にも主体性を発揮できる場のある「お店ごっこ」を考えてみた。

店の商品としては、児童が実生活のなかで欲しい物、例えば携帯電話のような電気機器やスポーツ用品などを取り上げる。実生活と類似する状況として、店によって同じような物の値段が違ふ、安くしてくれる可能性がある、お店の人がすすめてくれる、などのコミュニケーションが必要となる場面を設定し、児童に意欲をもたせる工夫をした。また、ゲーム性をもたせるために、買い手グループは使えるお金の限度額がある、売り手グループはなるべく売上を増やす等、その金額を競わせる要素を取り入れ活発なコミュニケーションを作り出したい。

動機づけと意欲を持たせるために数を競うゲームに組み立てたが、単元の目標にもある「コミュニケーションを図ろうとする態度」のねらいをはずさないように、児童には自分のめあてを持たせ、この視点で相互に評価をさせたい。

5 評価規準

(1) 本單元における国際理解教育の評価規準

(個の確立) 主体性を発揮し、自己発見・自己実現を図っている。

(コミュニケーション力) 積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。

(2) 本單元における英語活動の評価規準

(A-①) 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。

(A-②) さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。

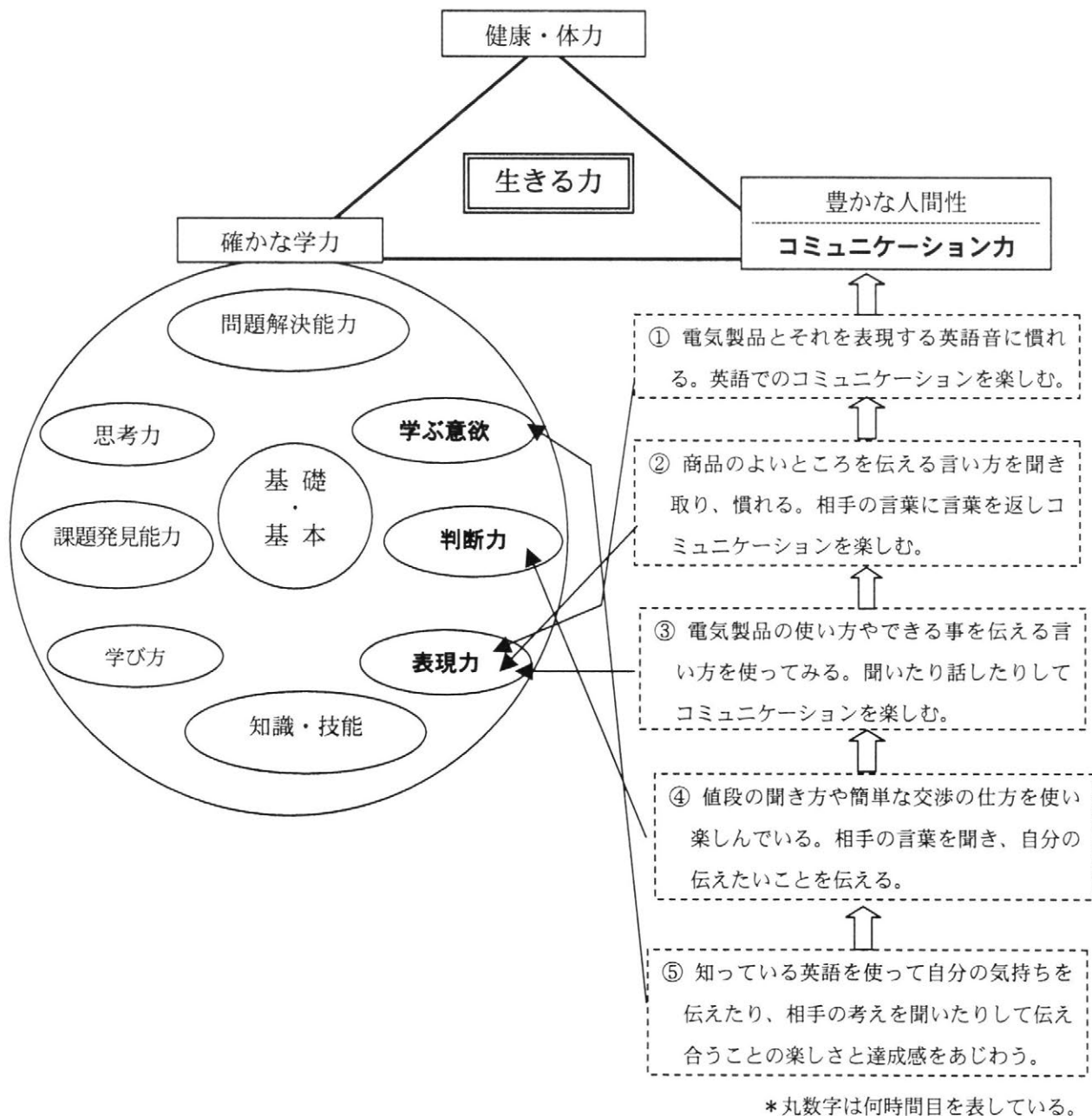
(B-①) 英語音の特徴を身に付けている。

(B-②) 相手が伝えようとすることを理解している。

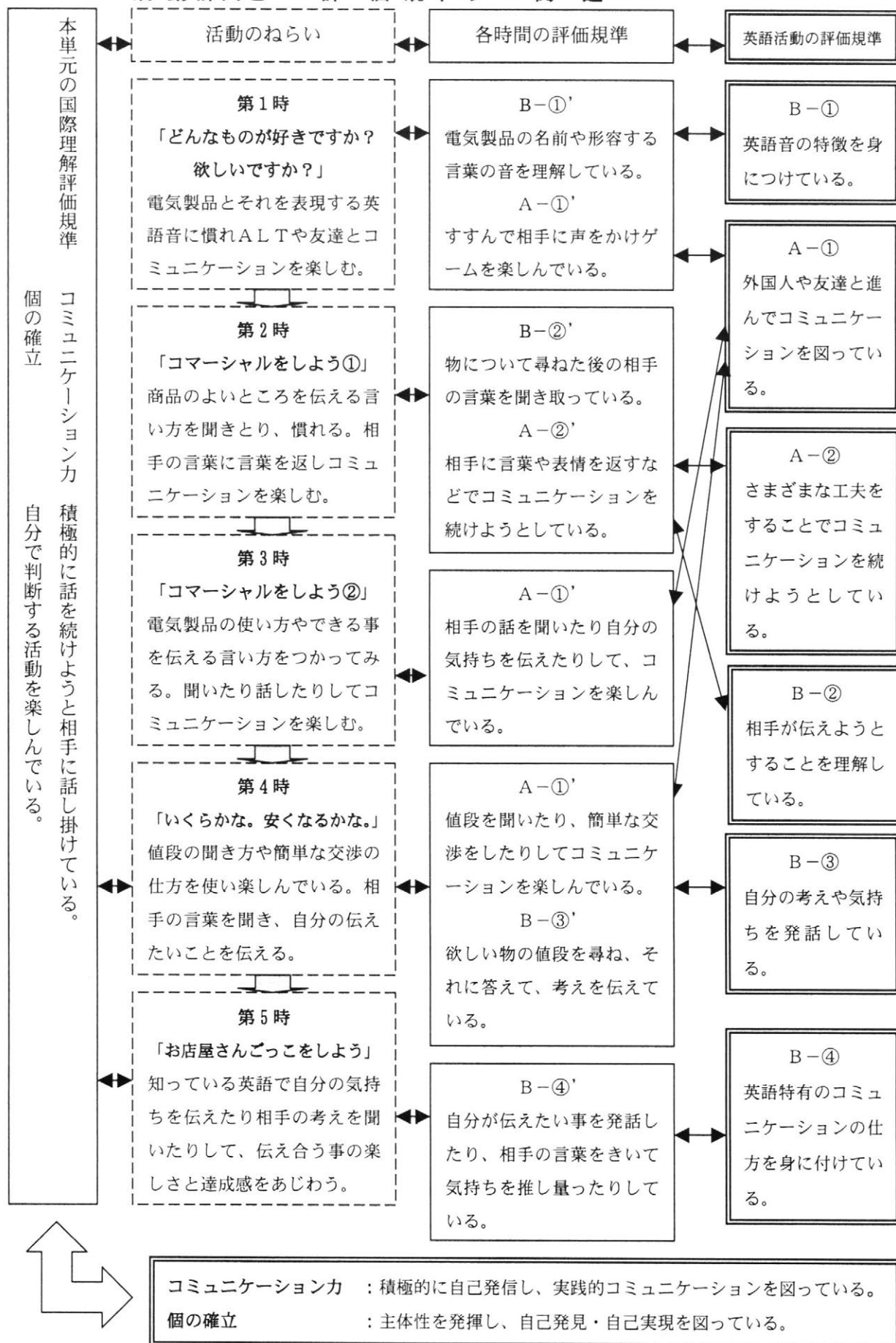
(B-③) 自分の気持ちや考えを発話している。

(B-④) 英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。

6 各時間のねらいと「生きる力」の育成との関連図



活動計画と 評価基準の 関連



8 活動展開例

□ 第1時

本時のねらい 電気製品の名前や特徴を表す言葉に慣れる。

ALTや友達と英語でコミュニケーションを楽しむ。

本時の評価規準 (B-①') 電気製品の名前や形容する言葉の音を理解している。

(A-①') 進んで相手に声をかけゲームを楽しんでいる。

	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
導入 5分	<p>1. あいさつと歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT と好きな言葉をかかわしながら挨拶をする。 ・歌 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT は一人一人に応じて挨拶をしたり言葉をかかわしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ♪ Hello! ♪ Sing ・CD またはピアノ伴奏
練習 15分	<p>2. これは何と言うのかな</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ゲームでつかう言葉を、カードを使ってたしかめる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT の後について繰り返したり、ヒントをもらって考えたりして試してみる。 【B-①'】 	<p>ALT: What's this ?</p> <p>S: It's a mobile phone.</p> <p>ALT: What color do you want ? (What kind of mobile phone do you want ?) などを使って製品を形容する言葉に慣れさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動 4 で使うカードと同じか大型のカード
練習 10分	<p>3. 何が欲しいのかなゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 品物の名前とそれを修飾する言葉 (形容詞) が書いてある活動カードに、児童は自分が欲しいもの 7~10 個 ○印をつける。 用意ができたなら相手のところへ行き、欲しい品物があるかどうか尋ねる。 両者のカードに共に印があれば、○を加えて◎にする。 時間内にいくつ◎をつけられたか発表する。 </div> <p>Q: Do you have a small CD player ? A: Yes, of course. (○の時) / No, I'm sorry. (印なしの時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両者に○があれば二人とも◎にしてよいことにする。 【A-①'】 	<p>(インタビューゲーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの方法を説明する。 ・使う言葉の確認をする。 calculator, mobile phone, wristwatch, TV and VCR, portable MD player, notebook PC, etc. cool, beautiful, powerful, slim, waterproof, fashionable, light, strong, etc. 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動カード (Notes を参照)

<p>練習 15分</p>	<p>4. カードあつめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループで協力して同じ種類のカードを集めるゲーム。 各グループに電気製品のカードとそれを形容する言葉を示すカードを配る。相談をして何を集めるか決め、一人ずつ客の役となりどこかのグループにカードを持っているか尋ねる。お店役の手相手グループが持っていたらもらえる。全員が客と店の役ができる。グループの枚数ある品物のカードをそろえたり、同じような種類のカードを集めたりできたか、を報告しあう。</p> </div> <p>S1: Can I help you ? S2: Yes. Do you have a small CD player ? S1: Yes, of course. Here you are. / No, I'm sorry. S2: Thank you. / That's too bad. S1: Come again, please. (S1:Clerk S2:Customer) 【A-①】</p>	<p>・カード2種類 a) 6~8種類の電気製品 b) 形容する言葉</p> <p>それぞれグループの数を用意。</p> <p>・お店で使う言葉を思い出させる。(下学年で既習)</p> <p>・商品のカードはよくきって混ぜ、各グループに配る。形容する言葉のカードも同じようにして配る。</p> <p>・商品のカードと形容する言葉のカードの2枚を渡す。</p>	
<p>5分</p>	<p>5. あいさつと歌</p> <p>・ALT と一人一人言葉をかわし退室する。</p>	<p>・児童一人ずつに言葉をかける。</p>	<p>♪ Good-bye Song など</p>

Notes :

活動1の「あいさつ」は、児童の人数によりグループの代表者にさせ、各時間で順番にかえるのがよい。

下の表は、活動3に使うカードの参考例である。児童が興味のある製品や形容する言葉をあらかじめ調べておき、言語材料として使うとよい。

	計算機	CDプレーヤー	携帯電話	ノートパソコン
小さい				
薄い				
かっこいい				
性能がよい				

品物の言葉では、「時計、ビデオデッキ、MDウォークマン」形容する言葉では「丈夫な、軽い、防水性がある、おしゃれな」などもつかえる言葉である。

活動4は、グループ分けをしてお店のようにコーナーを構え、各グループから順番に一人一人どこかのグループにたずねる。小さいカードがたくさん用意できれば、一人ずつ集めることにしてもよい。活動3と4は集団の人数によりもっと多くの時間が必要となる。どちらかを選んで計画し、他方はモジュールなど短い時間に計画を移して欲しい。

□ 第2時

本時のねらい 物の良さや特徴を伝える言い方に慣れる。

相手の話笑顔で言葉を返すなどのコミュニケーションの仕方を身につける。

本時の評価規準 (B-②') 物の良さや特徴をたずねて、それに対する相手の言葉を聞き取っている。

(A-②') 相手の言葉に言葉や表情で返すなどの仕方コミュニケーションを続けようとしている。

	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
導入 5分	1. あいさつと歌 ・ALT と好きな言葉をかわしながら挨拶をする。	・ALT は一人一人に応じて挨拶をしたり言葉をかわしたりする。	♪Hello! ♪Sing ・CDまたはピアノ伴奏
練習 (1) 15分	2. どれのことでしょう? (1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ALT は掲示された 3~5 枚のカードのうち、1 枚をコマーシャルする物として決めておく。 児童は、Is it good? と尋ね、ALT の言葉を聞いてどれをコマーシャルしているか当てる。</div> S: Is it good? ・児童は順番に一人ずつ尋ね、考えるヒントをもらう。 ・4人目毎に、答える児童はそれまでの情報から掲示された中から1つを選んで言う。 ・当たればカードをチームにもらえる。 【B-②'】	 ALT: Yes. It's light. / Yes. It's light and small. ・形容する言葉のカードを示しながら、順次に情報を知らせ、児童に予想させる。 ・4人目(または5人目と決めておく)の児童にどの品物か言わせる。	・掲示用のカード(電気製品に限らない) 形容する言葉を示すカードもあるとよい。

<p>練習 (2) 15分</p>	<p>3. どれのことでしょう？(2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Is it good? と尋ねた言葉に対して、一人の児童が品物を形容する言葉をカードの山から1枚ひき、ALTの支援で It's waterproof. などと答える。</p> <p>それに対して Great! Really? などの言葉をみんなで（またはALTが）返す。</p> <p>慣れてきたら自分で考えた言葉にするとよい。</p> <p>S1: Is it good? S2: (カードを引いて) It's waterproof. Ss: Really?</p> </div> <p>一人が Is it good? と尋ねる。 別の子がカードの言葉を使って、コマースの言葉を言う。(ALTの支援) 慣れてきたら自分の言葉で言わせる。 慣れたら、返す言葉も児童が言ってもよい。 同じように当たったらカードをもらう。</p> <p style="text-align: center;">【A-②】</p>	<p>「ほんと！すごい！」を加えよう</p> <p>方法はALTとHRTで示す。 初めは Great! Really? などの返す言葉をALTが返し、それを繰り返させることで、どの言葉を返すか経験させる。</p> <p>カードの言葉を引いてコマースの言葉を言う時、必要に応じ児童の支援をする。</p>	<p>形容する言葉のカード (中央に山にしておく)</p> <p>返す言葉もカードにしておくとい。</p>
<p>5分</p>	<p>3. あいさつと歌</p> <p>ALTと一人一人言葉をかわし退室する。</p>	<p>児童一人ずつに言葉をかける。</p>	<p>♪ Good-bye Song など</p>

Notes :

活動2について、児童の人数が多いときにはALTと数人の児童やHRTが示して見せ、後はグループで楽しむ事もできる。

□ 第3時

本時のねらい 物の良さや特徴、使い方を尋ねたり伝えたりする言い方を使って活動を楽しむ。

相手の話をききとったり、尋ねたりして話を続ける活動を楽しむ。

本時の評価規準 (A-①') 相手の話を聞いたり自分の気持ちを伝えたりしてコミュニケーションを楽しんでいる。

	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
導入 5分	1. あいさつと歌 ・ALT と好きな言葉をかかわしながら挨拶をする。	・ALT は一人一人に応じて挨拶をしたり言葉をかかわしたりする。	♪ Hello! ♪ Sing ・CD またはピアノ伴奏
練習 15分	2. できることの言い方になれよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ALT はカード (または実物) を示し、児童に Is it good? と尋ねさせる。 ALT はそれに対し、Yes. You can.... で表現できる文を答える。 児童は ALT のあとについて言い回しになれる。</div> S: Is it good? S: Great! Is it easy? ・慣れたら児童同士で練習させる。 【A-①'】	・カード (実物もよい) を見せる。 ・品物の良さ、性能などを聞く言い方を知らせる。 ALT: Yes. You can watch TV. ALT: Yes, of course. Like this. (ジェスチャー) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">携帯電話</div> You can even take pictures. <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">車</div> You can even watch TV. <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">パソコン</div> You can even play games. <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">くつ</div> You can even run fast.	・実物 ・カード 電気製品に限らず表現しやすい道具のカードや実物を準備する。 「テレビをみる」「飛ぶ」等動きを表すカードもあるとよい。
活動 20分	3. 電気製品やスポーツ用品のよさを伝える言い回しになれる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">児童を 2 チームに分けて、一つは品物について尋ねる A チーム、もう一つはできる事を答える B チームとする。 B チームの児童は絵カードを持ち、A チームの児童に説明 (出来る事とジェスチャー) するとカードを A の子に渡すことができる。全部渡したらあがり。 A の子は説明がなければ、カードをもらわない事とする。</div>		・絵のカード (児童用) ・動きを表す言葉のカード (掲示用)

	<p>A: Do you have a PC ? B: Yes, I do. A: Is it good ? B: Yes. You can even chat. A: Is it easy ? B: Yes, of course. Like this. (ジェスチャーをする) A: Thank you. B: Here you are. (カードを渡す) 【A-①】</p>	<p>・ALT や担任もどちらかのチームに入ったり、様子を見ながら支援をしたりする。 ・動きを表す言葉のカードを見えるように掲示しておき、児童のヒントとする。</p>	
5分	<p>4. あいさつと歌 ・ALT と一人一人言葉をかわし退室する。</p>	<p>児童一人ずつに言葉をかける。</p>	<p>♪ Good·bye Song など</p>

Notes :

練習2では、Like this. と言いながらジェスチャーを十分に楽しみたい。余裕があれば、練習2と活動3で第1時に扱った It's light. It's powerful. などの表現と合わせると、説明の幅が広がる。(会話の例)

A: Do you have a PC ?
B: Yes, I do.
A: Is it good ?
B: Yes. It's light and slim. And you can even chat.
A: Great ! Is it easy ?
B: Yes, of course. (ジェスチャーをする) Like this !

さらに発展としては、自分のカードを渡すために、なんとか言葉をつなげて話を続けるようにさせたい。そのためにはある程度言葉に慣れていることが必要なので、第1時～第3時は繰り返し混ぜてショート的时间里に言葉をつかう機会を設けた後ならば可能であろう。この場合活動3は、評価規準のA-②でみることもできる。工夫してコミュニケーションを続けようとするたくましさを育みたい。

□ 第4時

本時のねらい 値段の聞き方や簡単な交渉の仕方を使って活動を楽しむ。

自分の伝えることをもって、相手と簡単な英語でコミュニケーションをしている。

本時の評価規準 (A-①') 値段の聞き方や簡単な交渉の仕方を使って、活動を楽しんでいる。

(B-④') 相手の言葉を聞き、値段を尋ねたり、それに答えたりして考えを伝えている。

(コミュニケーション力) 積極的に話を続けようと相手に話しかけている。

	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
導入 5分	<p>1. あいさつと歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT と好きな言葉をかわしながら挨拶をする。 ・歌 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT は一人一人に応じて挨拶をしたり言葉をかわしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ♪Hello! ♪Sing ・CD またはピアノ伴奏
練習 15分	<p>2. 値段の聞き方になれよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の後について全体で言う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いろいろなカード (名前はすぐわかるものがよい) に値段を決めておき、 客の役は値段をたずね安くしてもらおう。 店員役は値引きをするが出来るだけ高く売るように努める。</p> <p>客 : How much is this ? 店員: It's 50 dollars. 客 : Can you discount it ? 店員: Umm...Yes. How about 45 dollars ? 客 : Can't you make it any cheaper ? 店員: How about 40 dollars ? That's my last price. 客 : OK. I'll take it. 店員: Thank you.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・3~4 人のグループでカードを 1 セット使う。 ・一人ずつ客と店員の役になり、中央においたカードを 1 枚ずつひいて買物の会話練習をする。 ・いくら安くしてもらえたかを競う。 <p style="text-align: right;">【A-①'】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は担任とALTでやり方を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品となる物のカード裏に値段を書いておく。 (提示用の大きいものとゲーム用の小さいものがあるとよい。)

<p>活動 20分</p>	<p>3. 値段を聞いて交渉してみよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>品物の値段を聞いたり、交渉をしたりして、last price との差が小さいことを目指して買物をするゲーム。 児童はグループごとに教師からもらった買物メモを見て、その条件にあうものを買う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の人数に合わせて3~4のチームに分ける。 ・買物メモを見てチームで誰が何の買物を担当するか決める。 ・各チーム担当者が出て、どのようなものが欲しいか店に伝え、値段はオークションのように他の買い手との兼ね合いで決定される。 ・児童の一人が Do you have a camera? と言ったら、ALT は Yes. と答えるので他チームのカメラが欲しい児童も立ってオークションに参加する。 <p style="text-align: center;">【B-③】 【コミュニケーション力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・売り手は ALT がやるとよい。 ・第2・3時に行った「コマースルをしよう」という活動の復習を兼ね ALT がお店の店員のよい見本となる。 ・ALT の May I help you? という言葉でスタートする。 ・児童が Is it good? と聞くのでコマースルの言葉を言い、値段の交渉に応じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買物メモ …資料 a <p>教師がどのチームにも同じ商品で異なる特徴のメモをつくっておく。</p>
<p>5分</p>	<p>4. あいさつと歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT と一人一人言葉をかわし退室する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ずつに言葉をかける。 	<p>♪ Good·Bye Song など</p>

Notes :

活動2はカルタ取りのようにしたが、ALTやHRTなど教師や大人が多くいる場合は、児童が数人グループで店員になり、教師が客となる方法も盛り上がる。児童が言葉に慣れていないときは両方行っても児童は楽しんでやる。

活動3は25分間ならば一度にできる人数が4人ほどで、それが4~5回位となり参加児童は16から20人であろう。単元の活動計画を長くできるか、モジュールなどで時間が取れる場合は体験させたい活動である。

自分で買うかどうかの決定を迫られる場面であり、そのためのコミュニケーション力も必要とされるので国際理解の評価規準で見とりたい活動である。

(資料 a : グループに渡す〈買い物メモ〉の例)

<i>Shopping List</i>	
	担当者の名前↓
・携帯電話 赤かグレイ、薄いもの、安い方がいい	()
・スポーツシューズ 軽くて丈夫、水に強い、 カッコイイ、色は青か黒	()
・CD プレーヤー 持ち運び便利、軽いもの、 色はどれでもいいので安い方がいい	()
・Tシャツ かわいい、黄色っぽいものがほしい 軽くて小さいサイズのもの	()

買い物は担当者の判断にまかせ、メモの条件は弾力的に捉えた方がおもしろくなる。

円とドルの金額の感覚を体感させたいと思い、次のような活動も計画した。時間があればとり入れてほしい。

- ① リンゴとキャベツのカード（提示用）を用意する。裏にドルで値段を決めておく。
- ② 児童に What do you have? How much? などと尋ねさせる。
- ③ ALT は One is one dollar. The other is three dollars. などとこたえる。
- ④ 児童は表に ALT が何を持っているか聞き取り書き込む。
- ⑤ どちらが 1 ドルか、3 ドルか考えて値段を書き込む。

*〈リンゴとキャベツ〉のほかに、〈Tシャツとキャップ〉、〈スポーツバッグと時計と靴〉、〈パソコンと携帯電話とペット用犬〉などを取り上げると楽しめる。

□ 第5時

本時のねらい 知っている英語で、相手の意思を理解しようとし、自分の意志も伝えようとするなどして、伝え合う楽しさと達成感をあじわう。

本時の評価規準 (B-④') 伝えたい事を持ち、知っている表現で発話したり、相手の言葉を聞いて、気持ちを押し量ったりしている。

(個の確立) 自分の考えで判断する活動を楽しんでいる。

	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具
導入 5分	1. あいさつと歌 ・ALT と好きな言葉をかわしながら挨拶をする。	・ALT は一人一人に応じて挨拶をしたり言葉をかわしたりする。	♪Sing ・CD または ピアノ伴奏
練習 10分	2. ゲームで言葉のふり返り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">2 チームにわかれてカードの品物を取り合うゲーム。カードの品物はチームそれぞれのもち札として全員がみえるように掲示しておく。児童の一人がロットカード (3種類3枚) の中から1枚ひき、その指示にしたがって相手チームから品物をもらえたり、もらえなかったりする。</div> <ロットカードの内容> ① What do you want? (ピンク) 児童は、尋ねられた事に対して I want a mobile phone. などと応えたと、そのカードが相手チームからもらえる。 ② How much is this? (黄色) 尋ねられたカードの値段を3つの数の中から当てる。 It's 35 dollars. など。当たれば自分のチームのものになる。 ③ Is it good? (緑) 示されたカードについて It's slim. など言葉が言えれば、そのカードが自分のチームのものになる。	・チームの一人 (児童) にロットカードをひかせ、ひいたカードの言葉の練習をリードする。 ①児童全員で、児童に尋ねるようにリードする。 ②カードを1枚示し、児童全員で尋ねるようにリードする。三つの数を示し What do you think? Can you guess? などと問いかける。 ③ALT (または別児童) が、答える児童の対チームのカードから1枚を示す。児童全員で、児童に尋ねるようにリードする。 カードの数や種類を話し合う。	・提示用の品物のカード 6~7種類15枚ほど ・ロットカード 3種類

<p>活動 27分</p>	<p>3. お店ごっこ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>児童は店員と客に分かれる。客はいくつかある店の中から自分たちの一番欲しい物を、値段の交渉をしながら買う。店員は利益のあるようにお客に品物をすすめて売上を高めるようにする。</p> </div> <p>店員：1グループ（4人位）が店を開き協力して売上を高める。 お客：1グループ（4人位）が買物リストを見ながら手分けをして買物をする。 買物は1人か2人です。 【B-④】【個の確立】 （活動で使われると予想される言語材料は、Notesの資料b参照）</p>	<p>・ALTは児童と別の店を開く。 ・時間を区切って児童の買物の様子をみて支援をしてもよい。 ・HRTは全体を見て児童の支援をする。</p>	<p>お店用 ・お店の品物のカード ・売上の記入表</p> <p>お客用 ・買物リスト表 ・お金カード …資料c</p>
	<p>・ふり返りをする。 ・各グループで利益や差額を計算して話し合う。 ・結果（数）を英語で発表する。 ・友達のよいところを日本語で発表する。 （時間がなければ、児童のふり返りカードに記入とする。）</p>	<p>・ALTはお店の児童に「利益」を尋ねる。 ・結果をグループで競う。 ・ALTはお客の児童に買物が全てできたか尋ねる。 ・差額を尋ね、よい買物だったかを2グループで競う。 ・よい店員やお客を紹介する。</p>	
<p>3分</p>	<p>4. あいさつと歌 ・ALTと一人一人言葉をかわし退室する。</p>	<p>・児童一人ずつに言葉をかける。</p>	<p>♪ Good-bye Song など</p>

Notes :

お店の商品は児童に作らせた。そのためには事前に時間をとって、カードをつくること、last priceを決めること、もうけを計算することの理解をさせておく必要がある。

児童の人数が多いときは、1グループの人数を7～8人にして売り手と買い手を分担して1時間でもよい。また、活動時間を組めるなら第6時を設け、売り手買い手の交代をして両方を経験させたい。

(資料 b : それまでの活動から児童に言わせたい言語材料)

Storekeeper

Customer

May I help you ?

Yes, of course.

Yes, it is. It is fashionable, and portable.

You can even play games.

Green, white and pink.

It's 230 dollars.

Umm...how about 220 dollars?

How about 210 dollars?

That's the last price.

Thank you.

Here you are.

Come again, please.

Do you have a mobile phone ?

Is it good ?

What color do you have ?

White, please.

How much is this ?

That's expensive.

Can you discount it ?

Can't you make it any cheaper ?

OK. I'll take it.

Good-bye!

検証授業では、1店の資本金 (last price の合計) は 3000 ドル、買い手 1 人の資金は 1000 ドルとした。売上のカード、買物のリスト表にある last price は原価のようなものと捉え、それ以下には値引きをしないルールにしておく。それにより引き算でお店は数が多いほうが勝ち、お客は数が小さい方が勝ちとなる。また、商品の数と買い手のバランスに気を配ることにより、値段の交渉やセールスの言葉が活発化する。

(資料 c : 店グループが持つ A<売上表>と 客グループが持つ B<買い物リスト>)

A<売上表>

Items	Sales	Last price	もうけ
	\$	\$	\$
	\$	\$	\$
	\$	\$	\$
			\$

B<買い物リスト>

Items	買い物	Get (買えたらチェック)	Price
			\$
			\$
			\$
			\$
合計	\$ 3000		\$

高学年活動案②

「バレンタインデーって、なに？」

1 単元名 バレンタインデーって、なに？

2 対象学年 高学年

3 単元の目標

- ・ バレンタインデーに関する言語活動を積極的にを行い、相手とのコミュニケーションを図る。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・ バレンタインデーに関する会話において、互いの気持ちや考えを伝え合う。
(コミュニケーション能力)
- ・ バレンタインデーの由来や外国での様子に触れ、異文化に慣れ親しむ。
(言語や文化についての関心・理解・態度)

4 単元設定の理由

第一に、小学校高学年児童に適した題材であると言える。特に6年生にとってバレンタインデーは、大変関心が高い内容である。その上に中学生と違ってまだ恥ずかしがらず楽しみながら男女でペアワークができ、卒業を目前にしてクラスのチームワークも高められているので、活発な言語活動が期待できるだろう。そして単元の後半には友達同士の心の交流が表現されている短いスキットに取り組む。そこでの体験的な言語活動を通じて、児童はコミュニケーションの素晴らしさを感じ取るだろうと思われる。

第二に、国際理解教育の一環の英語活動として適していると言える。国によってバレンタインデーの様子には相違点と共通点があるだろう。「英語活動 = 異文化体験」という観点から、外国の文化を知ることだけにとどまらず、日本と外国の文化・国民性の違いや、人間の同一性について理解が深まると考える。さらには本単元の異文化コミュニケーション活動を通して、自分らしさや友達への優しさを表現していくことが「個の確立」につながっていくと期待している。

5 評価規準

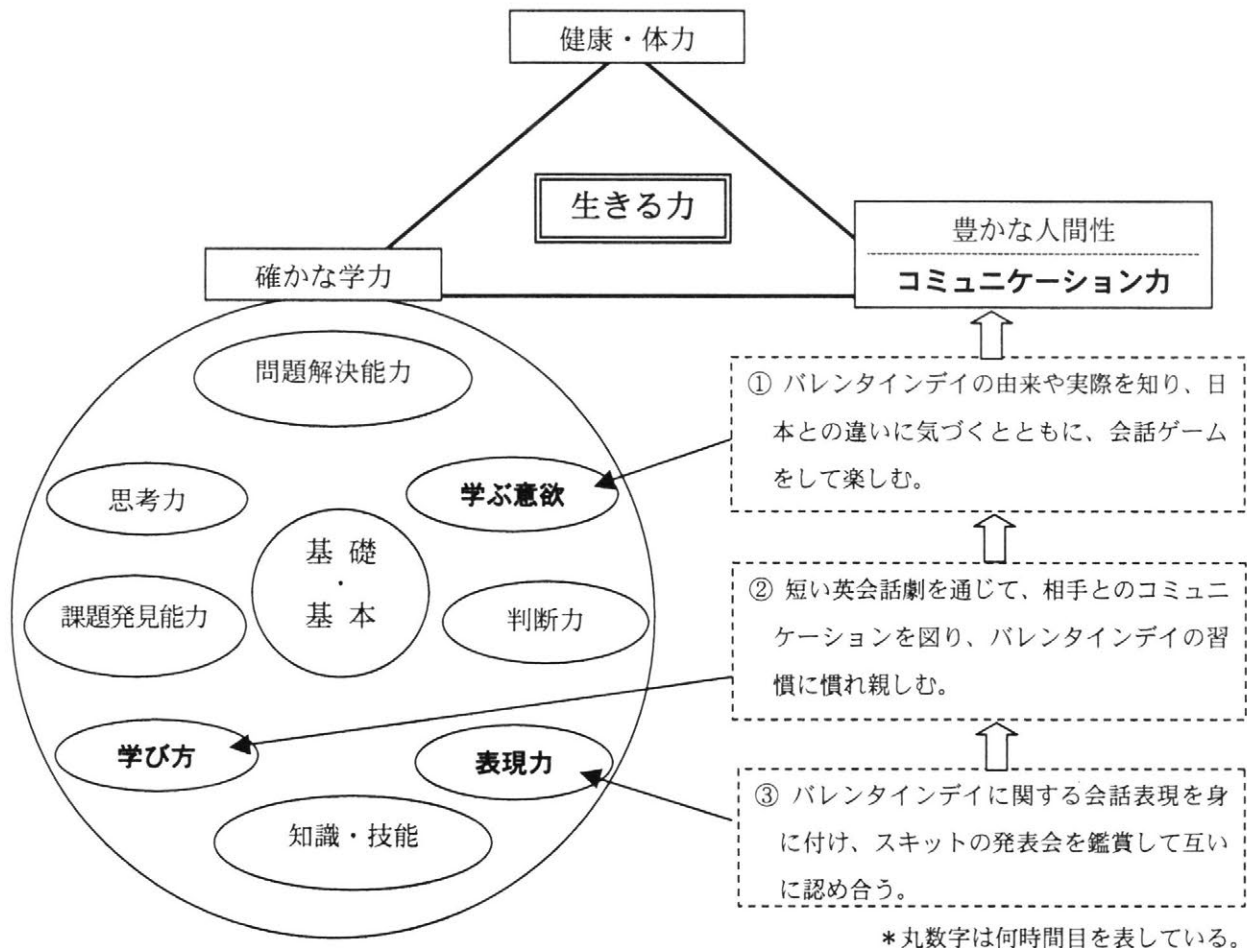
(1) 本単元における国際理解教育の評価規準

(個の確立) 主体性を発揮し、自己発見・自己実現を図っている。

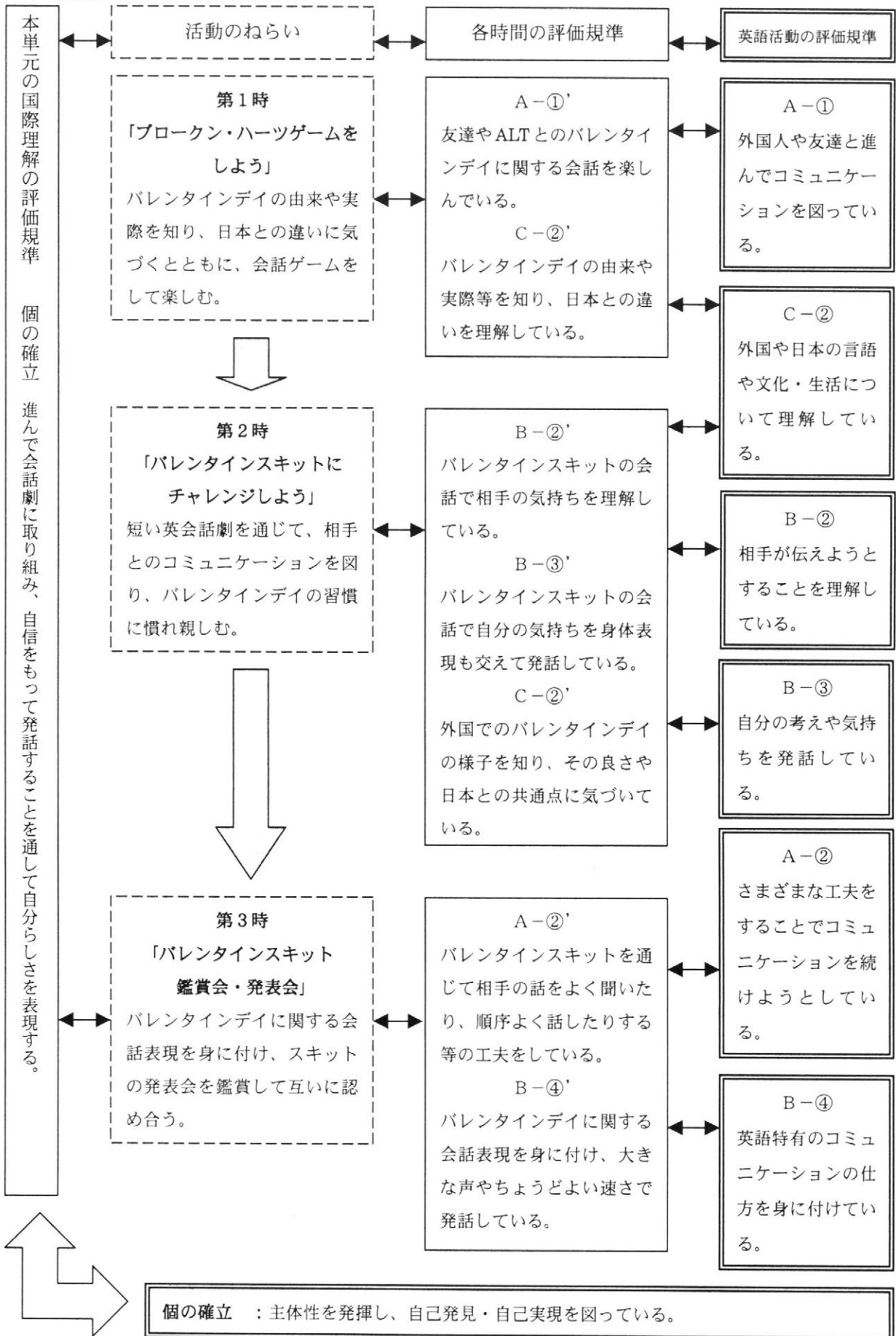
(2) 本単元における英語活動の評価規準

- (A-①) 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。
- (A-②) さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。
- (B-②) 相手が伝えようとすることを理解している。
- (B-③) 自分の気持ちや考えを発話している。
- (B-④) 英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。
- (C-②) 言語や文化・生活について理解している。

6 各時間のねらいと「生きる力」の育成との関連図



7 活動計画と評価規準の関連



<p>練習 20分</p>	<p style="text-align: center;">＜ゲームの進め方＞</p> <p>* 中央に Happy Valentine's Day と書かれた色画用紙で作った大きなハートを半分の人分作る。それぞれのハートを色々なギザギザの線でほぼ半分に切り完成。その半分のハートを児童に持たせる。</p> <p>①ALT の合図で開始。近くの人とペアを作る。学級の実態によっては、男女でペアを作って Dating Game とすると一層盛り上がる。</p> <p>②上記の会話をしながら互いのブローケン・ハートを合わせてみる。 (ALT は各ペアを回って会話や表現方法の支援をする。) (HRT は児童が積極的に会話するように励ます。)</p> <p>③ハートがぴったり合えば We finished! と大きな声で言う。 (ALT・HRT は OK を出して賞賛する。)</p> <p>合わなければまた別の人とペアを作って同じことを繰り返す。早く終わったペアは座り、まだ終わっていない人たちの会話をよく聞く。またはクラスの半数程度の児童がマッチングに成功したら、集めてシャッフルしたブローケン・ハートを配り直し、再びハート探しをさせるのもよい。</p>			<p>ブローケン・ハート(半分に切られたハート) 人数分用意</p>
<p>挨拶 2分</p>	<p>気持ちを込めて発話するように努める。 言語活動の成果を発表する。 【A-①'】</p>	<p>・提示された通りの会話ができなくても自ら工夫して伝えられるように励みます。</p>	<p>・積極的に会話した児童をほめる。発表するペアを選び発表後に良いところを賞賛する。</p>	<p>振り返りカード</p>
	<p>See you. Good-bye. Thank you.</p>	<p>See you. Good-bye.</p>	<p>That's all for today. See you. Good-bye.</p>	

Notes :

「ブローケン・ハート」(Broken Heart)・・・ギザギザに半分に切られたハートを使用する。もとのハートは赤かピンク色の八つ切り色画用紙で作る。早くぴったりと合うハートを持っている人と出会った児童のために余分に用意しておく。例えば男子は HRT、女子は ALT から新しいブローケン・ハートをもらうことにして、すぐに新しいペアを探すというように繰り返し行っていくと会話の機会が増え、意欲が継続する。

□ 第2時

本時のねらい 短い英会話劇を通じて、バレンタインデーの習慣やそれに関わる会話に慣れ親しむ。

本時の評価規準 (C-②') 外国でのバレンタインデーの様子を知り、その良さや、日本との共通点に気づいている。

(B-②') バレンタインスキットの会話で相手の気持ちを理解している。

(B-③') バレンタインスキットの会話で自分の気持ちを身体表現も交えて発話している。

	児童の活動	教師の活動		教材・教具等
		担任 (HRT) の活動	ALT の活動	
挨拶 2分	Good morning. I'm fine, thank you.	Good morning. I'm fine / great / hot / cold....	Good morning. How are you ?	
導入 5分	・課題を把握する。 ・日本と外国の学校生活の違いを知る。 【C-②'】	・アメリカの学校の教室での一場面であることを伝える。	・日本の学校生活との違いを話す。	バレンタインデー・スキット DVD 教材
提示 10分	バレンタインデー・スキットにチャレンジしよう。			手作りの花 (未完成品)
	<p>* 休み時間の教室で、A と B が椅子に座ってバレンタインデーのプレゼントを作りながら会話をしている。A は、担任の先生からもらったチョコレートを B にあげる。 (A : HRT / B : ALT)</p> <hr/> <p>A: What are you making ? B: Happy Valentine's Day ! B: A flower. A: Happy Valentine's Day ! How about you ? A&B: Roses are red. A: A heart. Violets are blue. Have some chocolate. Sugar is sweet. B: Thank you. And so you are.</p>			チョコレート (本物でも絵カードでもよい)
練習 25分	よく聞いてどんな場面か理解し、会話練習をする。 ①A と B に分かれる。 ②A は HRT、B は ALT の所に並んで2人ずつで会話練習をする。	・身振り手振りを交えて演じる。 ・会話練習の進行をする。 ・A の役になった児童と会話練習をする。意欲的に役を	・身振り手振りを交えて演じる。 ・会話練習の支援をする。 ・B の役になった児童と会話練習をする。積極的に英会	椅子一組 児童用の机と椅子 (各グループに一組)

		演じた児童をその都度ほめる。	話できた児童をその都度ほめる。																															
<p><練習の形態図> A・Bは児童/丸数字は練習の段階</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>①②会話練習</p> <table style="margin: auto;"> <tr><td>HRT</td><td>ALT</td></tr> <tr><td>A A</td><td>B B</td></tr> <tr><td>A A</td><td>B B</td></tr> <tr><td>A A</td><td>B B</td></tr> <tr><td>A A</td><td>B B</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>③④グループ練習</p> <table style="margin: auto;"> <tr><td>HRT</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>AB</td><td>AB</td><td>AB</td><td>AB</td></tr> <tr><td>AB</td><td>AB</td><td>AB</td><td>AB</td></tr> <tr><td>AB</td><td></td><td></td><td>AB</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>ALT</td></tr> </table> </div> </div> <p>*二人で一緒に発話。一回終わったら違う列に並ぶ。</p> <p>⑤は、最後に練習の成果を発表する段階として、一斉授業の形態で行う。</p>					HRT	ALT	A A	B B	A A	B B	A A	B B	A A	B B	HRT				AB	AB	AB	AB	AB	AB	AB	AB	AB			AB				ALT
HRT	ALT																																	
A A	B B																																	
A A	B B																																	
A A	B B																																	
A A	B B																																	
HRT																																		
AB	AB	AB	AB																															
AB	AB	AB	AB																															
AB			AB																															
			ALT																															
	<p>③ペアを決め、2～3ペアで1グループをつくり合同練習する。</p> <p>④会話を中心として、練習をする。慣れてきたらペアで協力して工夫して伝え合うことに努める。</p> <p style="text-align: center;">【B-②'】【B-③'】</p> <p>⑤模範のペアの発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペア（グループ）を回ってペアワークの支援をする。 ・目を見て身振り手振りを交えて表現できたペアをほめる。 ・協力的なペアワークができたペアを模範として紹介し、児童の聞く態度について賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ペア（グループ）を回って英会話の指導をする ・大きな声で自信をもって会話しているペアをほめる。 ・学んだ表現を意欲的に使っているペアを紹介し、模範ペアの表現方法の良い点をほめる。 	ふり返しカード																														
挨拶 2分	See you. Good·bye.	See you. Good·bye.	That's all for today. See you. Good·bye.																															

Notes :

本時は会話部分を中心に、発話だけでなく表情や身振り手振りをつけて演じることができるよう指導する。アメリカ人としての役名をつけるのもおもしろい。

□ 第3時

本時のねらい バレンタインデーに関する会話表現を身に付け、スキットの発表会を鑑賞して互いに認め合う。

本時の評価規準 (A-②') バレンタインスキットを通じて相手の話をよく聞いたり、順序よく話したりする等の工夫をしている。

(B-④') バレンタインデーに関する会話表現を身に付け、大きな声やちょうどよい速さで発話している。

(個の確立) 進んで会話劇に取り組み、自信をもって発話することを通して自分らしさを表現する。

	児童の活動	担任 (HRT) ・ ALT の活動	教材 ・ 教具等
挨拶 導入 5分	Good morning. I'm fine, thank you. And you? ♪ I'd wish for wings を歌う。	Good morning. How are you? I'm fine too. 各月に歌う曲を決めておく。	CD
練習 10分	バレンタインデー・スキットの発表会と鑑賞会をしよう。		
発表 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で各ペアが交互にスキットを発表して相互評価する。 ・ペアごとに発表する。(グループ発表でもよい) <p style="text-align: center;">【B-④'】【個の確立】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A: What are you making? B: A flower. How about you? A: A heart. Have some chocolate. B: Thank you. Happy Valentine's Day! A: Happy Valentine's Day too! A&B: Roses are red. Violets are blue. Sugar is sweet. And so are you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの練習を支援。2人組では恥ずかしがってできない場合は、4人組等にして取り組ませる。 ・司会進行・ビデオ撮影をする。(児童数名に担当させ、教師は支援に回るのもよい。) ・前時の実態によっては練習時間を多くして鑑賞時間を短縮する。 ・英語では「甘い」という言葉が気持ちを表していることを教える。 ・練習の様子を必要に応じて撮影し、すぐに見せるのもよい。 	<p>ビデオカメラ</p> <p>手作りの花 (未完成品)</p> <p>チョコレート</p> <p>*本物を用意し最後にみんなで食べるのもよい。</p>

鑑賞 7分	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価のために練習段階で自分達の演技を見て練習に生かす。 <p style="text-align: center;">【A-②'】【個の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> いくつかの模範的なペアの発表により、スキットの出来映えを認め合う。 会話を十分に楽しんでいるペア話し方、聞き方がとてもよいペア 	<ul style="list-style-type: none"> 練習を通じて協力的に取り組み向上が顕著なペアをほめる。 意欲的で豊かな表現力を発揮した児童やペアをほめる。 クラス全体のスキットに取り組む姿勢をほめる。 	ふり返しカード
挨拶 2分	See you. Good-bye.	That's all for today. See you. Good-bye.	

Notes :

子どもたちがスキットに前向きに取り組めるかどうかは、今まで約一年間の英語活動の成果が鍵を握るだろう。スキットのペアは英語学習の経験度や聞く力・表現力を考慮して作るのもよい。または、男女で組むのもよいと思う。英語活動の場合、異性でのペアワークの方が、互いに長所を発揮しながら助け合っているのが、活動の質が高まることが多い。しかしこれは普通の学級の実態による。高学年ではクラスによっては男女別にペアを作った方がよい場合もあるだろう。いずれにせよ、AとBの役割を変えながら繰り返し行う。終わりの4行はよく知られたポエムである。自分たちでリズムやメロディをつけてジェスチャー等のボディ・ランゲージを交えて表現させたい。教師がまずお手本を見せてほしい。そして、恥ずかしがらず前向きに表現できる児童を大いにほめる。

また、発展的活動として、日本のバレンタインデーのダイアログを作り、会話する。例えば、女子は手作りチョコレートの作り方を話したり（箱や道具を持参するとなおよい）、男子はホワイトデーの話をしたりする内容はどうか。その場合は4時間扱いとする。

鑑賞については最後に行うのではなく、練習中に自己評価のために見せるのもよい。その場合は発表会で終了とする。または事前か事後に、他のクラスか昨年度の高学年が行ったスキットのVTRを視聴させ、練習や発表への動機付けや相互評価に生かすとよいだろう。

高学年活動案③

「こんな人になりたいな」

1 単元名 こんな人になりたいな

2 対象学年 高学年

3 単元の目標

- ・ 自他のよいところに気付き、互いに尊重しようとする態度を養う。 (自己肯定、他者尊重)
- ・ 世界で活躍する人々に関心を持ち、将来の自分に夢をもつ。 (自己肯定、積極性)
- ・ 簡単な英語を聞いたり伝えたりしてコミュニケーションを楽しむ。
- ・ 自分の気持ちを伝えようとする。 (コミュニケーションに対する態度)

4 単元設定の理由

児童に積極的なコミュニケーションの力を育てようとする時、その基礎にはありのままの自分を大切にできるという自己肯定感や自尊感情は欠かせないものであると考える。そのうえに立つてこそ相手を大切にし、自分を伝えていこうとする姿勢も育まれると考える。

本単元では、児童が自分のよいところに自信をもつと共に、友達のよいところに目を向け共に生きていこうとする姿勢を育てるために、道徳や総合の時間を利用した調べ学習と関連させ活動計画を立てた。

道徳では、児童が自分と友達の両方のよさを発見し、互いを尊重すべき個人として理解しあおうとする態度を育み、さらに自分についてふり返り考えることにより、国際理解の基礎を育めると考えた。また、調べ学習では、世界の人々に目をむけ、伝記を読んだり、外国や日本で活躍する人や仕事の様子を調べたりして、自分の夢をふくらませ意欲的に生きていこうとする姿勢を育てたいと考えた。

これらを基礎においた本単元英語活動の「友達を誉める言葉」「なりたい人や職業」やゲームは、道徳や調べ学習で考える機会を得ているからこそ、相手と前向きなコミュニケーションを成立させ、親しみを持って取り組めると考えた。

5 評価規準

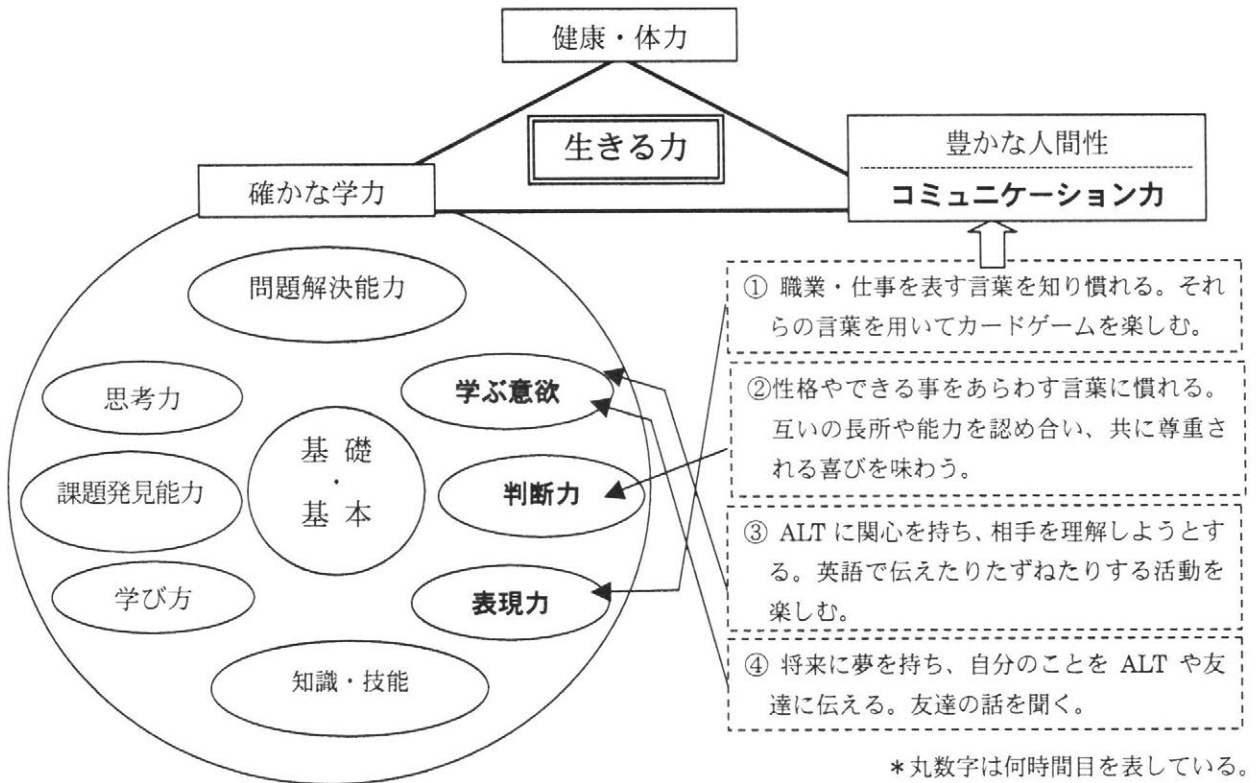
(1) 本単元における国際理解教育の評価規準

- (個の確立) 主体性を発揮し、自己発見・自己確立を図っている。
- (コミュニケーション力) 積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。
- (広い視野) 広い視野を持ち、異文化の人々との共生を楽しんでいる。

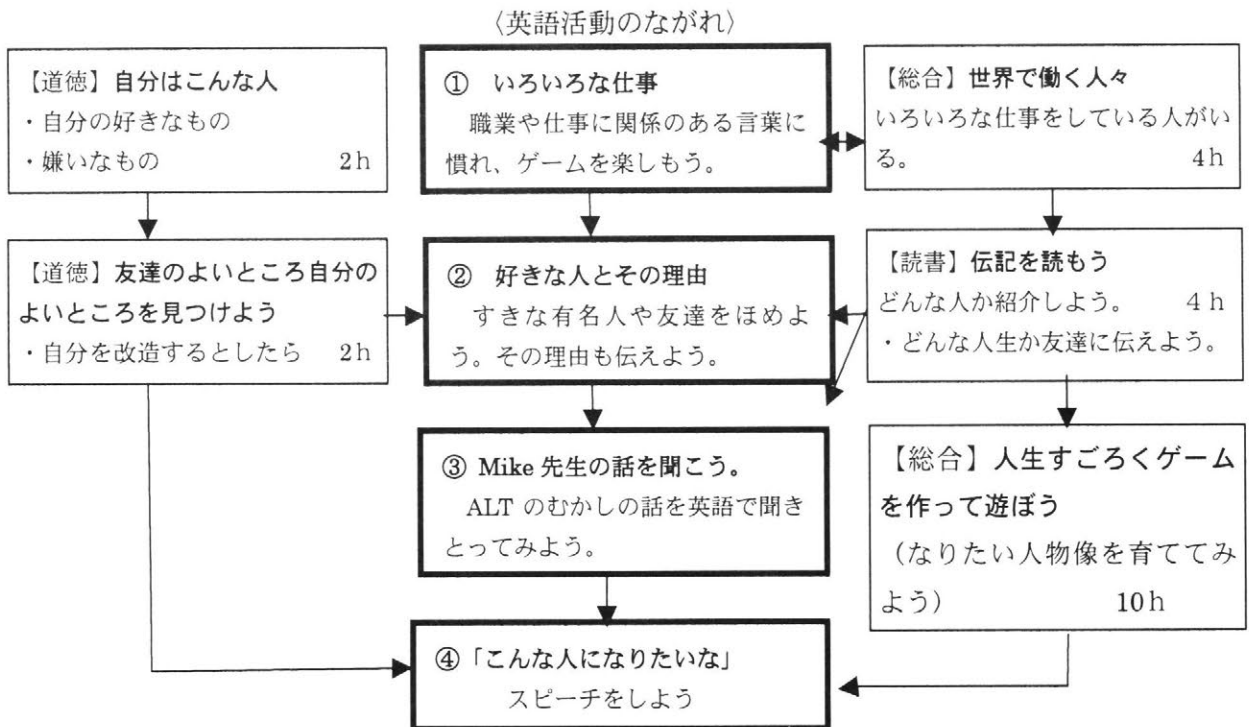
(2) 本単元における英語活動の評価規準

- (A-①) 外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。
- (B-①) 英語音の特徴を身に付けている。
- (B-②) 相手が伝えようとすることを理解している。
- (B-③) 自分の気持ちや考えを発話している。

6-1 各時間のねらいと「生きる力」の育成との関連図



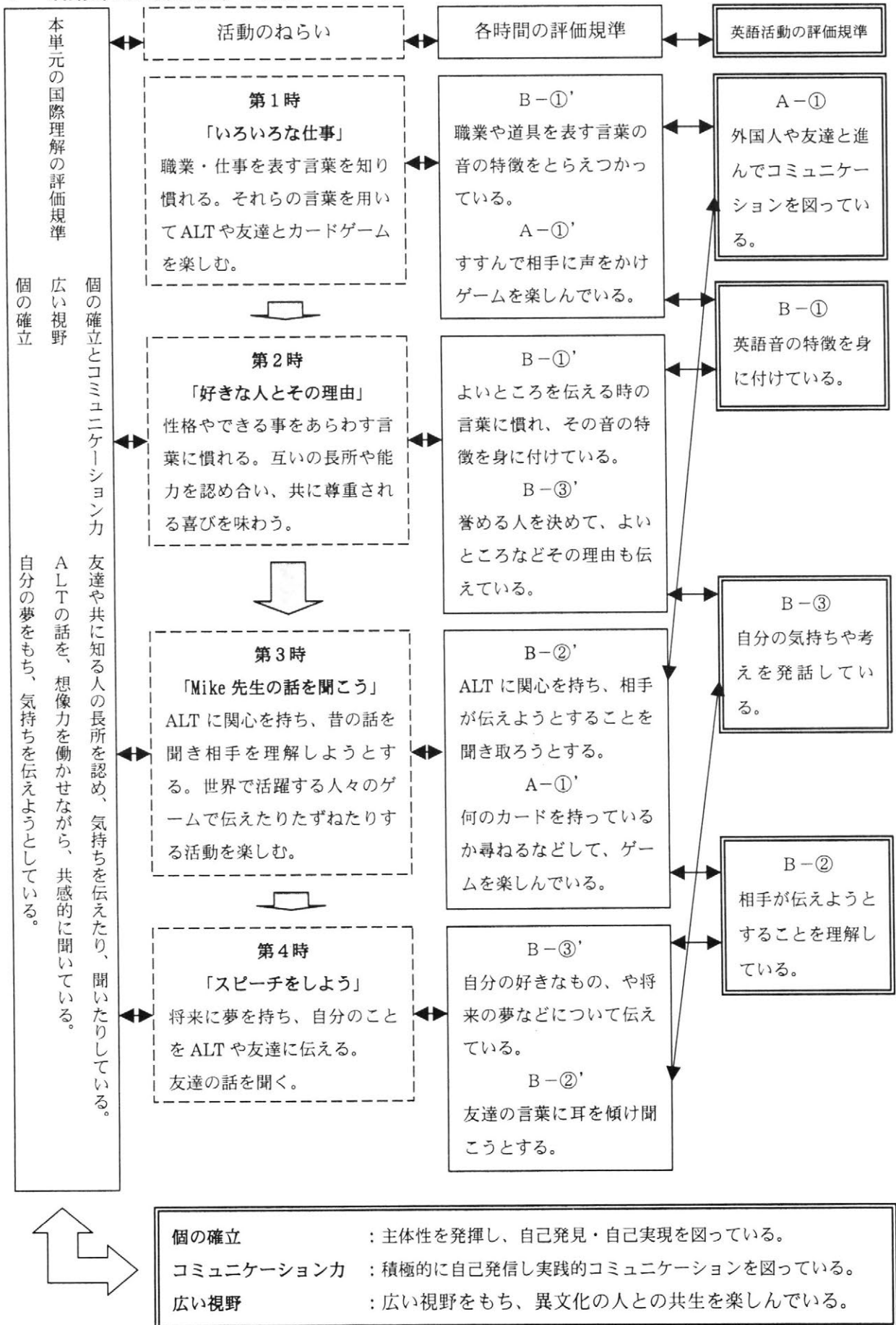
6-2 英語活動の主なながれと他の学習との関連



この活動計画は英語活動のみの時間を4時間の設定で表記した。英語活動の経験年数によっては活動に使う言語材料の慣れに時間を要し、7~8時間程度になることが考えられる。その際は各活動案末のNotesの参考活動(A~G)も利用して児童に慣れさせて欲しい。

また、歌に親しむために、1単位45分の他に15分単位のショート活動を設定している。

7 活動計画と評価規準の関連



8 活動展開例

□ 第1時

本時のねらい 職業を表す言葉を用いてコミュニケーションを楽しむ。

本時の評価規準 (A-①') すすんで声をかけゲームを楽しんでいる。

(B-①') 職業や仕事を表す言葉の英語音の特徴をとらえ使っている。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
導入 10分	1. あいさつと歌 ・ALT と好きな言葉で挨拶をする。 ・歌をうたう。	・ALT は一人一人に応じて、挨拶したり、質問したりする。	♪ I'd Wish For Wings ・楽器・CD 等
練習 10分	2. 仕事あてヒントゲーム ALT が次々に与える言葉やジェスチャーから何の仕事かあてる。 ・ALT の言うヒントをよくききながら、何の仕事か考える。 S: Hint, please. S: He is a firefighter.	・HRT などが児童の実態に合った職業のヒントを考えておく。 ・ALT はジェスチャーもいれて児童にヒントを出す。 ALT: What is s/he ? Hurry up ! Help me ! Smoke ! Water. Red car.	・職業のカード (トランプほどの大きさ)
練習 10分	3. 道具・物や場所を表す言葉 職業に合う道具や場所はどれかな。 ・ALT の後について言葉を繰り返す。 【B-①'】 fire engine, shot, airplane, nail, hammer, hospital, airport, etc.	道具や場所の言い方に慣れよう。 ・ALT が児童に尋ね、外国と日本との違いに目を向けさせながら、繰り返し練習する。 What's this ? Where is this ?	・職業のカード ・道具や場所のカード
活動 10分	4. カードゲームをしよう 職業のカードが2枚と道具カード1枚、場所カード1枚で4枚セットになるように仲間を探すゲーム。互いに尋ねながら4人で同じ職業や道具の仲間になる。 Are you a pilot ? Yes, I am. Where do you work ? At an airport. Do you have a bag? Yes, I do. We are a pilot group. ・ALT と共に言い方の練習をする。 ・1枚ずつカードをもち、相手に見せないようにして仲間をさがす。 【A-①'】	・ゲームの方法を伝える。 ・必要があれば、HRT とデモンストラーションをする。	・4枚でセットの職業と道具のカード
5分	5. あいさつと歌 ・今日の活動でつけた言葉を発表する。	・児童を指名して言葉を発表させる。	

Notes:

活動2でALTに言ってもらふヒントは、児童に共通の情報に基づいて担任が考えるのがよい。その時流行っているものや、メディアを通して親しんでいるものがよいだろう。ALTを英語の先生という職業で登場させるのもよい。また、police officerなど男性だと考えがちなものを、あえて女性を主語にするのもよい。言葉に慣れるために必要ならば、次のゲームなどを参考にしてほしい。

児童の活動	教師の活動	教材・教具
A. 仕事を表す言葉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 写真をみて何の仕事か考えよう。仕事の言い方に慣れよう。 </div> ・写真を見ながら、ALTと新しい言葉を繰り返して言いながらふれる。 (児童がなりたいたいと思っている職業も含める) nurse, florist, doctor, carpenter, kindergarten teacher, police officer, driver, artist, etc.	・ALTが児童に尋ね、外国と日本との違いに目を向けさせながら、繰り返し練習する。 What is s/he? S/he is a firefighter.	外国の職業のカラー写真(1枚ずつの提示用) 児童のなりたいたい仕事を入れる。性別と職業の固定的な見方にならないように配慮する。

活動4のカードゲームは、それまでに扱った仕事とそれに合う場所と道具のカード合わせである。児童のなりたいたい仕事をもとにしてカードをつくとよい。この活動の前に、仕事だけ4枚のカードあわせの方が簡単にできる。児童の実態に合わせて段階をふむとよい。

児童の活動	教師の活動	教材・教具等
B. カードゲームをしよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> カードで仲間集めをする。一人ずつ職業の描いてあるカードをもち、会話をしながら同じ職業の者が集まる。あらかじめ、何人集まるのか数を伝えておくとよい。 I am a doctor. Are you a doctor? Yes, I am. / No, I'm not. Are you a nurse? etc. </div> ・1枚ずつカードをもち、相手に見せないようにして仲間をさがす。	・ゲームの方法を伝える。 ・必要ならば、デモンストレーションをする。	・職業を示すカード 単語の数と児童の人数により種類、枚数は工夫する。

仕事や場所の言葉に慣れ親しむため次のような活動も時間があれば、組み入れるのもよい。

児童の活動	教師の活動	教材・教具等
C. 伝言ゲームをしよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ALTが列の先頭の児童に、既習の言葉を使った文を伝え、児童は最後尾まで伝える。最後の児童は前へ出て、職業のカード(主語)と道具や場所のカード(目的語)を選び、示しながら文を発表する。各列には違う文を伝える。慣れたら、わざと主語と目的語がそぐわない文を伝えるのもおもしろい。 A carpenter has a hammer and a nail. A pilot goes to the airport. A sailor has a hammer and a nail. A hunter goes to the ocean. </div> ・伝言ゲームが出来るように並ぶ。	・児童の人数に応じて、列の数を工夫する。ALTが先頭の児童に伝える。	・職業を示すカード ・職業に関連した道具や場所を示すカード

□ 第2時

本時のねらい 互いの長所や能力を認め伝えあい、共に尊重される喜びを味わう。
性格やできる事を表す言葉に慣れる。

本時の評価規準 (B-③') 誉める人を決めて、よいところなどその理由も伝えている。
(B-①') よいところを伝える時の言葉に慣れ、その音の特徴を身につけている。
(コミュニケーション力、個の確立) 友達や共に知る人の長所を認め、気持ちを伝えたり、聞いたりしている。

時間	児童の活動	教師の活動 (ALT)	教材・教具等
導入 10分	1. あいさつと歌 ・ALT と好きな言葉で挨拶をする。 ・各グループ代表がする。 ・歌	・ALT は一人一人に応じて、挨拶したり、質問したりする。	♪ I'd Wish For Wings ・楽器・CD 等
活動 15分	2. 好きな人は誰? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">タレントやキャラクターの写真の中から好きなものを選び、その理由を表現してみよう。 理由は日本語のカードの中から選択できるようにしておく。 ALT: Which do you like ? S1: I like Doraemon. ALT: Why ? S1: Because he can fly. ALT: Do you like Doraemon ? S2: I like Ayumi. ALT: Why ? S2: Because she is cute.</div> ・ALT と共に繰り返しながら表現に慣れる。 ・自分の意思で好きなパネルを選び、理由を伝える。 【B-③'】 【コミュニケーション力】	・写真や絵を Who is s/he ? などと語りかけながらカードを児童に示す。 ・カードの人物の名前を確認した後、誰が好きかを選ばせたり、その理由を答えさせたりしてコミュニケーションをする。	・日本語のカード (あらかじめ児童から挙げた好きな理由となる言葉) ・児童に話題性のあるタレント、キャラクター、有名人の写真や絵のカード
活動 15分	3. 友達のよいところをほめよう。 ・7~8 人のグループに分かれる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ALT: Who is kind ? One, two, three ! S: You ! Hiroshi is kind. Megumi is kind. etc.</div>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT の言葉をきいて、グループの中の友達から条件に合う友達を You! と行って指差す。 ・名前を主語に、みんなで言う。 <p style="text-align: center;">【個の確立】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から出た言葉をもとに、Who is...? という。 ・グループの中から条件に合う友達を決めて、指名するように伝える。 	
5分	4. あいさつと歌 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動の言葉を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を指名して言葉を発表させる。 	

Notes :

活動1の「好きな人は誰？」の前に性格やできる事(得意な事)の言葉に慣れておく必要がある。道徳の時間などで互いの長所などを話し合い、日本語でカードにしておく。それを英語でどのように表すのかあらかじめALTに尋ね、担任の英語活動で慣れさせておくか、英語活動の時間を利用して教えてもらう活動にするとよい。

児童の活動	教師の活動	教材・教具
D. なりたい性格を表す言葉や誉める時に使う言葉に慣れよう。 例：頭がいい、かっこいい、かわいい、優しい、親切、積極的、強い、～ができるなど。 ・ALTについて言葉や文の練習をする。	・フラッシュカードとして利用し言葉に慣れさせる。 ・少し慣れたら、よく知っている人を主語に入れて、文の形で練習させる。	・日本語のカード

この日本語のカードをALTの言った英語を聞いて取り合うというカルタもできる。

活動3は、友達がよいところをさがして誉めてくれるという児童にとってはうれしい活動である。くりかえしがあっても、照れながら嬉しい顔をみせる。ただし、学級経営や児童の人間関係なども影響する。ひやかしやふざけあいにならないよう、細心の注意が必要であろう。

言葉に慣れている場合や、時間に余裕のある場合は第4時の練習もかねて、友達を紹介する活動もよい。あらためて友達のよいところを探したり認めたりすることにつながる。

児童の活動	教師の活動
E. 友達を紹介しよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> クラスの友達を他の人に紹介する。 Hello, everyone. My name is Yuta. This is Kenta, my friend. He likes swimming. He can ride a unicycle. And he is kind. </div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、友達を指名して二人で前に出る。 ・紹介された児童も最後にお礼を言う。 ・言い方のわからない言葉は日本語でHRTなどに尋ねてよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとHRTのペアで紹介の仕方をデモンストレーションする。 ・児童の紹介の時は話している児童を支援する。

□ 第3時

本時のねらい 自分からすすんで伝えたり、たずねたりしてゲームを楽しむ。

ALTの昔の話を聞き、相手を理解しようとする。

本時の評価規準 (B-②') ALTに関心を持ち、相手が伝えようとするのを聞き取ろうとする。

(A-①') 何のカードを持っているかすすんで尋ねるなどして、ゲームを楽しんでいる。

(広い視野) ALTの話を想像力を働かせながら、共感的に聞いている。

時間	児童の活動	教師の活動	教材・教具等
導入 10分	1. あいさつと歌 ・ALTと言葉をかわし、挨拶する。 ・各グループ代表がする。 ・歌	・一人一人に応じて質問したり、応えたりする。	♪ I'd Wish For Wings ・楽器・CD等
活動 15分	2. ゲームを楽しもう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">児童は1枚ずつ日本語か絵で書いてあるカードをもらう。 他の学習で学んだり話題となったりした人物の特徴が記してある。 その情報から、誰のことか推測し何を持っているか尋ねあい、同じ人物の4人でグループをつくる。 英語でどのように表現すればよいかわからない時は、ALTに尋ね教えてもらう。 Q: What card do you have ? A: I have a '55' card. I have a 'bat and glove' card. I have a 'New York' card. I have a 'Japanese' card. Q: Who is it ? A: He is Hideki Matsui.</div> ・友達に尋ねながら自分の仲間をさがす。 ・4人がそろったら、ALTに誰のカードがそろったか報告する。 ・表現がわからない時はALTやHRTに尋ねる。 【A-①'】	・ゲームの説明をする。 ・児童の活動の支援をする。	児童の人数にあわせて人物の情報を書いたカードを準備する。 (Notes:を参照) 2と3の活動はALTの準備や都合によって時間の調節をするとよい。
活動 15分	3. ALTの子供の頃の話を知ろう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Mike先生の 子供の頃のはなし あらかじめALTに写真や小道具などを使って話をしてくれるよう依頼する。 クイズを出したり、地図を使ったりしながら話すようにしてもらい、児童にALTの話の大まかな所を理解させる機会とする。</div>		・ALTの写真や小道具

	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT が話す言葉を推測しながら聞こうとする。また簡単な質問や語りかけに応える。 【B-②'】 ・児童は話を聞いた後、日本語で質問をしてもよい。 【広い視野】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT が児童の日本語がわかれば、英語で答える。わからなければ、HRT が伝える。 	
5分	<p>4. あいさつと歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動でつけた言葉を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を指名して言葉を発表させる。 	

Notes :

活動2のゲームは第1時でやったカードゲームの変形版である。児童に人気のある有名人や社会科で学んだ歴史上の人物、物語の登場人物にするのもよい。伝記の読書指導をしてあげれば、それが共通の人物となる。その他 ALT や担任なども盛り上がる。

- 例：①（51、バットとグローブ、シアトル、日本人） ⇒イチロー
 ②（靴をはいたネズミ、アニメ映画、ネクタイをしたアヒル、アメリカ人） ⇒ディズニー
 ③（ガラスの靴、カボチャ、12時、階段） ⇒シンデレラ
 ④（大阪城、さる、金の茶室、千のひょうたん） ⇒豊臣秀吉
 ⑤（サッカーボール、白と黒、スペイン、ヘアースタイル、マドリッド） ⇒ベッカム
 ⑥（メガネ、ほうき、魔法使い、白いフクロウ、三角ぼうしなど）
 ⇒ハリーポッターまたは俳優名（ダニエル・ラドクリフ） など

活動2のゲームのかわりに、ヒントゲームを「児童がALTに対してヒントを出して考えてもらう」という形でするのも楽しい。問題は児童に考えさせ、必要があれば担任が助言するとよい。

児童の活動	教師の活動	教材・教具等
<p>G. ヒントを出そう</p> <p>いつも ALT に出してもらっているヒントゲームのヒントを児童が出す活動。児童はそれぞれが読んだ伝記の人物を、発表などで共有しているので、ALT に伝わるかどうかに興味をもつと考えられる。また、世界的に有名な人や ALT の出身国に関係のある人物を選ぶ事も児童の興味をひくためには大切な要素となる。</p> <p>S: A mouse wearing shoes. An animation movie. ALT: Hints please! S: A duck wearing a tie. An American. Who is it? ALT: Mr. Disney. 【B-①'】</p>	<p>・HRT は、用意されたヒントでわからない時、児童の援助をする。</p>	<p>これは、事前に準備しておく必要がある。 何週かに渡り、数人ずつ続けられる活動である。</p>
<p>・一人でヒントを用意しても、グループで話し合わせても良い。</p>		

□ 第4時

本時のねらい 将来に夢をもち自分のことを ALT や友達に伝える。友達に関心をもち、話している事を聞き取ろうとする。

本時の評価規準 (B-③') 自分の好きなものや将来の夢などについて伝えている。

(B-②') 友達の言葉に耳をかたむけ聞こうとする。

(個の確立) 自分の夢を持ち、気持ちを伝えようとしている。

	児童の活動	教師の活動	教材・教具等
導入 10分	<p>1. あいさつと歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと言葉をかわし、あいさつする。 ・各グループ代表がする。 ・歌 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に応じて質問したり、応えたりする。 	<p>♪ I'd Wish For Wings</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器・CD等
練習 10分	<p>2. スピーチの仕方を知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ALT が動物やキャラクターになりかわり、スピーチのデモをする。 ペープサートや紙芝居をつかって、個性があり変身するキャラクターをつかうとおもしろい。</p> <p>Hello everyone ! My name is a caterpillar. I like leaves. I can walk on a leaf. I have many feet. I want to be a beautiful butterfly. That's all. Thank you !</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT の言葉を理解しようとする。 ・ALT の言葉の後について、今まで触れたことのある言い方を使えることに気づく。 <p>・My name is.... ・I like.... ・I can.... ・I have.... ・I want to be... etc.</p> <p style="text-align: right;">【B-②'】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・HRT はあらかじめ、どのようなデモをしてもらうか、準備しておく。 <p>幼虫・・・チョウ オタマジャクシ・・・カエル ドングリ・・・大きな木 ダンボ (ゾウ)・・・鳥</p>	<p>小道具があったほうが楽しい。 わからない言葉を補うためにもペープサートや絵カードを使う。</p>

<p>活動 20分</p>	<p>3. スピーチをしよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「こんな人になりたいな」という夢を話してみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は 10～15 人前後のグループに分ける。 ・その中で一人ずつスピーチをする。 ・一人ずつ、終わったら拍手をする。 <p style="text-align: center;">【B-③'】 【個の確立】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例：Hello everyone. My name is Takuya. I like Hideki Matsui. I'm good at P.E. I want to be a baseball player. That's all. Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT と HRT はグループをまわり児童の話の聞いたり、支援したりする。 	<p>第 4 時あたりに予定として児童に予告するとよい。 児童の人数により 3 の活動と 4 の活動の時間配分を考慮する。</p>
<p>5分</p>	<p>4. あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人 ALT とあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT に感想を言ってもらおう。 	

Notes :

スピーチは、道徳やその他の学習のなかで児童一人一人の語る中身を充実させたい。英語で表現できることは、内容が薄くみえても ALT などの外国人に伝えられるという体験が大切だと考える。

そのため、この時間の前に児童が何を語ろうか考え、英語でどのように言うか準備をする時間をとることが必要である。

2. 小学校英語教育の目標と評価規準を踏まえた年間活動計画

低学年 年間指導計画

月	単元名 (活動時間)	目 標	言語材料	備考
		評 価 規 準		
4	あいさつを しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の挨拶の仕方を知り、慣れる。 ・名前、学年等の簡単な自己紹介ができる。 <p style="text-align: center;">A-① B-④ C-①</p> <p style="text-align: center;">広い視野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Hello. ・Nice to meet you. ・How are you ? ・My name is Ken. ・I'm in the second grade. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆名刺交換ゲーム ♪ Hello ♪ Alphabet Song ・名刺
5	あなたの 電話番号 は？	<ul style="list-style-type: none"> ・1～12までの数字を知り、慣れる。 ・電話番号ゲームをしながら、数字を積極的に使う。 <p style="text-align: center;">A-① B-①②③</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションカ</p>	<ul style="list-style-type: none"> one / two / three ... / twelve ・What is your phone number ? ・My phone number is ... 	<ul style="list-style-type: none"> ☆電話番号ゲーム ☆ビンゴゲーム ♪ Ten Little Witches ♪ Hot Potato ・絵カード
6	色で あそぼう	<ul style="list-style-type: none"> ・色の言い方を知る。 ・色を使ったゲームをし、進んで英語を使う。 <p style="text-align: center;">A-① B-①②③</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションカ</p>	<ul style="list-style-type: none"> red / yellow / pink / black / blue / green / purple ・I want a red card. ・Do you have a red card ? ・Yes. Here you are. ・Thank you. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆カラーバスケット ☆色カード集めゲーム ♪ Colors ・絵カード ・色カード
7	ゆかいな 動物園に 行こう (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国での動物の言い方や鳴き声に興味をもって聞き、その通りに発音する。 ・知っている言葉をたくさん使いながら、自分の考えを堂々と相手に伝える。 <p style="text-align: center;">A-① B-①② C-①</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションカ</p>	<ul style="list-style-type: none"> moo / neigh / oink / baa / cock-a-doodle-doo, etc. cow / horse / pig / sheep / rooster / duck / cat / dog, etc. ・Guess what animal is it ? ・It's a lion. ・Right. / Try again. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆鳴き声の伝言ゲーム ☆クラブ言葉リレーゲーム ☆鳴き声当てゲーム ☆動物当てっこゲーム ☆Guess-Whatゲーム ♪ They All Live in the Zoo ・絵カード
9	ゆかいな 動物園に 行こう (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が言うことに関心をもちながら、話を聞き取り、積極的に活動しようとする。 ・ゲームをしながらコミュニケーションの仕方を身に付け、相手への理解を深める。 <p style="text-align: center;">A-① B-②④</p> <p style="text-align: center;">個の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> octopus / quail / rabbit / snake / tiger / umbrella bird / wolf / vampire bat, etc. ・What do you see ? ・I see rabbits. ・What is your favorite animal ? ・I like horses. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆色塗りゲーム ☆インタビューゲーム ♪ They All Live in the Zoo ・絵カード

10	食べものの名前を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食べ物の名前を知る。 ・ゲームをしながら食べ物の言い方に慣れる。 <p style="text-align: center;">A-① B-① C-①</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションカ</p>	<p>curry / hamburger / pizza / tangerine / watermelon / rice / chicken / corn / cabbage / cake / cookie / cracker, etc.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What's this ? ・It's a tangerine. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆食べもの swatter ゲーム ☆マッチングゲーム ♪ Are You Hungry ? ・絵カード
11	好きな食べものは？	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームをしながら、コミュニケーションを楽しむ。 ・インタビューゲームをしながら、相手への理解を深める。 <p style="text-align: center;">A-① B-②③④</p> <p style="text-align: center;">個の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・What is your favorite food ? ・I like spaghetti and bananas. ・Do you eat Sushi ? ・Yes. I like it. ・No. I don't like it. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆インタビューゲーム ♪ Are You Hungry? ・絵カード
12	クリスマスカードを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの話を聞き、異文化への理解を深める。 ・クリスマスカードを作って友達と交換し、外国の習慣を体験する。 <p style="text-align: center;">A-① C-①②</p> <p style="text-align: center;">広い視野</p>	<p>Christmas tree</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Merry Christmas ! ・Let's make Christmas cards. ・This is for you. ・Thank you so much. 	<ul style="list-style-type: none"> ♪ Jingle Bells ♪ O Christmas Tree ・クリスマスの話を聞く活動 ・クリスマスカード作り
1	すごろくゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくゲームをしながら、身の回りの物の名前の定着を図る。 ・ゲームをしながらコミュニケーションを続けようとする。 <p style="text-align: center;">A-② B-③</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションカ</p>	<p>pencil / eraser / pencil case / glue / scissors / notebook / chair / desk, etc.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Your turn. / My turn. ・You have won. ・One more game. ・Well done. / Excellent. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆すごろくゲーム ・すごろくボード
2	これなーんだ？ (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・様子や動作を表す言葉を知り、慣れる。 ・様子や動作を表す言葉を用いて楽しくコミュニケーションを図る。 <p style="text-align: center;">A-① B-②③④</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションカ</p>	<p>big / long / scared / soft / cute / walk / run / swim / jump, etc.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Guess what it is. ・What color ? ・Is it soft ? ・I guess it's a strawberry. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ジェスチャーゲーム ☆Guess-What ゲーム ♪ Freeze Game ♪ Head, Shoulders, Knees and Toes ♪ Hokey-Pokey ・絵カード
3	○△□で絵をかこう	<ul style="list-style-type: none"> ・形の言い方を知り、慣れる。 ・○△□を用いて動物や身の回りの物の絵をかく。 <p style="text-align: center;">A-① B-①②</p> <p style="text-align: center;">コミュニケーションカ</p>	<p>Circle / Triangle / Square</p> <ul style="list-style-type: none"> ・You draw a big circle. ・Next, you draw a small circle in the middle. ・Copy me. ・You made it. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆形探しゲーム ☆○△□で絵をかく活動 ♪ Lion Hunt ・絵カード

中学年 年間指導計画

月	単元名 (活動時間)	目 標	言語材料	備考
		評 価 規 準		
4	お互いの個性を伝え合おう	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で相手の目を見て挨拶する。 1～12月の言い方を知り、進んで自己紹介ができる。 <hr/> <p align="center">A-①② B-①②</p> <p align="center">個 の 確 立</p>	<ul style="list-style-type: none"> Hello. Nice to meet you. Please call me John. I like ... / Do you like...? When is your birthday? It's May 24th. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆名刺交換ゲーム ☆○×ゲーム ☆誕生日はいつ? ♪Hello Hello ♪What's Your Name
5	家族や友達を紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの人を紹介する会話に慣れ、家族(兄弟姉妹)の紹介をして楽しむ。 お互いに友達を紹介して楽しむ。 外国の友達に出身国を尋ねる。 <hr/> <p align="center">A-① B-①②③ C-①</p> <p align="center">コミュニケーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> Do you have brothers or sisters? How about you? I have no brother or sister. Her/His name is... Where do you come from? I'm from Korea. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆家族紹介ごっこ ☆兄弟姉妹紹介 ☆友達紹介ゲーム ☆国旗カードゲーム ♪Monkey Family ♪If You're Happy
6	学校を案内しよう	<ul style="list-style-type: none"> 外国の人に自分の学校を紹介しようとする意欲をもつ。 校内を英語で案内して楽しむ。 <hr/> <p align="center">A-①② B-①②③ C-①</p> <p align="center">広 い 視 野</p>	<ul style="list-style-type: none"> Welcome to our school. Where is a library? This way, please. It's on the second floor. Where is the gym? 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教室移動クイズ ☆校内紙上案内 ☆案内ペアワーク ・校内案内図 ・教室等の絵カード
7	明るい笑顔で話そう	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで明るい態度で話しかけ、相手を知ろうとする態度を身に付ける。 質問と受け答えの仕方に慣れる。 <hr/> <p align="center">A-① B-②③④</p> <p align="center">個 の 確 立</p>	<ul style="list-style-type: none"> May I ask you some questions? Yes. What sports do you like? I like..., because... 	<ul style="list-style-type: none"> ☆インタビュー遊び ☆何が好き?ピング ☆クリスクロスゲーム ♪How old are you?
9	英語の先生の国をよく知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ALTの国を知り、世界の地理や文化に興味をもつ。 行きたい国とその理由を英語で答える。 地域の祭りや行事のよさに気づき、自信をもってALTに伝える。 <hr/> <p align="center">A-①② B-① C-②</p> <p align="center">広 い 視 野</p>	<ul style="list-style-type: none"> What country do you like? I like Australia. Why? Because I like koalas. Where is Australia? Here. What are they doing? They are carrying <i>mikoshi</i>. It's very heavy. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆好きな国とその理由を会話する活動 ♪It's a Small World ・地図 ・地球儀 ・ALTの国の資料 ・祭りや行事の写真 ・ポスター ・衣装
10	ハロウィンを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> ハロウィンの習慣に慣れ親しむ。 ハロウィンのキャラクターや会話を表現して楽しむ。 進んでハロウィンパーティーを楽しむ。 <hr/> <p align="center">A-① B-①②③ C-①</p> <p align="center">個 の 確 立</p>	<ul style="list-style-type: none"> Who are you? I'm a witch / devil / skeleton. Trick or Treat! Which would you like? Lollipop, please. Happy Halloween. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ビッグカルタ ☆ハロウィンごっこ ☆ハロウィンパーティー ☆仮装コンテスト ♪Ten Little Witches ♪Trick or Treat!

11	世界のファーストフード (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の会話に積極的に取り組み英語で買い物できるという自信をもつ。 ・相手の問いかけを聞き取り自分の考えを伝えるコミュニケーション能力の基礎を養う。 ・ファーストフードに関する日本と外国との相違点や、共通点を知り、世界の食文化に慣れ親しむ。 <p>A-① B-②③④ C-② コミュニケーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> hamburger / fried chicken / hot dog / fish & chips, etc. ・What food do you like ? ・Are you ready to order ? ・I'd like a hamburger, please. ・Anything else ? ・No, that's all. ・For here or to go ? ・For here / To go, please. ・That'll be two dollars. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ファーストフードカルタ ☆ファーストフードバスケット ☆買い物の計画 ☆買い物模擬体験 ♪ Hot Dog Song ♪ Candy Shop ・おもちゃのお金 ・メニュー ・商品 ・紙袋や紙皿 ・店員の衣装
12	Merry Christmas & Happy New Year	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とは違う冬の季節の挨拶を知り、外国の文化に触れる。 ・歌やゲームを通して年末年始に関する会話や雰囲気を楽しむ。 <p>A-① B-②③④ C-① 広い視野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Merry Christmas ! ・This card is for you. ・Thank you. How beautiful ! ・This is from me. ・Thank you. I like it. ・Do you believe in Santa Claus ? 	<ul style="list-style-type: none"> ☆Pass the Parcel ☆シャッフルカード (文字並べ遊び) ♪ We Wish You a Merry Christmas ・クリスマスカード
1	日本のお正月を外国の人に伝えよう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のお正月の過ごし方を外国の人に伝えたいという意欲をもって表現する。 ・新年の迎え方に関する外国の文化への関心を高め、自国の文化を大切にす。 <p>A-①② B-③④ C-② 広い視野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Happy New Year ! ・What do you do during the New Year Holidays ? ・I play with tops & fly kites. ・Let's play with my tops. ・OK. Here we play. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆福笑い(顔・身体) ☆神経衰弱ゲーム (正月絵カードを使って) ☆模擬交流会 ♪ Head & Shoulders ♪ The Hokey-Pokey ・伝統的な玩具
2	好きな教科は何ですか	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や教科の違いを理解する。 ・英語で計算をして楽しむ。 <p>A-① B-②③④ C-② コミュニケーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Fifteen minus two makes... ・Six times seven makes... ・One hundred times ten... ・Twelve divided by four... 	<ul style="list-style-type: none"> ☆好きな教科は？ ☆Addition Game ☆Subtraction Game ☆かけ算九九ビンゴ
3	ビデオレターを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な英語を使って自分達のクラスや学校を紹介するビデオレターを作って楽しむ。 ・1年間の活動を振り返って ALT に感謝の気持ちを表す。 <p>A-① B-②③④ C-① コミュニケーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・My name is... ・I live in... ・I go to ...elementary school. ・I want be a teacher / nurse, etc. ・What English activities do you remember ? ・We had so much fun for English Activities. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆将来の夢を発表 ☆学校紹介 ☆児童の計画によるお別れ会 ♪ ☆児童が好きな英語の歌・ゲーム ・ビデオカメラ

高学年 年間指導計画

月	単元名 (活動時間)	目 標	言 語 材 料	備 考
		評 価 規 準		
4	好きな お寿司 とピザ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなものを伝える表現に慣れる。 自分の事を伝え、楽しく活動をする。 <hr/> A-① B-③ 個 の 確 立	<ul style="list-style-type: none"> What is your favorite sushi ? What do you like ? I like tuna. Here you are. Thank you. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ロットカードの指示でもち札を取り合うゲーム ♪Take Me Out To The Ball Game
5	スポーツを しよう	<ul style="list-style-type: none"> 好きなスポーツやその道具の言葉に慣れる。 得意な好きなスポーツを聞いたり伝えたりする。 <hr/> A-① B-①③④ コミュニケーションカ 個 の 確 立	<ul style="list-style-type: none"> What shall we play ? How about playing baseball ? Sounds good. Do you have a baseball glove? I'm good at playing baseball. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆カルタゲーム ☆ロールプレイ ♪Take Me Out To The Ball Game ・スポーツ、道具のカード
6	欲しいもの は どんな もの？	<ul style="list-style-type: none"> 欲しいものを表現する言葉に慣れる。 欲しいものを伝えたり、聞いたりする活動を楽しむ。 <hr/> A-① B-① コミュニケーションカ	<ul style="list-style-type: none"> What do you want ? Do you want a blue bicycle ? I want a slim mobile phone. What color do you want ? I want a pink T-shirt. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆同じ物を探すゲーム ☆インタビューゲーム ♪Take Me Out To The Ball Game
7	大きな数	<ul style="list-style-type: none"> 3～4桁の数の言い方に慣れる。 円とドルの違いを知り、慣れる。 数を使ったゲームや活動を楽しむ。 <hr/> B-① C-② A-① 広 い 視 野	<ul style="list-style-type: none"> How much is this ? It's 30 dollars. Can you discount ? Yes. How about 20 dollars ? 	<ul style="list-style-type: none"> ☆数字当てゲーム ☆値段あてクイズ ☆値引き競争 ♪Take Me Out To The Ball Game
9	中身は 何だ？ どっちが欲 しい？	<ul style="list-style-type: none"> 品物の特徴などを伝える言い方に慣れる。 すすんで尋ねようとする態度を育てる。 <hr/> A-①② B-②③ コミュニケーションカ	<ul style="list-style-type: none"> Is it big / long ? What color is it ? Is it good ? Yes, it's light. Which do you want ? 	<ul style="list-style-type: none"> ☆袋などに入っている物をあてるゲーム ♪Sing
10	新・ お店ごっこ (いくらで 売れるかな) (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 買い物の受け答えの仕方に慣れる。 相手と楽しく関わろうとする態度、自分の考えをすすんで伝えようとする態度を育てる。 <hr/> A-①② B-①②③④ 個 の 確 立 コミュニケーションカ	<ul style="list-style-type: none"> May I help you ? Do you have a mobile phone ? Is it good ? Yes, of course. It's cool. How much is this ? Can you discount ? Come again, please. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆おつかいゲーム ☆交渉が必要なお店ごっこ ♪Sing ・商品のカード

11	いろいろな仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・職業の言葉、それに関する道具や場所の言葉に慣れる。 ・伝えたり聞いたりしてゲームを楽しむ。 <p>A-① B-②③ C-②</p> <p>広い視野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Show me your card, please. ・Sure, here you are. ・Thank you. ・Are you a firefighter ? ・Yes, I am. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆仕事あてカードゲーム ♪Sing ・外国で仕事をする人の写真カード
12	友達のいいところ、自分のいいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな有名人や友達のよいところを誉めあう。 ・自分の得意な事を伝える。 <p>A-① B-①②③</p> <p>個の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・You are kind. ・You can read a book well. ・I'm good at singing. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆人物当てゲーム ♪Sing ・特長を表すカード ・人物カード
1	世界の国	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの国の様子に興味をもつ。 ・外国文化や自然の表現方法になれる。 ・相手の言葉を聞き取ろうとする態度を育てる。 <p>A-① C-② B-①②</p> <p>広い視野</p>	<ul style="list-style-type: none"> up /down / left / right ・What country is this ? ・This is India. Where is it ? ・Here. ・This is the world heritage. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆地図で旅行 ☆世界遺産クイズ ☆ALTの話 ♪I'd Wish For Wings ・外国の写真カード
2	バレンタインデーって、なに？ (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・バレンタインデーに関する言語活動を積極的に行い、気持ちや考えを伝え合う。 ・バレンタインデーの由来や外国での様子に触れ、異文化に慣れ親しむ。 <p>A-①② B-②③④ C-②</p> <p>個の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Can I see your heart ? ・Sure. Do we match ? ・Yes, we match. / Too bad ! ・What are you making ? ・A flower. ・How about you ? ・A heart. ・Have some... 	<ul style="list-style-type: none"> ☆Broken Hearts ☆バレンタインデーの由来 ☆バレンタインスキットの発表会・鑑賞会 ♪I'd Wish For Wings ・チョコレート ・花
3	こんな人になりたいな (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の自分に夢をもち、自分の得意な事や就きたい仕事を伝えようとする。 <p>A-① B-①②</p> <p>コミュニケーション力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・I'm good at playing baseball. ・What do you want to be ? ・I want to be a baseball player. 	<ul style="list-style-type: none"> ☆カードゲーム ☆ほめっこ ☆ALTの話 ♪I'd Wish For Wings

評価規準（到達目標）年間一覧表

◆ 低学年

評価規準	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
広い視野：広い視野をもち、異文化の人々との共生を楽しんでいる。	○							○			
個の確立：主体性を発揮し、自己発見・自己実現を図っている。					○		○				
コミュニケーション力：積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。		○	○	○		○			○	○	○
A：コミュニケーションへの関心・意欲・態度											
①外国人や友達と進んでコミュニケーションを図っている。	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
②さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。									○		
B：コミュニケーション力											
①英語音の特徴を身に付けている。		○	○	○		○					○
②相手が伝えようとすることを理解している。		○	○	○	○		○		○	○	
③自分の気持ちや考えを発話している。		○	○				○		○	○	
④英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。	○				○		○			○	
C：言語や文化についての関心・理解・態度											
①外国の人や言葉に興味をもっている。	○			○		○		○			
②言語や文化・生活について理解している。								○			

◆ 中学年

評価規準	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
広い視野：広い視野をもち、異文化の人々との共生を楽しんでいる。			○		○			○	○		
個の確立：主体性を発揮し、自己発見・自己実現を図っている。	○			○		○					
コミュニケーション力：積極的に自己発信し、実践的コミュニケーションを図っている。		○					○			○	○
A：コミュニケーションへの関心・意欲・態度											
①外国人や友達と進んでコミュニケーションを楽しんでいる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。	○		○		○				○	○	○
B：コミュニケーション力											
①英語音の特徴を身に付けている。	○	○	○		○	○					
②相手が伝えようとすることを理解している。	○	○	○	○		○	○	○		○	○
③自分の気持ちや考えを発話している。		○	○	○		○	○	○	○	○	○
④英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。				○			○	○	○	○	○
C：言語や文化についての関心・理解・態度											
①外国の人や言葉に興味をもっている。		○	○			○		○			
②言語や文化・生活について理解している。					○		○		○	○	○

◆ 高学年

評 価 規 準	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
広い視野：広い視野をもち、異文化の人々との共生を楽しんでいる。				○			○		○		○
個の確立：主体性を発揮し、自己発見・自己実現を図っている。	○	○				○		○		○	○
コミュニケーション力：積極的に自己発信し実践的コミュニケーションを図っている。		○	○		○	○					○
A：コミュニケーションへの関心・意欲・態度											
①外国人や友達と進んでコミュニケーションを楽しんでいる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②さまざまな工夫をすることでコミュニケーションを続けようとしている。					○	○				○	
B：コミュニケーション力											
①英語音の特徴を身に付けている。		○	○	○		○		○	○		○
②相手が伝えようとすることを理解している。					○	○	○	○	○	○	○
③自分の気持ちや考えを発話している。	○	○			○	○	○	○		○	○
④英語特有のコミュニケーションの仕方を身に付けている。		○				○				○	
C：言語や文化についての関心・理解・態度											
①外国の人や言葉に興味をもっている。											
②言語や文化・生活について理解している。				○			○		○	○	

3. 小学校英語教育の目標と評価規準に拠る評価の研修

ここまでに掲載した英語活動指導案のうち、「これ なーんだ?」「世界のファーストフード」「新・お店ごっこ」の3つについて実際に授業を行い、次の観点から授業の検証・評価を行った。

1. あらかじめ設定した到達目標（評価規準）を全うする授業となっているかどうか。
2. 評価規準そのものが、学校教育目標との関連や児童の実態との関連において妥当であるかどうか。

具体的な評価手順とその内容について、中学年「世界のファーストフード」を例にとって説明する。

単元名「世界のファーストフード」第4時

本時のねらい：買い物の英会話を身に付け、それを発揮して、意欲的にお互いの気持ちや考えを伝え合うコミュニケーション力を養う。

本時の評価規準：買い物に役立つ表現やコミュニケーションの仕方を身に付けている。

外国の人や食文化に関心をもち、自信をもって英語で買い物をしている。

- ・ 授業後に、授業者及び参観者全員が集まり、検討会を設けた。まず、それぞれが児童の様子や授業法などについて、気づいたことを発表した。
- ・ 次に到達目標が達成されていたかどうか、それぞれが判定した。おのおのの評価者は、到達目標である評価規準に照らして授業を見とり、その達成度について「おおむね満足」かどうか評価した。評価者全員は「おおむね満足」という評価をし、本時の評価規準を全うしていた。
- ・ さらに授業者及び参観者全員で学校教育目標を確認し、本時の活動・評価規準が学校教育目標のどの部分につながっていたかを検討した。

学校教育目標

☆夢や希望にむかって愛と英知をもち、たくましく生きる心豊かな児童の育成。

- 協力し合う子
- 学びとる子
- やりぬく子

本時の到達目標（評価規準）

- 買い物に役立つ表現やコミュニケーションの仕方を身に付けている。
- 外国の人や食文化に関心をもち、自信をもって英語で買い物をしている。

- ・ この研修では、評価者の経験年数などによって、見解が分かれる場面も見られた。それゆえ、この種の研修の必要性が求められる。
- ・ さらに、授業内容をビデオ撮影し、後日委員会で内容を確認した。ビデオでは、多くの児童が主体的に活動する様子や、授業時には目の届きにくい個々の児童の変容ぶりを確認することができた。

【ビデオによる検証内容】

- 総じて男子の活動ぶりがよく確認された。
 - 英語活動以外では消極的でおとなしいとされている男子の場合、授業の前半の活動では、発言はなかったが、ALTの言葉を注意して聞こうとし、すぐに反応している様子が見えた。さらに後半の活動では、小さい声ながらも、自ら発言している様子を見とることができた。
 - 別の男子も普段の授業では消極的と見られているが、英語活動においては、主体的に発言し、活動に参加している様子を確認することができた。
 - さらに別の男子は、担任の助けを得ながら、自ら役割交代を申し出る英語を使うことができていた。
- ・ 以上の検討から、今回設定した評価規準が学校教育目標につながるものであり、かつ児童の実態に即したものであることが確認できる。
 - ・ 評価規準によって授業評価をすることは、英語活動を通して積極的になっていく児童の変容について客観的に見とることにつながることを確認した。

さらに、この客観的な見とりによって、英語教育で育まれる資質や能力を的確にとらえることができ、学校教育目標全体の中での英語教育の位置づけや、そのねらいを定める上で非常に重要な情報が得られることを確認した。

4 章
資料編

1. アンケート調査結果

調査の概要

1. 研究目的

本研究は、日本の小学校英語活動に相応しい教材とシラバスを開発することを目的とする。

2. 本調査の対象

全国の市区町村立小学校における国際理解教育、英語活動の研究開発学校を中心に、その周辺校及び、教育特区校。（合計1031校）

3. 調査方法

調査票によるアンケート調査（郵送による配布・回収）

4. 調査期間

平成15年11月～12月

5. 結果のまとめ

教材とシラバスの開発に資する資料を得るために、英語活動の成果や課題についての具体的な記述を中心にまとめた。

（実施状況の集計結果については、この冊子の後半にまとめている。）

6. 回答状況

回収率

発送	回収	回収率
1031校	500校	48.5%

アンケート回答校の内訳

研究校	先進校	その他	総計
63	88	349	500

先進校とあるのは、『小学校英語教育A to Z』（開隆堂発行）の中で、「先進校」として紹介されている学校。
研究校は、当研究会調べ。（2002年10月現在）

アンケート記入者の内訳

	研究校	先進校	その他	総計
教務主任	9	25	75	109
研究主任	19	15	38	72
英語専任教員		4	6	10
教務主任、研究主任	1	2		3
教務主任、研究主任、英語選任教員			1	1
教務主任、英語選任教員	1			1
研究主任、英語選任教員			1	1
その他	32	40	198	270
無回答	1	2	30	33
総計	63	88	349	500

回答者・記述回答の内訳

内容	回答数
国際理解教育担当	64
英語活動担当	54
学級担任	25
英語活動主任	20
総合的な学習の時間主任	20
国際理解教育主任	16
教頭	15
総合的な学習の時間担当	12
学年主任	6
ALT担当	5
その他	57
合計	274

- ※1 合計が274となっているのは、「教務主任」「研究主任」「英語選任教員」を選択し、かつその他の欄に記入した回答者がいるため。
- ※2 「英語活動」には「英語」「英語教育」「英会話」なども含む。
- ※3 複数の校務分掌が記入されている場合には、もっとも英語活動に関連していると思われる分掌のみを取り上げた。
- ※4 「その他」の中には、「一般教員」とのみ記入されているものや、英語活動と直接関わりの少ないと思われる少数回答（児童会担当など）を含む。

小学校英語活動に関する実施状況調査 質問内容

1 小学校英語活動について

- ① 貴校の英語活動実施状況についてお尋ねいたします。適するものの□に✓をつけてください。
□実施している () 年目 □実施していない
→実施している場合、該当学年をお書きください。() 年
→実施していない場合、実施する予定はありますか? □有 □無

2 英語活動を実施している学校

- ① 年間カリキュラムは作成されていますか? 適するものの□に✓をつけてください。
□作成している □作成していない
→作成している場合、年間カリキュラムは誰が作成していますか?
□学校全体で □各教育委員会 □ALT派遣業者 □個人の教師 □その他
- ② 貴校における英語活動の実施年数は何年目ですか?
- ③ 貴校の英語活動の時間数は年間何時間ですか? 年間時数(1時間は45分で換算)でお答えください。
→活動の実施方法は? □集中型 □分散型 □その他
- ④ ALTの派遣の有無、また、有りの場合、配当時間・学級数についてお答えください。
- ⑤ 現在、お使いの教材について何か要望や不満がありますか? 要望や不満について具体的にお書きください。
- ⑥ 学校英語活動として、今まで実施してよいと思った活動及び、今後実施してみたい活動はどのようなものですか? 適するものの□に✓をつけてください。(複数回答可)
□カードなどを使う室内ゲーム □体を使うゲーム □スキットのような会話や劇
□工作的活動 □音楽を使う活動 □交流などイベント的活動 □視聴覚教材を使った活動
□ロールプレイ(模擬体験) □その他
- ⑦ 英語活動を行う際、使いたい教具は何ですか? 適するものの□に✓をつけてください。(複数回答可)
□CD □テープ □ビデオ □DVD □CD-ROM □掛図・ポスター □テキスト
□教師用カード □児童用カード □ワークシート □その他
- ⑧ 小学校英語活動の評価の観点はどのようなものをお考えですか? 適するものの□に✓をつけてください。(その他は具体的にお書きください。)
□国際理解に関するもの(人権尊重・異文化理解等の広い視野)
□資質に関するもの(関心・意欲・態度) ex. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
□能力に関するもの(相手の言うことを聞きとったり、自分の気持ちを伝えたりする能力)
□その他
- ⑨ 英語活動の実践によってどのような成果が認められますか? 具体的にお書きください。
- ⑩ 英語活動で児童のどのような資質や能力を育みたいとお考えですか? 具体的にお書きください。
- ⑪ 小学校英語活動に対して疑問または課題をおもちですか? 具体的にお書きください。
- ⑫ 英語活動をしていて、困ることはどんなことですか? 具体的にお書きください。

記述回答の分析

※集計と分析方法

質問⑤、⑨～⑫に対する記述回答を、回答内容の類型に分けて集計した。

類型ごとに特に多かった回答や特徴的な回答を、回答校数の多い順に列挙した。

質問⑤ 「現在お使いの教材について何か不満や要望がありますか」に対する回答

1. 教材の内容について (67校)

- ・ (大きさ、教師用と児童用のセット、種類など) 学校の授業で使いやすいカードがほしい。
- ・ 使いやすい (歌や単語などの) CD の種類が少ない。
- ・ 市販の教材は (学校や児童の実態にあわず) 使いにくい。
- ・ カタログでは内容がわからないので、購入しにくい。
- ・ 1年から6年までの系統性のある教材がほしい。

2. 自作教材について (52校)

- ・ 自作しているので特に問題はない。
- ・ 自作するための時間がない (時間がかかる、負担が大きい)。
- ・ 自作なので、教材の種類が足りなくなる。
- ・ 現在は自作だが、今後検討したい。

3. 価格・予算について (15校)

- ・ 価格が高い (ので、児童用を十分にそろえられない)。
- ・ 予算措置がないので購入しにくい。

<その他の回答例>

- ・ ALT が用意しているので特に問題はない。
- ・ 教材は特に使っていない。
- ・ 学級で使用するだけの数が不足している。
- ・ 教材をさがしたり、作成するのが大変である。
- ・ 教材の種類がまだまだ不足している。

質問⑨ 「英語活動の実践によってどのような効果が認められますか」に対する回答

1. 英語に対する態度 (192校)

- ・ 英語に対する興味・関心が高まった。英語に親しむ姿勢が培われた。
- ・ 「英語ができる!」「英語を知っている!」という自信がついてきた。
- ・ 活動時間中だけでなく日常生活の中でも習った英語を積極的に使おうとするようになった。
- ・ 英語の発音を意識するようになった。
- ・ 抵抗無く、自然と英語に親しむようになった。
- ・ 英語活動の時間を楽しみにするようになった。

2. 外国人に対する態度 (151校)

- ・ (物怖じせず) 外国人 (主に ALT) に英語を使って何かを伝えたいと思うようになってきた。
- ・ (見知らぬ) 外国人に話しかけられても、コミュニケーションが図れるようになった。
- ・ 外国人や異文化に対する興味・関心が高まった。

3. その他態度面 (141校)

- ・ (学校生活に限らず多方面で) 積極的な態度が見られるようになった。
- ・ 恥ずかしがらずに (言葉だけでなくジェスチャーも交えて) 自己表現できるようになった。
- ・ 明るく挨拶するようになった。
- ・ (クラス内を含めて) 友達関係が良くなった。
- ・ (国籍に関係なく) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育った。
- ・ 多様なものの見方・考え方ができるようになった。
- ・ 他教科とは違って、のびのびと学習できるようになった。

4. 国際理解 (119校)

- ・ 異文化 (や歴史、言語など) に対する興味・関心が高まった。
- ・ 自国の文化や言葉と比較して (その良さを改めて実感し) 考えられるようになった。
- ・ 自他の違いを認め、思いやりの心をもって人と接するようになった。
- ・ 外国の小学校とメール交換などを通して学びあう楽しさが実感できるようになった。
- ・ 外国の事情・出来事にも興味を持つようになった。
- ・ 国際感覚が身に付いてきた。(視野が広がり、偏見を持たず、相互理解できる姿勢)

5. 話す力 (50校)

- ・ あいさつなど簡単な日常会話ができるようになった。
- ・ (自然に) 正しく発音することができるようになった。
- ・ 英語を恥ずかしがらずに言えるようになった。
- ・ 身近な英語を覚えて、英会話で積極的に使おうとするようになった。
- ・ 普段の生活の中で、自然に英語を使うようになった。

6. その他能力面 (48校)

- ・ 日常英会話力がついてきた。
- ・ 語彙力がついてきた。
- ・ 集中力がついてきた。
- ・ (言葉だけでなくジェスチャーも交えた) コミュニケーション能力がついてきた。
- ・ 英語 (主にアルファベット) を書く力がついてきた。

7. 聞く力 (26校)

- ・ リスニング力がついてきた。
- ・ リズム・イントネーションなど、英語の音を聞き分けられるようになってきた。
- ・ 耳が鍛えられて、ある程度の量の英語を抵抗無く聞くことができるようになった。
- ・ 耳から入ったものを自然に発することができるようになった。
- ・ 集中して人の話が聞けるようになった。

8. 言語に対する態度 (23校)

- ・ 言語に対する興味・関心が高まった。
- ・ 外国語に対する抵抗感を無くし、親しもうとする態度が培われてきた。
- ・ 言語の違いから異文化を知ろうとするようになった。
- ・ 言葉だけでなく、表情や動作でのコミュニケーションの大切さが分かるようになった。
- ・ 言語感覚が身に付いてきた。

質問⑩「英語活動で児童のどのような資質や能力を育みたいとお考えですか」に対する回答

1. コミュニケーション能力 (205校)

- ・ (言葉だけでなくジェスチャーも交えて) 積極的にコミュニケーションを図っていける力。

※ 「コミュニケーション能力」としてまとめた回答の例

「自分の気持ちを(言葉や体、絵などで)伝え、相手の事を理解する能力」「コミュニケーションを図るために必要な自分の考えや意見を持ち、自分の言葉や表現で発信する事ができる力」「違いを認め尊重して相手の話を聞き取り、自分の考えを適確に伝え、共に高めあっていく事のできる力」「英語を聞き、ジェスチャーや簡単な単語で気持ちを伝える能力」「人と積極的に意思の疎通を図れる能力」「異なる文化や習慣を持つ相手に差別感を持たず、飛び込んでいける力」など。

- ・ 国際理解 (179校)

※ 「国際理解」としてまとめた回答の例

「異なる文化や習慣をもった人々を認め、尊重し、受け入れようとする気持ち」「自ら異文化に興味を持ち、外国の文化や習慣について積極的に調べて知ろうとする態度」「自国の文化の素晴らしさを認識し、外国に広めようとする姿勢」「異文化や外国人に触れることによって、様々な人々を大切にしようとする態度」「世界の人々と共生していこうとする姿勢」「国際社会の一員として多様な文化や価値観を理解する資質や能力」「日本と諸外国の共通点や相違点を知り、互いを尊重する大切さを学ぶ姿勢」など。

- ・ 異文化理解。
- ・ 人権尊重。

2. コミュニケーション態度 (175校)

- ・ (言葉だけでなくジェスチャーも交えて) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度。

※ 「コミュニケーション態度」としてまとめた回答の例

「自他の考えを大切にし、互いを思いやる心」「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」「人と関わろうとする態度」「異なる文化や習慣を持った人々を認め尊重し、受容する心」「何とかして分かるよう、伝えようとする気持ち」「誰とでも仲良くしようとする気持ち」「人と人のかかわり方について偏りなく柔軟に相手を思いやる態度」「相手と円滑に関わろうとする態度」「自他を尊重し、豊かな人間関係を築こうとする態度」など。

3. その他能力面 (90校)

- ・ 英語を聞き分ける力。リスニング力。
- ・ (豊かな) 自己表現力。
- ・ (簡単な) 英会話力。
- ・ 正しい発音。
- ・ 語彙力。
- ・ 問題解決能力。

4. その他態度面 (72校)

- ・ 言葉は分からなくても、物怖じせずに外国人と接しようとする態度。
- ・ 英語を楽しもうとする姿勢。
- ・ 社会的視野を広げようとする姿勢。
- ・ もっと日常で英語を使おうとする態度。
- ・ 何事にも挑戦していこうとする態度。
- ・ 学習を楽しむ態度。学習意欲。
- ・ 進んで人と関わろうとする態度。共生心。

質問⑩「小学校英語活動に対して疑問または課題をお持ちですか」に対する回答

1. カリキュラム (115 件)

- ・ 中学校内容につながるカリキュラムの編成。
- ・ 教科化を意識したカリキュラムの編成。
- ・ 高学年の児童の意欲を高めるような内容の検討。
- ・ 「読む」「書く」力も育てる内容の検討。
- ・ (1～6年までの各発達段階に応じた) 系統性のあるカリキュラムの編成。
- ・ 明確な目標・ねらいの設定。
- ・ 地域で統一したカリキュラムの作成。
- ・ 校内の年間カリキュラムの作成。

2. 指導者 [ALT 以外] (74 件)

- ・ 英語専科教員の確保。
- ・ 担任の英語力不足。
- ・ 英語活動に対する教員の認識(熱意)の違い。
- ・ 教員の指導力。(ALT 無しでも授業が可能な指導力)
- ・ 教員以外のボランティアなどの指導者の確保。
- ・ しっかりした教員研修。(全員参加できるようなワークショップなど)

3. 中学校との絡み (69 件)

- ・ 小学校間の取り組みの差。(中学に進学したときに問題にならないか)
- ・ まだ教科になっていないのに、中学英語の前倒しの内容を求められること。
- ・ 小中連携したカリキュラム作成。
- ・ 小学校と中学校のギャップ。(楽しい英語から文法中心の英語へ)
- ・ 小学校から大学までの英語教育の流れ。
- ・ 高学年内容と中学へのつなぎ方。
- ・ 小学校で学習したことが中学校での学習と重複した場合の児童への影響。

4. 指導者 [ALT] (46 件)

- ・ ALT と担任、その他講師との連携。コミュニケーション・時間不足。
- ・ ALT 任せの授業。
- ・ ALT の確保。(人数的にも、期間的にも)
- ・ 英語を母語としない ALT。(発音の訛りの問題など)
- ・ ALT の素質。(性格、指導の力量など)
- ・ ALT と子どもとの触れ合いの機会の少なさ。

5. 時間数 (45 件)

- ・ 低学年の授業数の確保。
- ・ 地域によって取り組みが違いすぎるので、統一した時間数を決めて欲しいこと。
- ・ 5分か10分でもいいので毎日継続できる活動にしたいこと。
- ・ 授業として1時間位置付けて欲しいこと。
- ・ 時間数の不足。(他教科の基礎・基本の重視などから)

6. 教材 (28 件)

- ・ 高学年の児童の学習意欲を高めるような教材。
- ・ 教材・教具の不足。
- ・ 教材・教具の準備時間の不足。
- ・ 誰にでも (主体的に) 使える教材の開発。
- ・ 教科書が欲しいこと。

7. 文字の導入 (28 件)

- ・ (中学との連携を考えた) 文字の導入方法・導入時期。
- ・ 「書く」ことにあまり拘りすぎると英語嫌いを作ってしまうのではないか、ということ。

8. 教科化について (24 件)

- ・ 英語科として積極的に取り組んでいかなければならないこと。

※ 理由の例

「学校や地域によって取り組み方があまりに違うから統一して欲しい」「更なるグローバル化に対応するために早い段階から教科として位置付け、発達段階に即して身につけさせるべき」「英語が使える日本人の育成を図るため」など。

- ・ 教科にしてはならないこと。

※ 理由の例

「あくまでも日常生活で英語を楽しむ遊び的な扱いにすべき」「教科にして評価まですることに疑問を感じる」「小学校のうちは学習にしていまいたくない」など。

- ・ 英語科と英語活動の違いが分からないこと。

9. 成果 (22 件)

- ・ 定着を図るための手段が分からないこと。
- ・ 日常に生かすチャンスが少ないこと。
- ・ 具体的に子ども達に身に付いたことは何なのかが漠然としていること。
- ・ 楽しむ事は出来るが能力面で定着していないこと。
- ・ 培ってきたものをどう持続・発展させていくか、ということ。

10. 評価 (17 件)

- ・ 英語能力の評価方法。
- ・ (教科化されて) 4 技能の規準が定められ、少ない時間数で成果を求めると子どもに負担がかかってしまうこと。
- ・ (活動全体の) 評価のあり方。

11. 国語 (日本語) との絡み (14 件)

- ・ 正しい日本語が使える (自己表現できる) ように指導する事が先決であること。
- ・ 英語熱が高まり、国語や日本の伝統文化が軽視されていること。

<その他の回答例>

- ・ 理解力の差が大きいこと。(特に英会話教室に通っている児童とそうでない児童)
- ・ 英語の必要性をもっと児童に感じて欲しいこと。
- ・ 英語至上主義に陥らないか、ということ。
- ・ まず最初に自分で考え、判断する力をつけなければいけないこと。
- ・ 学習意欲の持続が難しいこと。(特に高学年)

- ・ 40 人学級の中で教師が 1～2 人ついて行う言語活動に疑問を感じることに。
- ・ 文部科学省から早く明確な指針を出してもらいたいこと。

質問⑫「英語活動をしていて、困ることはどんなことですか」に対する回答

1. 指導者〔ALT 以外〕(149 件)

- ・ 担任の英語力不足。(特に発音の悪さ)
- ・ 担任中心で行っているため、ALT の希望を取り入れにくいこと。
- ・ 英語活動の経験の無い教師が異動してきて担任を持った場合に戸惑ってしまうこと。
- ・ 担任のみの授業がうまくいかないこと。(1 時間もたない)
- ・ しっかりした教員研修が無いこと。(指導力・英語力を高めるため)
- ・ 英語活動に対する教員の認識(熱意)の違い。
- ・ ALT との TT がうまくいかないこと。(特に打ち合わせ時間の不足)
- ・ 英語教育について専門的な内容を相談できる人が身近に居ないこと。
- ・ ALT の授業に対して口出しできないこと。
- ・ 普通教科以上に負担が大きいこと。(特に事前準備など)
- ・ 英語を教え込んでいくようになってきたこと。
- ・ 英語専科教員の確保。(核となって推進していく人材)
- ・ ボランティアに来てもらっても予算の関係上、交通費も出せないこと。
- ・ 教師が楽しむことができるようになってもらいたいこと。
- ・ 指導者の確保。(保護者や地域の方からのボランティアを含む)

2. 指導者〔ALT〕(138 件)

- ・ ALT と担任、その他講師との連携。コミュニケーション・時間不足。
- ・ ALT 任せの授業。
- ・ 全学年に ALT がついて欲しいこと。
- ・ ALT の素質(性格、指導の力量、日本語力など)によるところが大きいこと。
- ・ ALT の確保(人数的、金銭的、期間的にも)が難しいこと。
- ・ 外国人の躰が日本人のものと違うので戸惑うこと。
- ・ ALT が常に授業に参加してくれないこと。
- ・ ALT がこちらの意図を汲んで動いてくれないこと。
- ・ ALT 向けの研修を充実させて欲しいこと。
- ・ 活動中に ALT の英語をどの程度訳したらいいのか、ということ。

3. 教材(61 件)

- ・ 誰にでもすぐ使いこなせる教材・教具。
- ・ 指導に即したテキストや評価資料。
- ・ 教材づくり・研究の時間不足。
- ・ 教材・教具不足。
- ・ 教師が悩まず取り組めるような視聴覚教材(ビデオ、テレビ)。
- ・ ピクチャーカード作り。
- ・ 教科書が欲しいこと。
- ・ 教材を購入したいが、予算が無いこと。
- ・ 手作りした教材を保管して次年度のために整理しておくのが大変だということ。

- ・ 高学年向けの教材。

4. カリキュラム (47 件)

- ・ 高学年の児童の意欲を高めるような内容。
- ・ 系統性のあるカリキュラム作成。
- ・ レッスンプランを（一人で）作成するのが大変である。時間がかかること。
- ・ きちんとしたカリキュラムを作成できる人材が居ないこと。
- ・ （市や県で）統一されたものが無いので、学校によって偏りがあること。（中学校への影響）
- ・ 児童に能力差が有りすぎてカリキュラムを立てにくいこと。
- ・ 中学英語につながるようなカリキュラム。

5. 時間数 (24 件)

- ・ 英語活動の時間数の確保。
- ・ 学校行事との関連・時間の組み入れ方。
- ・ 英語活動のために他教科に齧寄せがくること。
- ・ 低学年の授業数の確保。

6. 中学校との絡み (8 件)

- ・ 中学英語との関連をどう図っていくか、ということ。
- ・ 中学英語との差別化。
- ・ 理解に個人差が出てくるので中学入学前に英語嫌いを作ってしまうこと。
- ・ 小学校間の取り組みの差が中学に進学したときに問題になること。

7. 評価 (8 件)

- ・ 指導に即した評価資料が必要。
- ・ 担任のチェックカードがうまく活用できていないこと。
- ・ 一人一人の評価が難しいこと。（特に基準の設定）
- ・ 英語活動として取り組むのか、教科として取り組むのかによって評価の観点が変わってくる
こと。
- ・ 時間数が限られている中で身に付いたことを評価していくのは難しいこと。

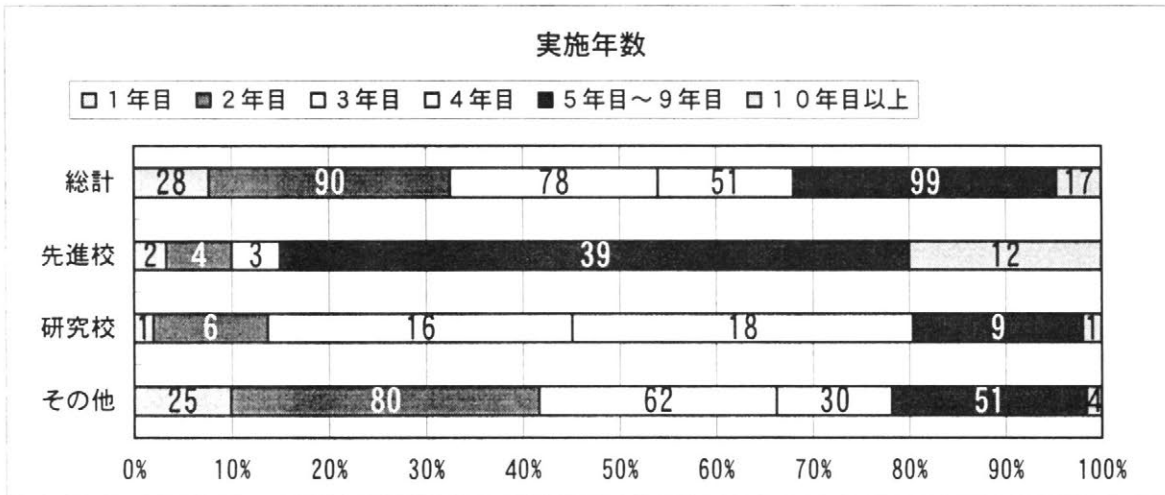
<その他の回答例>

- ・ 習っても実践する機会が少ないこと。
- ・ 片親の児童や他国籍の児童が傷つくような質問内容が含まれることがあること。
- ・ 言語学習は少人数の方が良いが、学校教育では難しいこと。
- ・ 高学年になるほど意欲が低下してくること。
- ・ 英語を習っている児童とそうでない児童との差が大きいこと。
- ・ 英語活動だけのための場所（教室）が無いこと。

選択肢回答の集計

英語活動の実施状況

	その他	研究校	先進校	総計
実施している	325	62	81	468
実施していない	23	1	5	29
無回答	1		2	3
総計	349	63	88	500

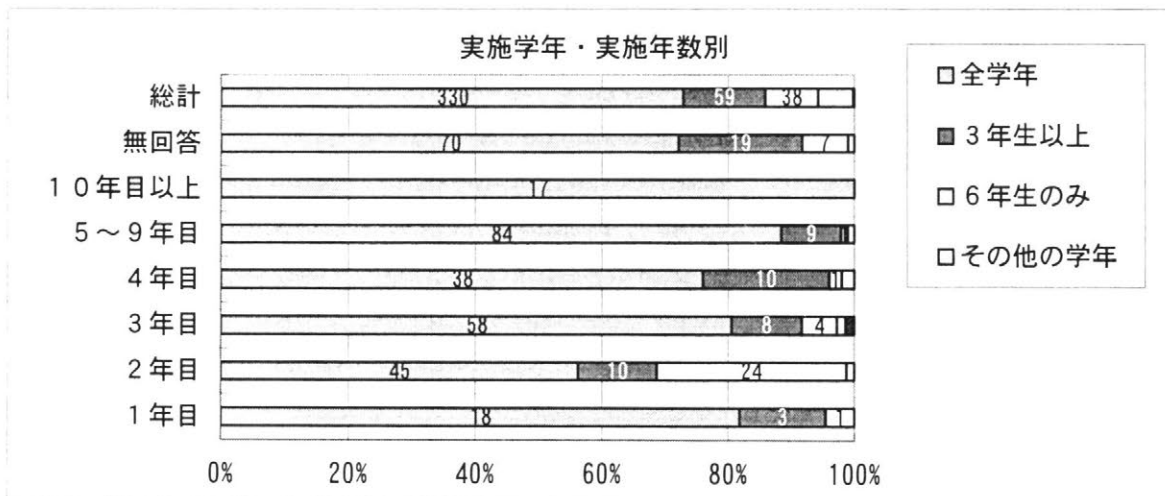


実施学年 学校類別

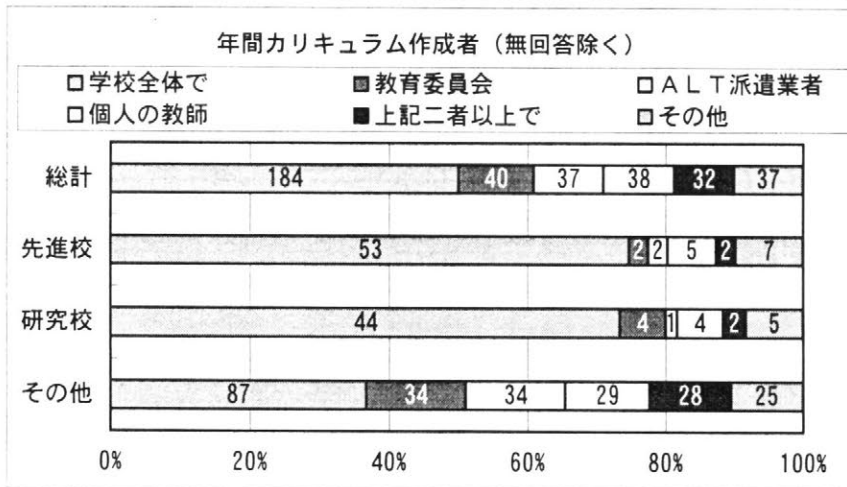
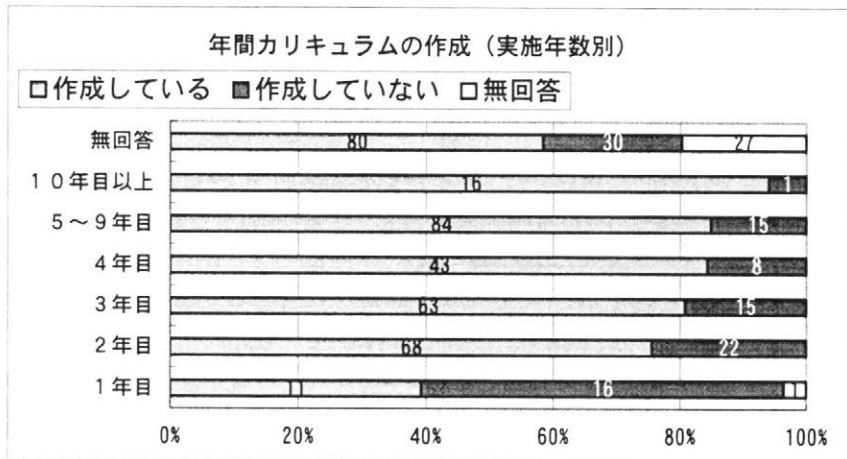
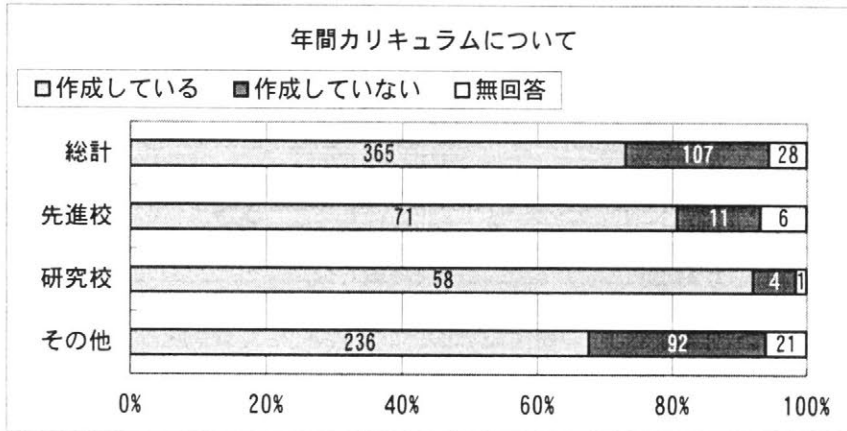
実施学年	その他	研究校	先進校	総計
全学年	204	58	68	330
3年生以上	46	3	10	59
6年生のみ	38			38
その他の学年	23	1	1	25
不定	1			1
無回答	37	1	9	47
総計	349	63	88	500

実施学年・実施年数別

実施学年	1年目	2年目	3年目	4年目	5～9年目	10年目以上	無回答	総計
全学年	18	45	58	38	84	17	70	330
3年生以上	3	10	8	10	9		19	59
6年生のみ	1	24	4	1	1		7	38
その他の学年		1	1	1	1		1	25
不定			1					1
無回答	3	3	1	1	3		36	47
総計	28	90	78	51	99	17	137	500

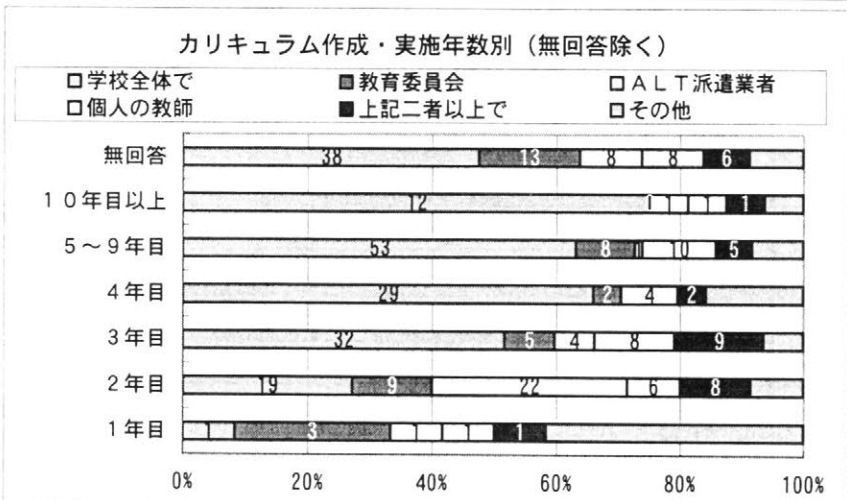


年間カリキュラムの作成



※主な記述回答

- 英語活動担当者 8
- 学年ごとに 8
- ALTと協力して 6
- 学校外と協力して 5



英語活動の年間時数(1時間は45分換算)

全回答校						
時間数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	97	97	41	42	45	8
0.5~9	123	118	110	111	98	88
10	72	71	36	35	36	34
11~19	60	64	59	62	69	57
20	22	21	45	41	35	32
21~30	16	16	33	35	42	45
31~34	21	16	15	16	18	16
35	22	29	82	82	79	139
36~68	11	9	27	27	28	30
70		1	3	3	2	3
71~	2	2	3	2	4	5
先進校						
時間数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	8	8		1	1	1
0.5~9	18	17	13	13	11	11
10	6	5	4	3	3	6
11~19	19	21	14	16	17	14
20	8	7	14	11	9	9
21~30	6	6	5	6	8	8
31~34	4	0	0	0	2	1
35	5	10	25	25	24	22
36~68	4	3	4	4	4	5
70			1	1		1
71~	0	1	1	1	2	2

研究校						
時間数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	4	4				
0.5~9	12	13	3	3	1	1
10	7	5	4	2	2	2
11~19	21	22	8	10	10	9
20	7	7	12	10	11	12
21~30	3	3	10	11	13	13
31~34	0	0	1	1	1	1
35	4	4	15	14	14	14
36~68	3	2	7	8	8	8
70		1	1	1	1	1
71~	0	0	0	0	0	0
その他						
時間数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	85	85	41	41	44	7
0.5~9	93	88	94	95	86	76
10	59	61	28	30	31	26
11~19	20	21	37	36	42	34
20	7	7	19	20	15	11
21~30	7	7	18	18	21	24
31~34	17	16	14	15	15	14
35	13	15	42	43	41	103
36~68	4	4	16	15	16	17
70			1	1	1	1
71~	2	1	2	1	2	3

英語活動の実施方法

実施方法	その他	研究校	先進校	総計
集中型	63	7	7	77
分散型	213	48	58	319
その他	14	3	10	27
集中型+分散型	7		2	9
集中+分散+その他	1			1
無回答	51	5	11	67
総計	349	63	88	500

ALTの派遣の有無

	その他	研究校	先進校	総計
派遣あり	308	62	82	452
派遣無し	17			17
無回答	24	1	6	31
総計	349	63	88	500

ALT配当時間

全回答校						
配当時間	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	132	131	97	87	71	18
~10	206	203	198	204	204	215
~20	62	63	78	79	82	76
~30	8	10	22	24	29	31
~40	17	17	31	36	43	99
40より多	7	7	13	13	15	16
無回答	68	69	61	57	56	45
合計	500	500	500	500	500	500
先進校						
配当時間	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	10	11	3	4	3	2
~10	35	33	30	27	24	29
~20	23	22	26	27	30	26
~30	2	4	8	9	10	10
~40	9	9	15	15	15	15
40より多	1	1	1	1	1	1
無回答	8	8	5	5	5	5
総計	88	88	88	88	88	88

研究校						
配当時間	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	6	6	1	1	1	0
~10	30	30	24	23	21	22
~20	18	18	18	18	20	20
~30	3	3	7	8	8	8
~40	2	2	7	7	7	7
40より多	2	2	4	4	4	4
無回答	2	2	2	2	2	2
総計	63	63	63	63	63	63
その他						
配当時間	1年	2年	3年	4年	5年	6年
0	116	114	93	82	67	16
~10	141	140	144	154	159	164
~20	21	23	34	34	32	30
~30	3	3	7	7	11	13
~40	6	6	9	14	21	77
40より多	4	4	8	8	10	11
無回答	58	59	54	50	49	38
合計	349	349	349	349	349	349

今まで実施してよと思った活動及び、今後実施してみたい活動(複数回答)

活動	合計	その他	研究校	先進校
回答校数	500	349	63	88
回答%	100	100	100	100
カードなどを使う室内ゲーム	428 85.6	297 85.1	57 90.5	74 84.1
体を使うゲーム	442 88.4	306 87.7	59 93.7	77 87.5
スキットのような会話や劇	236 47.2	150 43	42 66.7	44 50
工作的活動	91 18.2	60 17.2	11 17.5	20 22.7
音楽を使う活動	358 71.6	248 71.1	54 85.7	56 63.6
交流などイベント的活動	204 40.8	122 35	35 55.6	47 53.4
視聴覚教材を使った活動	190 38	125 35.8	33 52.4	32 36.4
ロールプレイ(疑似体験)	183 36.6	110 31.5	33 52.4	40 45.5
その他	7 1.4	2 0.6	2 3.2	3 3.4
無回答	29 5.8	21 6	1 1.6	7 8

記述回答
TPR(トータル・フィジカル・レスポンス)
チャンツ
ALTの話
ALTの国の話
英語でクッキング
伝統的な校歌をいろいろな人、国で紹介できたらいいな
自作英語ゲーム盤を使った活動
歌に出てくる単語から歌までパソコン(CD)とプロジェクターを使って楽しく練習できるCD(Genki English)

英語活動で使いたい教具(複数回答)

教材	合計	その他	研究校	先進校
全体回答%	500	349	63	88
	100	100	100	100
CD	411 82.2	283 81.1	59 93.7	69 78.4
テープ	159 31.8	112 32.1	19 30.2	28 31.8
ビデオ	265 53	178 51	41 65.1	46 52.3
DVD	106 21.2	74 21.2	16 25.4	16 18.2
CD-ROM	69 13.8	48 13.8	9 14.3	12 13.6
掛図・ポスター	247 49.4	182 52.1	30 47.6	35 39.8
テキスト	65 13	54 15.5	7 11.1	4 4.5
教師用カード	387 77.4	264 75.6	56 88.9	67 76.1
児童用カード	356 71.2	243 69.6	52 82.5	61 69.3
ワークシート	164 32.8	111 31.8	21 33.3	32 36.4
その他	24 4.8	15 4.3	5 7.9	4 4.5
無回答	36 7.2	28 8	1 1.6	7 8

記述回答
掲示物・絵本など
ピクチャーカード
絵本
紙芝居
など
実物・模型
実物の品物、\$、¢の模型
海外の生活用品
模型(果物・野菜)
など
映像・音声
教師一人のときはCDが必要
ビデオカメラ
リズムボックス
など
ゲーム類
ロールプレイに使う道具、
ゲーム
英語ゲーム盤
など
その他
ESL教材
とにかくありとあらゆる教材
がいい
オリジナル(ふり返しカード
など)
ネイティブスピーカーが一番

英語活動の評価の観点(複数回答)

評価の観点	合計	その他	研究校	先進校
全体回答%	500	349	63	88
	100	100	100	100
国際理解に関するもの	295 59	203 58.2	38 60.3	54 61.4
資質に関するもの	406 81.2	275 78.8	57 90.5	74 84.1
能力に関するもの	161 32.2	106 30.4	22 34.9	33 37.5
その他	7 1.4	5 1.4	1 1.6	1 1.1
無回答	33 6.6	24 6.9	1 1.6	8 9.1

2. 参考にした文献等

- 阿部フォード恵子（編著）. 2000. 『NEW Let's Sing Together SONG BOOK』. 東京：アプリコット.
- 国立教育政策研究所. 2004. 3. 『学習評価の工夫改善に関する調査研究』.
- 椎名仁. 2000. 『小学校「英語活動」』. 東京：ぎょうせい.
- 奈良橋陽子（監修）. 2002. 『25のゲームと15のダイアログ集』. 東京：ピアソン エデュケーション
- Pamela Conn Beall & Susan Hagen Nipp. 1986. 『Wee Sing』. LA: Price Stern Sloan, Inc.
- 文部科学省. 2001. 『小学校英語活動実践の手引』東京：開隆堂出版.
- 渡邊寛治（編著）. 2003. 9 『小学校英語指導の基礎・基本』 今日から始める実践課題の基礎・基本 No.3. 教育開発研究所.

ビデオ挿入曲

- 「Hello!」 阿部フォード恵子（監修）. 2000. 『NEW Let's Sing Together SONG BOOK』. 東京：アプリコット.
- 「The Hot Dog Song」 Carolyn Graham. 『Children's Jazz Chants Old and New』. UK : Oxford University Press.
Oxford University Press Japan homepage: www.oupjapan.co.jp
- 「Sing」 Words and Music by Joe Raposo
The rights for Japan assigned to FUJIPACIFIC MUSIC INC.